第Ⅰ部　大学院人文社会系研究科・文学部の概況

1. 大学院人文社会系研究科・文学部の沿革と機構

(1) 沿革

A　学部の沿革（年譜）

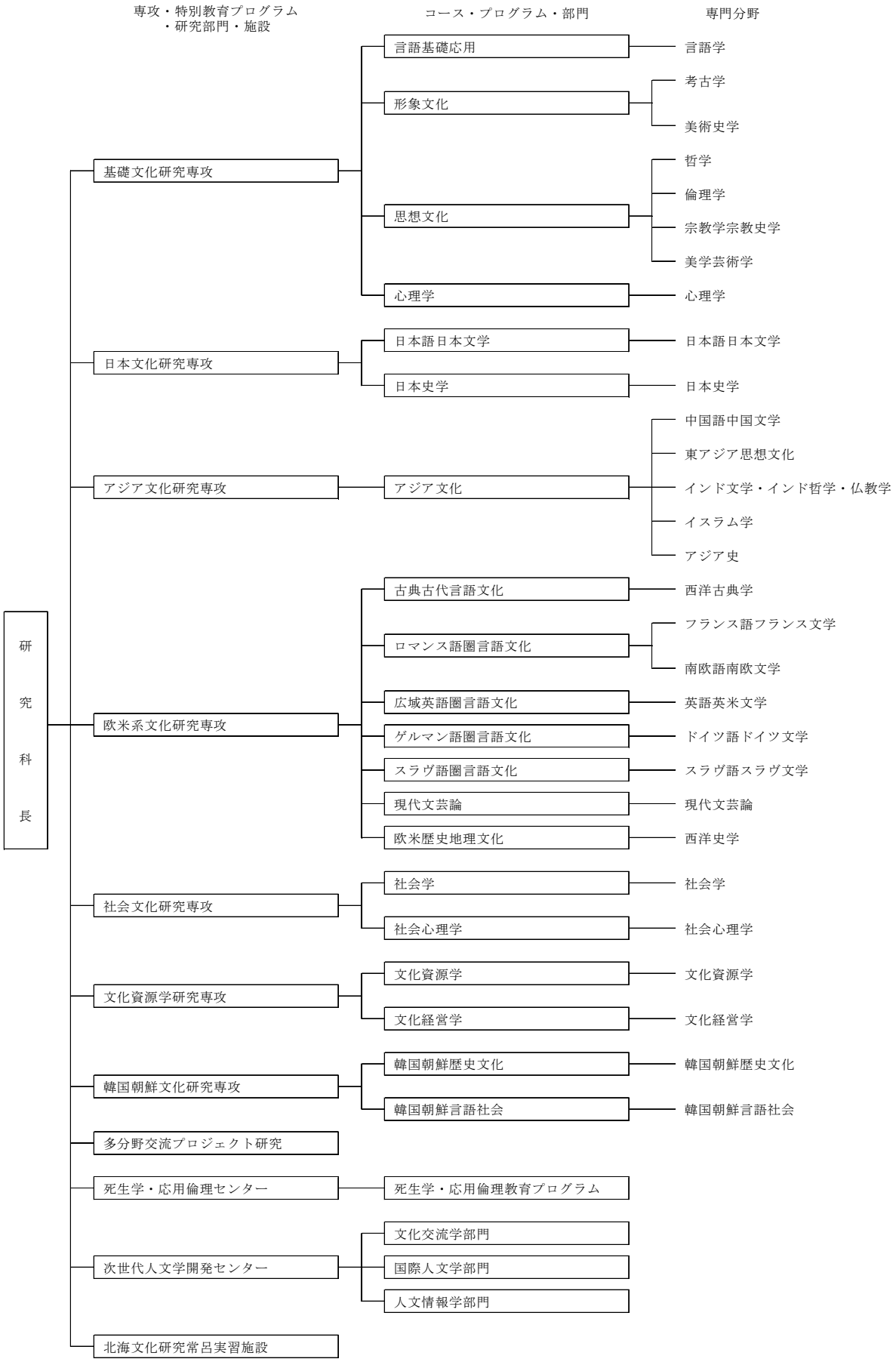
東京大学	文学部	明治10(1877)，4・東京大学設立	（2学科） 第一　史学，哲学及政治学科 第二　和漢文学科
		明治12(1879)，9 《明治13(1880)，7・第1回卒業生8名》	「第一　史学，哲学及政治学科」を『第一哲学政治学及理財学科』とする
		明治14(1881)，9	（3学科） 第一　哲学科 第二　政治学及理財学科 第三　和漢文学科
		明治18(1885)，12	（3学科） 第一　哲学科 第二　和文学科 第三　漢文学科 （政治学，理財学は法政学部へ編入 法政学部は翌年法科大学となる）
帝国大学	文科大学	明治19(1886)，3・帝国大学令	（4学科） 『第四　博言学科』を増設
		明治20(1887)，9	（7学科） 第一　哲学科 第二　和文学科 第三　漢文学科 第四　史学科 第五　博言学科 第六　英文学科 第七　独逸文学科
		明治22(1889)，6	（8学科） 『国史科』を増設 「和文学科」を『国文学科』とする 「漢文学科」を『漢学科』とする
		明治22(1889)，12	（9学科） 『仏蘭西文学科』を増設
		明治28(1895)，4	史料編纂掛設置
東京帝国大学		明治33(1900)，6	「博言学科」を『言語学科』とする
		明治37(1904)，9	（3学科） 哲学科 史学科 文学科
		明治43(1910)，9	（3学科　19専修学科） 第一　哲学科－哲学，支那哲学，印度哲学，心理学，倫理学， 宗教学，美学，教育学，社会学 第二　史学科－国史学，東洋史学，西洋史学 第三　文学科－国文学，支那文学，梵文学，英吉利文学， 独逸文学，仏蘭西文学，言語学
		大正6(1917)，9	「宗教学」を『宗教学宗教史』とする 「美学」を『美学美術史』とする
	文学部	大正8(1919)，4・帝国大学令改定（大正7(1918)，12・大学令制定にともない）	
		大正8(1919)，9 《大正10(1921)，4・学年暦変更「9月～7月」を『4月～3月』とする》	（19学科） 国文学，国史学，支那哲学，支那文学，東洋史学，西洋史学， 哲学，印度哲学，心理学，倫理学，宗教学宗教史，社会学， 教育学，美学美術史，言語学，梵文学，英吉利文学，独逸文学， 仏蘭西文学
		昭和4(1929)，7	史料編纂掛を史料編纂所と改称する
		昭和7(1932)，4 《昭和18(1943)，12・学徒出陣》	（17学科） 「支那哲学」「支那文学」を『支那哲学支那文学』とする 「印度哲学」「梵文学」を『印度哲学梵文学』とする
		昭和21(1946)，3 《昭和21(1946)，4・女子学生9名入学》	（3学科　21専修科） 哲学科－哲学，支那哲学，印度哲学，心理学，倫理学，宗教学， 社会学，教育学，美学，美術史学 史学科－国史学，東洋史学，西洋史学，考古学 文学科－言語学，国文学，支那文学，梵文学，英吉利文学， 独逸文学，仏蘭西文学 能率研究室　航空研究所より移管
東京大学		昭和23(1948)，4	「支那哲学」を『中国哲学』とする 「支那文学」を『中国文学』とする
		昭和24(1949)，4	（19学科） 国文学，国史学，中国哲学，中国文学，東洋史学，西洋史学， 哲学，印度哲学梵文学，心理学，倫理学，宗教学，社会学， 教育学，美学美術史，言語学，英吉利文学，独逸文学， 仏蘭西文学，考古学
		昭和25(1950)，4	「宗教学」を『宗教学宗教史学』とする 「美学美術史」を『美学美術史学』とする
			史料編纂所が文学部附属から東京大学附置研究所となる
		昭和26(1951)，4 《昭和26(1951)，4・教養学部より第1回新制学生進学》	（18学科） 「教育学科」を廃止する （昭和24年教育学部設立にともなう措置）

東京大学	文学部	昭和38(1963)，4	（4類　21専修課程） 第一類(文 化 学)－哲学，中国哲学，印度哲学，印度文学， 倫理学，宗教学，宗教史学，美学，美術史学 第二類(史　　学)－国史学，東洋史学，西洋史学，考古学 第三類(語学文学)－言語学，国語国文学，中国語中国文学， 英語英米文学，ドイツ語ドイツ文学，フラン ス語フランス文学，西洋近代語近代文学， 西洋古典学 第四類(心理学，社会学)－心理学，社会学
		昭和39(1964)，4	語学ラボラトリー設置
		昭和41(1966)，4	文化交流研究施設設置
		昭和42(1967)，4	第一類「美学」を『美学芸術学』とする
		昭和43(1968)，4	「第一類　美術史学」を『第二類　美術史学』とする
		昭和47(1972)，4	（4類　22専修課程） 『第三類　ロシア語ロシア文学』を増設
		昭和48(1973)，4	北海文化研究常呂実習施設設置
		昭和49(1974)，4	（4類　23専修課程） 『第四類　社会心理学』を増設
		昭和50(1975)，4	（4類　24専修課程） 第三類「国語国文学」を『国語学』『国文学』とする 「外国人留学生相談室」を開設
		昭和54(1979)，4	（4類　25専修課程） 『第三類　イタリア語イタリア文学』を増設 「第四類(心理学，社会学)」を『第四類(行動学)』とする
		昭和57(1982)，4	（4類　26専修課程） 『第一類　イスラム学』を増設
		昭和59(1984)，9	語学ラボラトリーを視聴覚教育センターと改称する
		昭和60(1985)，4	「外国人留学生相談室」を「国際交流室」に改称する
		昭和63(1988)，4	（4類　27専修課程） 第一類「印度哲学・印度文学」を『第一類　印度哲学』『第三類 印度語印度文学』とする
		平成4(1992)，4	能率研究室を認知科学研究室に改称する
		平成5(1993)，4	文化交流研究施設の拡充 基礎理論部門 朝鮮文化部門
		平成6(1994)，4	（4類　26専修課程） 第一類「中国哲学」，「印度哲学」を『第一類　中国思想文化学』， 『第一類　インド哲学仏教学』に， 第二類「国史学」を『第二類　日本史学』に， 第三類「印度語印度文学」，「ロシア語ロシア文学」，「イタリア語 イタリア文学」を『第三類　インド語インド文学』，『第三類 スラヴ語スラヴ文学』，『第三類　南欧語南欧文学』とし， 第三類「国語学」，「国文学」を『第三類　日本語日本文学』とする 文化交流研究施設の拡充 基礎理論部門 朝鮮文化部門 東洋諸民族言語文化部門
		平成7(1995)，4	第一類(文 化 学)を『思想文化学科』に改称 第二類(史　　学)を『歴史文化学科』に改称 第三類(語学文学)を『言語文化学科』に改称 第四類(行 動 学)を『行動文化学科』に改称
		平成19(2007)，4	思想文化学科「宗教学・宗教史学」を『宗教学宗教史学』に改称 言語文化学科「西洋近代語近代文学」を『現代文芸論』に改称
		平成28(2016)，4	4学科から1学科に改組
			（現在1学科　26専修課程） 人文学科 哲学，中国思想文化学，インド哲学仏教学，倫理学，宗教学宗教史学，美学芸術学， イスラム学，日本史学，東洋史学，西洋史学，考古学，美術史学，言語学， 日本語日本文学，中国語中国文学，インド語インド文学，英語英米文学， ドイツ語ドイツ文学，フランス語フランス文学，スラヴ語スラヴ文学， 南欧語南欧文学，現代文芸論，西洋古典学，心理学，社会心理学，社会学

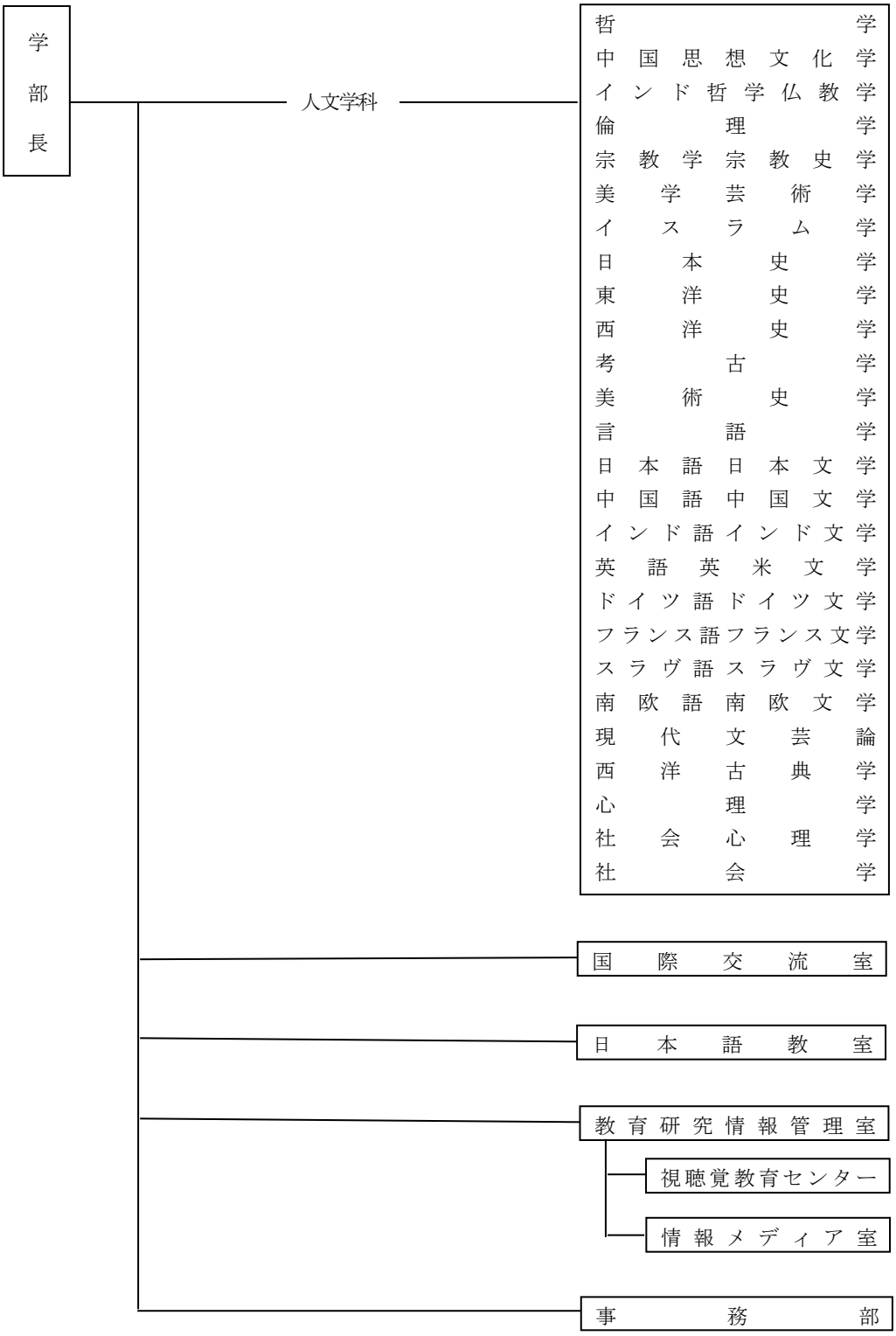
B　人文社会系研究科の沿革（年譜）

東京大学大学院	人文科学研究科	社会科学研究科	昭和28(1953)，4 東京大学大学院（新制）設立	人文科学研究科（24専門課程） 国語国文学，中国語中国文学，西洋古典学，英語英文学，独語独文学， 仏語仏文学，比較文学比較文化，言語学，国史学，東洋史学，西洋史学， 考古学，哲学，中国哲学，印度哲学，倫理学，宗教学宗教史学， 美学美術史学，心理学，教育学，教育心理学，学校教育学，教育行政学，体育学 社会科学研究科（10専門課程） 公法，民刑事法，基礎法学，政治，国際関係論，理論経済学経済史学， 応用経済学，商業学，農業経済学，社会学
		社会学研究科	昭和38(1963)，4 研究科の改編にともない，教育学研究科，法学政治学研究科，経済学研究科，社会学研究科設立	人文科学研究科（19専門課程） 国語国文学，中国語中国文学，西洋古典学，英語英文学，独語独文学， 仏語仏文学，比較文学比較文化，言語学，国史学，東洋史学，西洋史学， 考古学，哲学，中国哲学，印度哲学，倫理学，宗教学宗教史学， 美学美術史学，心理学 社会学研究科（2専門課程） 国際関係論，社会学
			昭和39(1964)，4	人文科学研究科（20専門課程） 美学美術史学専門課程を改組し，『美学専門課程』，『美術史学専門課程』設置
			昭和40(1965)，4	社会学研究科（3専門課程） 『文化人類学専門課程』設置
			昭和42(1967)，4	人文科学研究科（20専門課程） 「美学専門課程」を『美学芸術学専門課程』に改称
			昭和49(1974)，4	人文科学研究科（21専門課程） 『露語露文学専門課程』設置
			昭和51(1976)，4	社会学研究科（4専門課程） 『社会心理学専門課程』設置
			昭和58(1983)，4	人文科学研究科（20専門課程） 比較文学比較文化専門課程を総合文化研究科に振替 社会学研究科（3専門課程） 国際関係論専門課程を総合文化研究科に振替
			昭和60(1985)，4	人文科学研究科（20専門課程） 印度哲学専門課程を『印度哲学印度文学専門課程』に改称
			昭和62(1987)，4	専門課程を専攻に変更
			昭和63(1988)，4	社会学研究科（2専攻） 文化人類学専攻を総合文化研究科に振替
	人文社会系研究科		平成7(1995)，4 人文科学研究科と社会学研究科の合流による再編にともない，人文科学研究科の『人文社会系研究科』への名称変更，社会学研究科の廃止	人文社会系研究科（5専攻） 基礎文化研究専攻 日本文化研究専攻 アジア文化研究専攻 欧米系文化研究専攻 社会文化研究専攻 『多分野交流プロジェクト研究』の設置
			平成12(2000)，4	人文社会系研究科（6専攻） 『文化資源学研究専攻』設置
			平成14(2002)，4	人文社会系研究科（7専攻） 『韓国朝鮮文化研究専攻』設置
			平成16(2004)，4	文化交流研究施設　東洋諸民族言語文化部門を『基礎文化研究専攻・言語応用コース・言語動態学専門分野』に改組 社会文化研究専攻・社会情報学コース・社会情報学専門分野を情報学環に振替
			平成17(2005)，4	文化交流研究施設を改組し，『次世代人文学開発センター』を設置
			平成19(2007)，4	欧米系文化研究専攻内に現代文芸論コース・現代文芸論専門分野を設置
			平成20(2008)，4	韓国朝鮮文化研究専攻を『韓国朝鮮歴史文化コース・韓国朝鮮歴史文化専門分野及び韓国朝鮮言語社会コース・韓国朝鮮言語社会専門分野』に改組
			平成21(2009)，4	『基礎文化研究専攻・言語基礎コース・言語学専門分野』と『基礎文化研究専攻・言語応用コース・言語動態学専門分野』を統合し，『基礎文化研究専攻・言語基礎応用コース・言語学専門分野』に改組 アジア文化研究専攻を改組し，『アジア文化研究専攻・アジア文化コース・中国語中国文学専門分野，東アジア思想文化専門分野，インド文学・インド哲学・仏教学専門分野，イスラム学専門分野，アジア史専門分野』を設置
			平成23(2011)，4	『死生学・応用倫理センター』の設置
			平成27(2015)，4	『文化資源学研究専攻・形態資料学コース・形態資料学専門分野』と『文化資源学研究専攻・文字資料学コース・文書学専門分野』と『文化資源学研究専攻・文字資料学・文献学専門分野』を統合し，『文化資源学研究専攻・文化資源学コース・文化資源学専門分野』に改組
				（現在　7専攻） 基礎文化研究専攻 言語基礎応用コース（言語学） 形象文化コース　（考古学，美術史学） 思想文化コース　（哲学，倫理学，宗教学宗教史学，美学芸術学） 心理学コース　（心理学） 日本文化研究専攻 日本語日本文学コース（日本語日本文学） 日本史学コース　（日本史学） アジア文化研究専攻 アジア文化コース（中国語中国文学，東アジア思想文化，インド文学・インド哲学・仏教学，イスラム学，アジア史） 欧米系文化研究専攻 古典古代言語文化コース　（西洋古典学） ロマンス語圏言語文化コース（フランス語フランス文学，南欧語南欧文学） 広域英語圏言語文化コース　（英語英米文学） ゲルマン語圏言語文化コース（ドイツ語ドイツ文学） スラヴ語圏言語文化コース　（スラヴ語スラヴ文学） 現代文芸論コース　（現代文芸論） 欧米歴史地理文化コース　（西洋史学） 社会文化研究専攻 社会学コース　（社会学） 社会心理学コース（社会心理学） 文化資源学研究専攻 文化資源学コース（文化資源学） 文化経営学コース（文化経営学） 韓国朝鮮文化研究専攻 韓国朝鮮歴史文化コース（韓国朝鮮歴史文化） 韓国朝鮮言語社会コース（韓国朝鮮言語社会） 多分野交流プロジェクト研究 次世代人文学開発センター 死生学・応用倫理センター

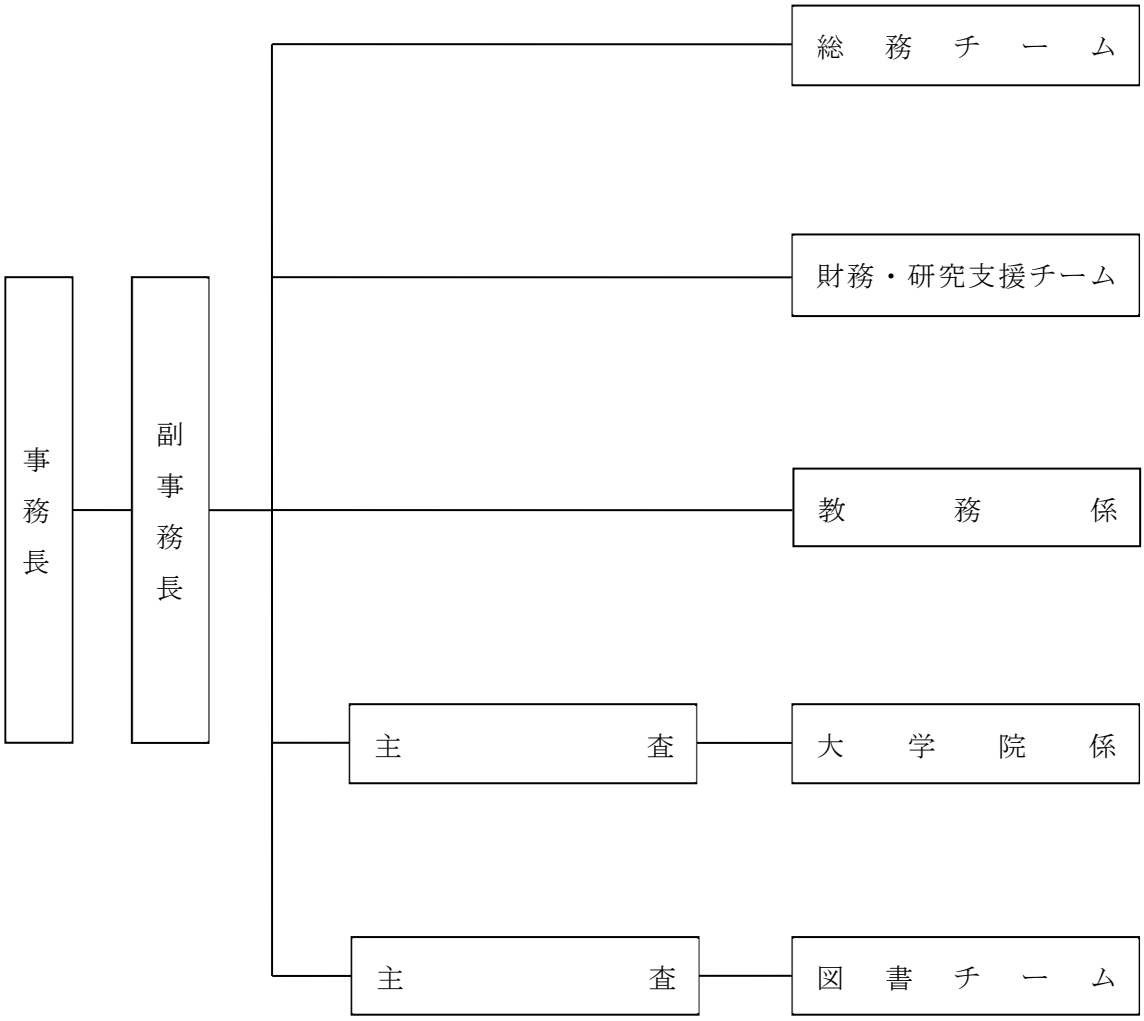
(2) 大学院人文社会系研究科の機構



(3) 文学部の機構


学部長
人文学科
哲学
中国思想文化学
インド哲学仏教学
倫理学
宗教学宗教史学
美学芸術学
イスラム学
日本史学
東洋史学
西洋史学
考古学
美術史学
言語学
日本語日本文学
中国語中国文学
インド語インド文学
英語英米文学
ドイツ語ドイツ文学
フランス語フランス文学
スラヴ語スラヴ文学
南欧語南欧文学
現代文芸論
西洋古典学
心理学
社会心理学
社会学
国際交流室
日本語教室
教育研究情報管理室
視聴覚教育センター
情報メディア室
事務部

(4) 事務組織



(5) 施設・設備

（令和3(2021)年度現在）

法文1号館	建 築 年	昭和4(1929)・40(1965)	構　造	R3－1
		昭和51(1976)	構　造	R+1
	所有面積	3,964 ㎡	総建物面積	10,723 ㎡
法文2号館	建 築 年	昭和 4(1929)・42(1967)	構　造	R4－1
		昭和51(1976)	構　造	R+1
		昭和56(1981)	構　造	S+1
	所有面積	12,857 ㎡	総建物面積	16,103 ㎡
文学部3号館	建 築 年	昭和62(1987)	構　造	R8－2
	所有面積	4,295 ㎡	総建物面積	4,295 ㎡
アネックス	建 築 年	平成 9(1997)	構　造	S2
	所有面積	580 ㎡	総建物面積	580 ㎡
総合研究棟	建 築 年	平成 7(1995)	構　造	R7
	所有面積	657 ㎡	総建物面積	3,942 ㎡
赤門総合研究棟	建 築 年	昭和40(1965)	構　造	R8-1
	所有面積	2,611 ㎡	総建物面積	12,912 ㎡
国際学術総合研究棟	建 築 年	平成29(2017)	構　造	R14-1
	所有面積	379 ㎡	総建物面積	8,806 ㎡

北海文化研究常呂実習施設

土地面積	所有	1,036 ㎡			
	借用	7,911 ㎡			
建　　物	所有	車　　庫	建 築 年	昭和41(1966)	構　造 B1
					総建物面積 38 ㎡
		資料保存センター	建築年	昭和43(1968)	構　造 W2
					総建物面積 175 ㎡
		新学生宿舎	建 築 年	平成15(2003)	構　造 R2
					総建物面積 338 ㎡
	借用	資　料　館	建 築 年	昭和42(1967)	構　造 R3
					総建物面積 343 ㎡
		研　究　棟	建 築 年	平成10(1998)	構　造 R1
		（ところ埋蔵文化財センター）			総建物面積 868 ㎡

(6) 新型コロナウィルス流行への対応

令和2（2020）年1月27日、大学院係より各研究室に中国に滞在中の学生、あるいは3月までに滞在予定である学生の有無が照会されたのが、人文社会系研究科・文学部の新型コロナウィルスに対する動きの端緒であった。この日までに国内で確認されていた感染者は4名であった。中国への渡航や、帰国・入国者への対応をめぐる調査や連絡はその後も続き、2月7日には前日の担当理事（環境安全衛生担当松木則夫理事・副学長）の通知を転送する形で総務チームから「新型コロナウィルスに関連した感染症対策に関する対応について」が配信され、湖北省への渡航停止、中国全域への不要不急の渡航取りやめ、他の感染者発生地域でのうがい、手洗い、マスク着用、そして中国からの帰国・入国者への対応が改めて具体的に指示された。通知には、保健センターHP、UTokyoPortal、文部科学省、厚生労働省、外務省、内閣官房の関連HPへのリンクも張られており、感染対策が本格化したことが感じられた。

中国での感染拡大への対応により、雑誌の入荷が遅れ始め、13日には文学部図書室がウィルス付着の危険性から公的機関の終息宣言が出るまでの雑誌受け入れ停止を提案して、中国研究者である大西研究科長を驚かせた。その後の展開は誰も見通せてはいなかった。

月が替わるのを前に、2月28日に総務チームから「新型コロナウイルス感染症に関する就業上の取扱いについて」が配信され、当面3月中は裁量労働制ではない職員に時差出勤や在宅勤務を認めるとされた。本部の方針に従ったものであるが「在宅勤務をさせると研究室等で判断した場合は、まずは総務チームまでご相談ください。ただし在宅勤務に必要なPC、携帯電話等は原則研究室等単位でご準備いただくこととなります。」と文学部らしい通知であった。

3月4日の執行会議では、本部の卒業式、学位記授与式縮小の方針を受け、研究室での授与は研究室の判断で実施し、人数が多く研究室内では危険な場合には大教室等を貸す方針を定めた。また、翌日の教授会を学部内で最も空間が大きい一番大教室で開催することにした。学部内会議の一部はメール審議に切り替えられたが、多くの会議は会場を広い場所に移すなどして対面で行われた。12日は年度内最終教授会で年度末退職教員を送る行事のため例年一番大教室を会場としていたので、そのまま実施されたが、恒例の軽飲食は供されなかった。

3月10日の夜、大西研究科長は教務委員会委員長と大学院教務入試制度委員会委員長に、13日に情報基盤センター・大学総合教育研究センターが開催する「授業のオンライン化を念頭に置いた、TV会議ツールと使い方説明会」への参加を要請した。以後教務委員会委員長の鈴木泉教授が授業のオンライン化の教務面での中核的な役割を果たすことになった。

3月16日（月）、全学の「4月からの授業対応に関する検討WG」に出席した大西研究科長が、学事暦は変更しないことを前提としながらも、授業期間の当初2週間程度は部局における情報共有、対応体制立ち上げ期間と位置づけ、柔軟な対応を取る意思を固めた。大学院係からは19日に大学総合教育研究センターが「授業のオンライン化を念頭に置いたZoomの使い方に関するオンラインワークショップ」を開催する事が各教員、各研究室に配信された。

3月18日（水）、正副研究科長、両教務委員長、大学院係池田主査、教務係藤田係長で4月以降の授業の進め方を打ち合わせた。17日の教育運営委員会の原則オンラインという決定を受けたものであるが、演習は対面で可能であろうと考えていた。

3月19日（木）16時半過ぎ、各教員に「4月からの授業等に関する文学部・人文社会系研究科の対応について」で、学事暦はそのまま、当初の2週間をオンライン化準備期間とし、履修登録期間を2週間延長することが伝えられた。オリンピック開催が予定されていたので、授業期間が繰り上がっており、4月2日に研究室ガイダンス、3日開講の予定であったが、ガイダンスは2日にこだわらずに行うとされた。また引きつづき3月26日に情報メディア室の西川賀樹講師が「オンライン授業講習会」を行うことが案内された。その主たる対象は助教、教務補佐員、事務補佐員、TAとなる大学院生などオンライン授業をサポートする人々で各研究室1名以上の参加が求められた。教授会構成員には4月9日の教授会終了後に別途講習会が予定されているが、この講習会への参加も歓迎する旨通知された。この日、4月19日に予定されていた大学院夏季入試説明会の中止をホームページで告知し、また前日までに大学院係からレベル2（25日に全世界に拡大）以上の国に滞在している留学生に帰国要請を行った旨が各教員に周知された。帰国者に対しては研究科から旅費の補助が行われた。

22日本部は学内発症者（20日発症）を初めて発表し、23、24日の学位記授与式・卒業式は17日に総務担当福田裕穂理事名で出された「部局における学位記授与式・卒業式のガイドラインについて（依頼）」に基き、謝恩会、懇親会は中止としつつ、多くの研究室が短時間ながら対面で証書伝達式を行った。

26日に西川講師の講習会が盛況のうちに行われ、また鈴木泉教務委員会委員長作成の「4月からの授業等に関する文学部・人文社会系研究科の対応について」が配信され、27日には視聴覚教育センターが116、117教室をオンライン用機材の整備に用いることとして、オンライン化への準備が進んだ。この時点では、急遽設定された各教室の「コロナ定員」

以下の学生数であれば対面授業ができる前提であり、それを最適化するために授業形態をアンケート調査して教室の割りあてをやり直すことが検討されていた。

しかし、感染のさらなる拡大に対応して、30 日 11 時に東京大学新型コロナウィルス対策タスクフォース（以下 TF）座長福田裕穂理事・副学長から「諸活動の段階的制限」と現状をレベル 1 とするメールが部局長宛に配信され、これまでの対応の枠組みが崩れた。授業は全面的にオンライン化することが求められたのである。18 時半過ぎには人事部労務・勤務環境課労務・服務チームから、時差出勤・在宅勤務活用を求め、研究室や事務室の勤務制限により自宅待機となる場合は特別休暇とすることも可能という通達があった。職員の安全を図りつつ雇用と収入を守る枠組みが素早く作られたことは良かったが、全教員が授業の体制を再考する必要が生じた。福田理事はロックダウンの可能性を想定して準備することを求めたので、31 日、総務チームより研究室主任あて「都市閉鎖、構内への入構制限を実施した場合の研究室体制の確認とリスト作成について」としてチェックリストが送られ、連絡リストの作成が求められた。福田理事からは、24 日のオリンピック延期決定で補習期間が確保できるようになったので、授業開始の 1 か月遅れもやむを得ないとする補足説明があり、研究科長は「4 月からの授業等に関する人文社会系研究科・文学部の対応について（変更）」、両教務委員長は「今後のスケジュールとシラバスの修正等に関するお願い」を全教員宛メーリングリストで発して、授業は 4 月 17 日から順次開始、難しいものは部分的なオンライン化、あるいはレポート・課題設定で対応する、またシラバスは 1 日に公開するが、順次修正を可能にすると伝えた。

令和 2 年度はこのような混乱の中で開けた。4 月 1 日の執行会議では、学生の願に教員が押印して事務に提出する際、学生が押印したファイルを教員が印刷し、それに押印し PDF 化して事務に送る、それもできなければ学生のファイルに了解の意思を示すメール文を付して転送する、といった対応を取ることが了解された。

4 月 2 日に履修登録期間の変更が周知され、3 日には 3 番大教室で西川講師による学生向けオンライン授業説明会が行わた。これは曜日を変えて 3 回繰り返される予定であった。しかし、4 日朝までに研究科長は週明けにレベル 2 になる、すなわち授業にとどまらず、会議もオンラインのみという制限がかかる、という連絡を受けた。このため、8 日と 13 日に予定されていた西川講師の学生向け説明会をオンラインに切り替え、6 日（月）11 時から執行会議（正副研究科長、正副事務長、総務チーム米澤係長）メンバーに人文情報学の大向一輝准教授、西川講師、池田主査、藤田係長、大学院係泉主任、総務チーム小藪職員を加えて、教授会・研究科委員会のオンライン化の方策が検討された。

レベル 2 への移行はこの日の 15 時半ころに本部から指示されたが、翌 7 日には、8 日からレベル 3 という指示がなされた。これは原則としてすべての職員が在宅勤務という今回のコロナ対応で実施された中では最も制限が強い体制で、5 月末まで持続した。これを受けて、7 日のうちに研究科長名の「東京大学の活動制限指針のレベル引き上げに伴う就業上の取扱いについて」で以下の方針が示された

〇常勤教職員　　可能な限り在宅勤務を推奨（※１）
〇短時間勤務有期雇用教職員　　在宅勤務又は自宅待機（※２）
※１　事務部については、窓口業務の時間短縮及び業務の縮小を行い、
　　常勤職員の交替勤務を行う予定です。（別途通知予定）
※２　研究室単位で各職員の勤務状況（在宅勤務又は自宅待機）の把握
　　をお願いします。（就労申請手続きについては、別途通知予定）

また、9 日より当面事務室は 11-15 時勤務、受付、郵便発送、学内便集配は中止とされ、図書室は 8 日から閉室した。10 日からは建物の門扉も閉ざされ、休日の姿となった。

9 日の教授会は一番大教室で行われ、Zoom によるオンラインを併用した。引きつづき、同じ形で大向准教授が授業オンライン化の説明会を行った。Zoom に対応できずに対面参加した教員もあったかもしれない。会場の設営は、総務チームと石川洋講師以下視聴覚教育センターの尽力によった。水曜日定例の執行会議も 15 日からオンライン化され、16 日の人文社会系研究科委員会は、大学院係の尽力で、教員談話室に本部を置き、そこに位置する正副研究科長以外は Zoom で参加する完全オンライン開催となった。教授会も 23 日から Zoom による完全オンライン開催となり、この時は総長選考の代議員選出が必要であったところから、Google フォームを用いた遠隔投票が併用された。

勤務体制については、13 日に研究科長名の「人文社会系研究科・文学部の皆さま」でより具体的に示された。

(1) 研究室における勤務態勢
〇常勤教員（教授、准教授、講師、助教）

・ 可能な限り在宅勤務を行う。
・ 研究室の教育研究や運営を維持するため、最低限必要な業務を行う場合には、やむを得ず出勤することを認める。ただし、勤務時間帯、対人接触、消毒等最大限の安全対策を取ることとする。
・ 出勤を伴う業務は、原則として常勤教員が行うことする。しかしその場合においても、上長は本人の意思に反して出勤させたり、出勤を懲戒したりしてはならない。

○短時間勤務有期雇用教職員（特任研究員、教務補佐員、事務補佐員等）
・ 原則としてすべて在宅勤務又は自宅待機（特別休暇）とする。

⑵ 委員会開催指針
・ 原則としてすべての委員会（博士論文審査委員会を含む）は、当面オンライン開催またはメール審議とし、それらが困難な委員会は延期とする。
・ 銓衡委員会や入試作問に関する委員会の開催方法は、本部の動向等を踏まえ今後検討を進める。

最初の西川講師の説明会が教務補佐員等を対象としたように、執行部と教務委員会委員長は教授会構成員が独力でオンライン授業を開始することの困難を見越して、研究室で助力を得られる体制を作ろうとしていた。しかし、レベル3への移行で、助力できるのは助教のみとなり、当然必要となる非常勤講師や学生への対応など考えると、教授会構成員が自力で授業をオンライン化することを期待せざるを得なかった。このため、大西研究科長は、授業の開始を予定よりさらに一週間繰り下げ、24日を初日とし、事情によっては連休明けから始めて7月末まで授業するのでも構わないとの方針を執行会議で確認した後、9日の教授会で示した。Zoomだけではなく、資料の配布やレポートの回収などにITC-LMSを使いこなせないとオンライン授業はできないが、文学部教員でこれを使った経験がある者は少なかった。本部が、授業に参加する学生に謝金を払って補助者とする予算措置をとるという方針を示したので、3月31日の両教務委員長からの「教務関係、今後のスケジュールとシラバスの修正等に関するお願い」では、元来研究室に配当されているTA以外のサポート要員が必要となった場合は研究科として対応することを検討している旨告知していた。そこで、研究科としての制度化を検討したが、事務部から履修と謝金受給は並立できないのではないかという疑問が呈され、当面は履修しない大学院生によるTAの増員を認めるしかないかと思われた。

14日には鈴木教務委員長が作成した「オンライン授業の受講についての説明とQ&A」を西川講師が在学生ポータルに掲載、16日には大向准教授と西川講師の尽力で、教員向けオンライン授業ポータルサイトが開設された。また22日には授業に参加する院生・学生がオンライン化を補助するクラスサポーター制度が全学の制度として告知された。接続環境が悪い学生へのルーターの貸与も、本部が5月13日締切で希望者を募ることになり、文学部はこれらの対応から解放された。4月26日に文学部で集計したルーター貸出希望数は100であった。

教室が利用できるようになったとしたら通風が課題となるであろうとのことで、教室への網戸の設置が計画され、5月7日には見積が出た。8月4日には当初の工事完了が報告され、この年には教室、翌年には多人数で利用する研究室に網戸の設置が進んだ。、

5月11日には大西研究科長がUTASを通じて学生向けメッセージを発した

人文社会系研究科・文学部の院生・学生の皆さんへ

新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中、4月24日からオンライン授業が始まり、約2週間が経過しました。生身の人と人とのつながりが制約を受ける未曽有の事態の中で、学生・教職員の安全と健康を最優先に、大学としての教育・研究機能を最低限維持するためには何ができるかを考え、手探りで対応を行ってきました。

しかし場としてのキャンパスが事実上機能しない今、みなさんが置かれている現状を適切に把握するには限界があります。私たち大学側が事前に予測し、考えてきた対応だけでは十分ではありません。オンライン授業の履修をはじめ、研究学修、生活等において、お困りのことや不安に感じること、要望等がありましたら、なんでも結構ですので遠慮なく研究室に申し出て頂けないでしょうか。研究室主任の先生には、そのような情報があれば私に伝えるようお願いをしています。学部・研究科として、大学本部と連携しつつ、皆さんの苦境を少しでも取り除くことができるよう支援していきたいと考えています。

研究科長は同時に「研究室主任宛お願い」も発して、学生への適切な対応を求めた。

5月14日に履修登録が締め切られた。16日には大西研究科長が齋藤希史図書委員長、朝比奈図書チーム主査あて図書利用再開の検討を指示した。18日には佐藤宏之教育研究管理室長がS1タームの授業改善アンケートを中止する一方、ITC-LMSを利用したアンケート実施方法を検討する旨申し出て決定された。19日は納富信留入試実施委員長が夏季入試

の実施方針をかため、実施予定各研究室に対面でない実施方法を25日までに回答するよう求めた。21日教授会では人事アンケートに基づく面談をオンラインで行うことが示され、TFに各研究室と図書室での限定的な図書利用再開を申請するなど、オンライン授業の本格化とともに、コロナ下での活動持続のための手立てがとられていった。

25日にはTFから図書利用再開が認可され、夏季入試は、考古が実施、言語・社会は条件付き実施、6専門分野は中止と回答があった。またTFから6月1日にレベル2、15日にレベル1、その後最短であれば2週間でレベル0.5という方針と、その準備としてのチェックリストひな形が送られてきたため、文学部版チェックリストの作成を開始した。

26日には緊急事態宣言が解除され、3号館図書室は6月1日以降、1日20名までメールで予約した本を貸すサービスを始めること、また各研究室も短時間図書の閲覧や貸し出しのための開室を認られることを告知した。28日には文学部研究室再開マニュアルを配信し、6月1日以降は門扉を開き、図書の貸し出しなど在宅でできない業務のための出勤を認める方針を示した。

6月4日には常呂での夏季実習実施の審議をTFに依頼し、8日に了解を得た。

6月11日には15日からのレベル1に対応するため「人文社会系研究科における対面会議等の再開について」により、各研究室の図書利用は、週4日各5時間以内、学生の利用は週に2回90分以内で事前予約制、短時間勤務職員も勤務可とした。また、10名以下の学内者による定例会議、入試、人事、学生対応等の秘密保持の必要性が高い会議は1時間以内なら実施可とした。もちろん、研究室の図書利用は上限であって、各研究室の実情に合わせた判断が期待された。

レベル1は7月5日までとの連絡を受け、7月6日以降は自宅待機に特別休暇を用いることをやめ、7日からは時間を短縮しつつ事務室の窓口業務を再開し、8日からは執行会議も対面としたが、実際に0.5に引き下げられたのは13日であった。7月13日は本研究科のSセメスター授業期間の最終日であり、このタイミングでの引き下げは、夏休み前の授業が全面オンラインのまま終わることを意味した。

7月16日の教授会は久々の対面併用となった。オンライン参加者は従来から教授会の資料閲覧・電子投票システムに用いていた、iPadを持ち帰って利用した。この時は一時貸与だったが、29日以降、以後の対面オンライン併用教授会のためiPadを配布し、各自が管理することにした。

17日には研究科長がレベル0.5に対応した研究室及び教室の利用指針を示した。これは、以後も新型コロナ流行下での施設利用の基本的な方針となった。

研究室は、開室時間に制限を設けないが、最大滞在人数を定め、事前予約等によって在室人数を管理し、利用時に氏名と在室時間を記録する。授業のための利用（研究室でのオンライン授業受講を含む）、および博士論文、修士論文、卒業論文等の執筆・調査のための利用を優先する。

教室は、研究室構成員が主体となる教育・研究活動（論文審査、学生指導、研究会議等）を目的とする場合に限り、貸出しを認め、やむを得ない場合に限り、参加者の一部に学外者を含むことを可とする。事前に利用者の名簿（学外者は連絡先を含む）を提出し、実際の利用者を記録することする。当面、院生・学生のみの利用は認めない。

共にマスク、消毒、換気など、感染防止対策には細心の注意を払う

8月3日修正版で以下が追加された。

- 各教員が開室時間外の研究室で、あるいは自室で学生などと面談あるいは研究会等を行った場合には、日時・場所と氏名の記録を作成し、2週間以上保管すること。
- 教室については利用目的に「及び遠隔会議により学会・シンポジウム等を開催する必要がある場合」を加え、常勤の教職員1名を感染防止責任者として届け出、参加者の感染や濃厚接触が判明した場合に必要処置を取ること。
- 感染症の状況により、使用許可を取消す場合があること。

授業終了にあたり、教務委員長は教員にAセメスターの授業につき、学生にはオンライン授業につきアンケートを実施した。また西川講師は、UTokyo WiFiの容量に限りがあり、夏の間にネットワーク構成を改善するが、それでも教室で学生がZoomのギャラリービューを使用した場合には限界に達する恐れが高いとの説明があった。

研究科長は20日に全教員向けメールで、「学生たち、特に新入生、留学生は修学上、精神上の不安を抱えていることと思います」として、教員が「研究室、メール等を通じて状況を把握し、オンライン・対面を問わずお声がけ、ケアを行ってくださるようお願いします」とメッセージを送り、また、全学のオンキャンパス・ジョブを通じた学生の経済的支援強化の方針に対応してTA増員等の申請を行っていること、6月18日開催の教授会で説明したように、新型コロナウイルス感染症の影響による休学について、休学の遡りや休学期間に算入しない休学が特例として認められる可能性があることを伝えた。

7 月 31 日には鈴木教務委員長がアンケートの結果を踏まえて、「2020 年度 A セメスター授業開講に関するお願い」を配信した。そこでは、次の学期において、講義に関しては、教育上の特別な理由がない限り、オンライン授業もしくはオンライン授業と対面授業の併用とし、事情の許す限りオンライン授業のみとすることを求めた。また演習・実験等に関しても、対面のみによる開講は可能な限り避け、オンラインとの併用を基本とするが、大学院の演習を始めとして、受講者が予め想定され、また、対面のみによる開講が学生にとって不利益とならない場合にはその限りではないとした。アンケートで判明した教員の希望開講形態は

	学部科目	大学院科目
1．オンライン	67.6%	64.9%
2．併用	19.8%	18.2%
3．対面	11.0%	12.7%
4．その他	1.3%	3.9%

であったが、オンライン授業と対面授業とが時間割上混在して実施されるとオンライン授業を受講する場所を確保する必要があり、発言の可能性も考えれば感染対策には限界がある、また、学生の感染拡大への不安は大きく、演習・実験等を対面のみで開講する場合、不安を抱えている学生に対して強制的に対面授業への出席を求めることになり、学生の修学の権利を奪うという判断であった。鈴木委員長は一方で、

> 多くの授業がオンラインによって実施されることによって、学生・教員全体のコミュニケーション不足が生じていることは否めません。これに関しては、専修毎に、短時間ではあれ対面式のミーティングを開催するなどの工夫を凝らすという仕方で対処して頂きたいと考えます。

と授業によらない、対面機会の創出を勧めた。

鈴木委員長が同じ日に配信した「学生への「オンライン授業に関するアンケート」集計結果の報告その他」で、回答率が修士は 40 パーセントだが、全体では 25 パーセントにとどまるとことわった上で、

> 「オンライン授業最高！」から「即刻の廃止を希望」に至るまで、オンライン授業に対する評価には幅がありますが、予想通り、通学時間の節約とオンライン授業の特質を中心として好意的な評価が多い一方で、教員や同級生とのコミュケーション不足や孤独感の増大という問題を指摘した回答も多いというのが一般的な傾向だと思います。また、図書館利用に関する不満が多かったことも、学生の生の声として、オンライン授業そのものと直接関わることではありませんが、印象に残りました。

とした。その上で、A セメスターの留意点として、1. オンライン授業は想像以上に心身双方に疲労・ストレスを与えるので、105 分という授業時間の運用に関しては、適宜休憩を入れるなどの配慮が必要。2. 課題が多く出されるために学生にとって過剰な負担になっている。最低限、提出期限にゆとりをもたせるといった配慮が必要。3. プライヴァシーへの配慮とネットワークの負荷の両面から、試験の場合を除けば、カメラをオンにすることを強制することは避けるべき。の 3 点を指摘した。

委員長の働きかけもあって、8 月末には A セメスター授業の 85%がオンラインのみの予定となった。一方で、演習を対面・オンライン併用で実施するための機材の研究・整備も石川講師を中心に進められた。9 月 15 日に佐藤教育研究情報管理室長は Yamaha YVC1000 2 台、既存 2 台の分含め増設マイク 16 台の計 70 万余円分の購入を要請し、翌日の執行会議で認められ 10 月 12 日までにすべて到着した。9 月 17 日に鈴木教務委員長の司会進行、大向准教授、石川講師、西川講師による説明と教員の懇談という形で教員対象の「A セメスターに向けてのオンライン授業講習会・懇談会」がオンラインで行われ、そこでは、これを用いたハイブリッド（対面オンライン併用）授業も紹介された。

一部対面授業となる A セメスター開始を前に、教務係では学生が学内でオンライン授業を受講できる教室として、発言の必要がある授業には 317、319 教室、発言の必要がない授業の場合は 1 番大教室、2 番大教室を充てることを教務委員長と相談して定め、9 月 18 日に UTAS を通じて学生に周知した。また、各教室に手指消毒液とペーパータオルを設置したほか、授業の際に教室に持ち込めるよう、事務室前にウェットティッシュとアルコール消毒液の入った消毒セットの籠を用意して、同日教員に周知した。学生の参加の記録は教室に掲示してある QR コードを利用して学生自身が各自で行うことになったが、確実を期すため、教員にも授業参加者の記録と 2 週間の保管が求められた。

9 月 21 日（土）には、元来 7 月 11 日に予定され、延期されていた高校生向けのオープンキャンパスが全面オンラインで実施された。文学部では 1 番大教室を会場として配信した。

新学期は 9 月 25 日（金）にはじまり、文学部の管理する門扉の開閉は、三友館とその周辺の閉鎖が継続したことに伴って法文 2 号館の三四郎池側が引き続き閉鎖されたのを除き、この日から通常の体制に戻された。ハイブリッド器材は当初は授業担当教員が受付から借りだして設置し、また撤収する必要があったので、授業時間が減少し、また多くの学生に感染の原因となる恐れのある作業を手伝わせることになりがちという問題があり、必ずしも利用が進まなかったが、

11 月 2 日から 2 つの教室に常設されるようになると利便性が増し、利用者も増加した。10 月 29 日の教務委員会での翌年度の授業に進め方の議論では、感染を恐れて登校を望まない学生の権利に配慮して、ごく少数の演習などを除き対面のみの授業は行わないが、オンライン授業のみでは高い教育効果を望めない場合には、今までの対面に抑制的な姿勢を転換して対面を中心としたハイブリッド授業の開講を認めるという方向が有力になり、鈴木委員長から、さらに 8 教室にハイブリッド器材を整備することが提案された。これは、網戸やコンセントの増設とともに、文学部の本部に対するコロナ対応の要求項目とされて、基本的に認められた。一方で、11 月 11 日（水）にはほぼ午後一杯のネットワーク障害が発生し、教職員含めての登校者の増加に設備が対応しきれないのではないかと推察された。なお、コロナ対応の設備整備としては、教室への出入記録の自動化も構想され、他学部の事例を参照して検討されたが、文学部に適切な具体策を見いだせないままに終わった。

12 月 14 日の教育運営委員会学部・大学院部会では、学務関係書類における押印および直筆署名の廃止が議題となり、各研究科に意見が求められた、これを受けて博士論文の審査報告書への押印の廃止を可とするか否か大学院教務入試制度委員会でのメール審議を踏まえて議論され、押印する書式と、押印を省略して審査委員の賛意を示すメールを提出する書式の 2 種を用意し、主査の判断に委ねることとした。この背景には、春以来、博士論文の審査がオンラインで実施される例が重ねられていたことがある。

12 月半ば、7 月に申請していたオンキャンパスジョブによる修学支援事業の実施が指示された。文学部は、新入生のためのジュニア・メンターと文学部旧蔵文科大学事務書類のデータベース化の 2 事業を申請し、共に金額の削減はあったが認められた。前者は各研究室に配分して TA 的な大学院生の雇用にあてた。後者は日本史学研究室の協力を得て準備を進め 1 月 7 日に作業者を UTAS で公募したところ、数時間のうちに予定を超える 10 名の応募があり、当日中に募集が締め切られた。しかし、折あしくこの日に緊急事態宣言が出され、レベル 1 となったのでグループで行う作業にかかることができず、27 日に少人数で開始したものの、状況変化のためか、申し込みながら参加しない学生も生じた。年度末までの作業で中心となったのは外国人学生と学部生であった。

令和 3（2021）年 1 月 8 日、首都圏における新型コロナウイルス感染の急速な拡大と、1 月 7 日に発令された国の緊急事態宣言を受け、「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京大学の活動制限指針」が、1 月 11 日（月）からレベル 1 に引上げられることになった。ただし、今回は授業・定期試験に関しては一律オンラインでの実施が求められているわけではなかった。授業期間は概ね終了しており、構成員の感染が拡大する一方、学内での感染の発生は確認されておらず、キャンパス自体は相対的に安全であると考えられたところから、研究科長は「令和 2 年度における対面による授業再開に係るガイドライン」及び「対面授業実施に当たっての「3 密回避」への対応について」を熟読の上、必要なものに限って十分な対策を取った上で対面授業を行うことを指示した。また、研究室の利用については前年 8 月 3 日付の「研究室等の利用指針」の遵守を改めて指示し、一律の開室時間短縮等は求めないが、研究室のスタッフの健康と安全を守るため、各研究室の実情に合わせて時差通勤や在宅勤務を活用するよう指示した。また、改めて研究室スタッフに感染もしくは濃厚接触等が発生した場合には、「新型コロナウイルス感染防止対策強化にかかる健康管理報告サイトの設置及び入構方法の変更について」に記載されている窓口に速やかに連絡すること、また感染者のプライバシーや心のケアにも十分に配慮することを求めた。そして「授業期間が終了し、これまで以上に接触が制限される中、地方出身者や留学生等をはじめ、学生たちが孤立し、困難に陥らないよう見守ることも求められます。新型コロナ感染症に対する感覚や恐れの度合いは人毎に異なることに留意し、教育研究活動とのバランスを取りながら感染拡大防止を図りたいと思います。ご協力をお願いします。」と締めくくった。

裁量労働制以外の職員については。在宅勤務および時差出勤の拡大が図られ、1 月 15 日に 1 月分は事前申請していない日についても在宅勤務を可能にする措置がとられた。1 月 14 日からは再び教授会がオンラインのみとなり、1 番大教室での対面併用に戻ったのは 3 月 4 日であった。レベル 0.5 に引き下げられたのは 3 月 22 日である。この中で、感染防止対策や感染者・濃厚接触者・入国不能者への対応で膨れ上がったセンター試験、大学院入試そして前期課程入試の業務を行った教職員の負担は大きく、監督の予備として当初の予定以上の教員が待機することは、翌年も繰り返された。

1 月 18 日にはこの年度に認められていた休学期間に含めない休学が翌年度にも引き続き認められることが示された。2 月 12 日現在人文社会系研究科の新型コロナの影響による学籍・学費に関する特別措置の申請者は、在学期間延長：8 名、授業料不徴収：56 名、再入学の学費等の不徴収：1 名、長期履修：1 名であった。当然ながら申請にあたって指導教員が事情を書く必要があり、これを契機に連絡が途絶えがちであった学生の話を聞く機会を得た向きもあったが、人に会う、図書館・文書館で調べる、外国に調査に行く、といったことが必須の分野が多い本研究科では、学問的な影響は大きく、それが精神面に及ぼした影響も大きかった。

3 月 18、19 日には前年同様全学の学位記授与式、卒業式が縮小されるなか、文学部各研究室での学位記伝達は、飲食をせず十分な感染対策をとって行うという、総務担当理事が示したガイドラインの範囲内で、各研究室が前年の経験を踏まえて実施し、多くの学生が参加した。

3 月 25 日（木）には西川講師によるオンライン授業講習会、29 日（月）には石川講師によるハイブリッド授業講習会が開催され、新学期の準備が整えられた。

新年度を迎え、新宮市と連携しての熊野プロジェクトで予定変更に追われていた秋山聰教授が研究科長に、入試実施委員長として激務を果たした納富教授が副研究科長に就任し、文学部経験がある瀧口事務長、宮田副事務長が着任して執行会議は一新された。1 番大教室をハイブリッド授業に用いる必要もあって、教授会は教員談話室で行なわれるようになり、当初は対面参加可としたが、3 回目の 5 月 20 日からオンラインのみとなった。教員談話室では密になりやすく、4 月 27 日に活動制限レベルが準 1 に上げられるという再流行下で、対面参加者を受け入れるのは無理であった。

活動指針レベルの引き上げにあたって秋山研究科長は、対面により少人数で行われている授業にあっては、通学への不安や感染防止の観点などから受講学生がオンライン形式による受講を希望した場合、オンライン併用により対応することを求め、また、シラバスにおける告知にこだわらず、各教員の判断により、ITC-LMS の掲示板で受講生に告知してオンラインのみに変更することを認めた。また、在宅勤務等の活用と、より一層の感染防止対策を求めた。

その後 6 月 21 日にレベル A（旧 0.5）に引き下げられるが、学部としての特段の指示や会議形態の変更はなく、対応は各研究室および教員に任された。7 月 12 日には緊急事態宣言によりレベル B となるが、これも授業期間の終了に近かったため、特段の対応はなされなかった。一方で、オンライン授業の一般化、また感染状況に応じた教員の判断による弾力的な授業形態の運用を背景に、海外在住者など来校のあてがない研究者への、あるいは他大学の授業との移動時間を考慮しない時間割での非常勤講師の委嘱が一般化する可能性が生じた。文部科学省がオンライン授業を認める範囲の特例を維持するかどうか不透明なため学部学生に不利益を生じる可能性もあり、なにより十分な議論なしになし崩しに大学のありかたを変えることへの恐れから、7 月 27 日に教務係からの連絡として、次年度の授業形態についてはこの 2 年間の実情とは異なる方針が示される可能性を告知して、早期に非常勤の内諾を得る動きに釘を刺した。

8 月 4 日には、直近 1 週間で学内で 25 名の感染が報告されるという、前例のない感染拡大に対応して、研究科長が教職員に、教育・研究活動や課外活動より、友人との会食、友人宅への宿泊や旅行に起因した感染が多いことを踏まえて、会話は飲食後マスクをした上で行うことを徹底し、宿泊を伴う行動にも細心の注意を払うよう求めた。

この夏、無線 LAN の回線増強工事が行われた。オンキャンパスジョブは、継続事業の文学部所蔵文科大学事務書類データベース化のみ 9 月に認められたので、早速 9 月 22 日に UTAS で公募したが、単純作業に従事する数人を集めるのに 1 週間あまりを要した。募集対象が博士課程中心に限定されたことが一因であるが、各種奨励事業の進展で救済事業の対象者が少なくなった面もあったと思われる。

ハイブリッド器材の利用は定着したため、この年の秋学期に向けては機器使用の講習会は行われず、9 月 13 日に 3 月の講習会の動画・資料の URL が配信された。感染対策では、学内でも開始されていたワクチン接種が重視され、9 月には本部タスクフォースからの接種の呼びかけが文学部でも配信されたが、これに反発する学生もあり、新型コロナ問題の受け止め方の多様性を改めて感じさせられた。

10 月 4 日にようやくレベル A に下がったが、社会的な緊張も緩和される中で、在宅勤務や研究室の入室制限で人気が少ない研究室に不時来訪者が出現して、インターネット上で研究室の位置を明示することの危険性について再認識させられる事案も生じた。入構制限は 12 月 13 日に緩和されたが、令和 4（2022）1 月 24 日にはレベル B となり、前年同様の卒業式、学位授与式を経て 3 月 28 日、ようやくレベル A に下がったところで令和 3 年度を終えた。

2. 教育とその成果

(1) 入学と進学

A　学部への進学・学士入学等

令和2(2020)年文学部学生数　　令和2(2020)年4月1日現在

	2013	2015	2016	2017		2018			2019				2020				計
	進学	進学	進学	進学	学士	進学	学士	転所属	進学	学士	再入	転所属	進学	学士	再入	転所属	
哲　学				8		10 (1)			12 (1)	1		3	18 (1)	1 (1)		2	55 (4)
中思文						1			1 (1)				2				4 (1)
印　哲							2 (2)		1	2		2	3 (1)	1 (1)			11 (4)
倫　理				1		1		1	8 (2)	1			4			1	17 (2)
宗　教			1	2 (1)		5			14 (7)			3	14 (5)			1	40 (13)
美　学			1	2 (1)		8 (3)			26 (5)				23 (6)		1	2	63 (15)
イ　学													1				1
計			2	13 (2)		25 (4)	2 (2)	1	62 (16)	4		8	65 (13)	2 (2)	1	6	191 (39)
日本史				2		6 (1)		1 (1)	25 (6)				20 (6)			1	55 (14)
東洋史				1		6 (1)			15 (5)				7 (2)				29 (8)
西洋史		1	1	2		3			14 (6)			1 (1)	20 (5)				42 (12)
考　古						4			7 (1)				7				18 (1)
美術史						4 (2)			15 (7)		1		6	1	1 (1)		28 (10)
計		1	1	5		23 (4)		1 (1)	76 (25)		1	1 (1)	60 (13)	1	1 (1)	1	172 (45)
言　語				2		6 (2)			15 (4)	2		1	32 (7)				58 (13)
国　語				2		1			8 (3)				5 (2)				16 (5)
国　文			1	2		5			17 (9)			1 (1)	20 (8)			2 (1)	48 (19)
中　文													3				3
印　文					1									1			2
英　文		1		2	2 (2)	8			31 (3)			1	15 (2)				60 (7)
独　文								1	1					1 (1)			3 (1)
仏　文	1					8 (2)		1	4				3 (1)	3			20 (3)
スラヴ							1		1 (1)				2 (1)				4 (2)
南欧文							1										1
現　文		1		1		1			7 (2)				5 (3)			1	16 (5)
西古典									4 (1)	3 (1)			2	3			12 (2)
計	1	2	1	9	3 (2)	29 (4)	2	2	88 (23)	5 (1)		3 (1)	87 (24)	8 (1)		3 (1)	243 (57)
心　理				1		8 (3)			23 (9)				21 (11)				53 (23)
社　心			1	1		3 (1)			21 (7)				20 (5)				46 (13)
社　会				4 (1)		12 (3)			52 (27)		1	1	48 (20)			1	119 (51)
計			1	6 (1)		23 (7)			96 (43)		1	1	89 (36)			1	218 (87)
合　計	1	3	5	33 (3)	3 (2)	100 (19)	4 (2)	4 (1)	322 (107)	9 (1)	2	13 (2)	301 (86)	11 (3)	2 (1)	11 (1)	824 (228)
	1	3	5	36 (5)		108 (22)			346 (110)				325 (91)				

(　)は、女子で内数。転所属は、当該年度に転学部・転学科・転専修課程した学生数。

令和3(2021)年文学部学生数　　令和3(2021)年4月1日現在

	2015	2016	2017		2018			2019			2020				2021				計
	進学	進学	進学	学士	進学	学士	転所属	進学	学士	転所属	進学	学士	再入	転所属	進学	学士	再入	転所属	
哲　学			4		4			5	1	1	18 (1)	1 (1)		1	18 (3)	1	1		55 (5)
中思文											2								2
印　哲						1 (1)					3 (1)	1 (1)			2 (1)	1 (1)			8 (5)
倫　理			1		1		1	3			4			1	6 (1)	1		1	19 (1)
宗　教		1			1			5 (2)			14 (5)			1	13 (1)			2 (2)	37 (10)
美　学			2 (1)					13 (2)			23 (6)		1	2	28 (8)				69 (17)
イ　学											1				1				2
計		1	7 (1)		6	1 (1)	1	26 (4)	1	1	65 (13)	2 (2)	1	5	68 (14)	3 (1)	1	3 (2)	192 (38)
日本史					2 (1)			4			20 (6)			1	21 (3)			3	51 (10)
東洋史					2			4 (2)			7 (2)				9 (4)				22 (8)
西洋史		1			1			5 (2)		1 (1)	19 (5)				17				44 (8)
考　古					1			3			7				4				15
美術史					1			7 (2)			6	1			6 (3)				21 (5)
計		1			7 (1)			23 (6)		1 (1)	59 (13)	1		1	57 (10)			3	153 (31)
言　語			1		3 (1)			4 (1)	1	1	31 (7)				18 (3)	1 (1)		1	61 (13)
国　語			1					2			5 (2)				6 (2)				14 (4)
国　文		1			3			6 (4)			20 (8)			2 (1)	24 (14)				56 (27)
中　文											2				5 (2)				7 (2)
印　文												1							1
英　文	1		2	1 (1)	1			14			15 (2)				19 (2)			1 (1)	54 (6)
独　文								1				1 (1)			2				4 (1)
仏　文					1		1	3			3 (1)	3			3 (1)				14 (2)
スラヴ								1 (1)			2 (1)								3 (2)
南欧文															1	1 (1)			2 (1)
現　文	1							1			5 (3)			1	6 (1)				14 (4)
西古典								1			2	3			1 (1)				7 (1)
計	2	1	4	1 (1)	8 (1)		1	33 (6)	1	1	85 (24)	8 (1)		3 (1)	85 (26)	2 (2)		2 (1)	237 (63)
心　理			1		2 (1)			4 (2)			21 (11)				23 (7)				51 (21)
社　心		1			1			3			20 (5)				20 (8)				45 (13)
社　会								10 (2)			47 (19)			1	50 (22)				108 (43)
計		1	1		3 (1)			17 (4)			88 (35)			1	93 (37)				204 (77)
合　計	2	4	12 (1)	1 (1)	24 (3)	1 (1)	2	99 (20)	2	3 (1)	297 (85)	11 (3)	1	10 (1)	303 (87)	5 (3)	1	8 (3)	786 (209)
	2	4	13 (2)		27 (4)			104 (21)			319 (89)				317 (93)				

(　)は、女子で内数。転所属は、当該年度に転学部・転学科・転専修課程した学生数。

B　学士入学試験の実施状況

凡例

合格者数
出願者数

専修課程	入学年度				
	平成30(2018)年	平成31(2019)年	令和2(2020)年	令和3(2021)年	令和4(2022)年
哲　学	0 / 11	1 / 8	1 / 7	1 / 7	0 / 5
中思文	0 / 0	0 / 0	1 / 1	0 / 0	0 / 0
印　哲	3 / 4	2 / 6	1 / 4	1 / 6	0 / 5
倫　理	0 / 3	1 / 3	0 / 1	1 / 4	0 / 3
宗　教	0 / 3	0 / 3	0 / 3	0 / 1	1 / 4
美　学	0 / 4	0 / 3	0 / 5	0 / 4	1 / 8
イ　学	0 / 3	0 / 1	0 / 0	0 / 0	1 / 2
日本史	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
東洋史	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
西洋史	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
考　古	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
美術史	0 / 1	0 / 2	1 / 4	0 / 5	0 / 5
言　語	1 / 5	2 / 6	0 / 5	1 / 4	募集なし
国　語	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
国　文	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
中　文	0 / 0	0 / 1	0 / 4	0 / 1	0 / 2
印　文	0 / 1	0 / 0	1 / 1	0 / 2	1 / 1
英　文	0 / 2	0 / 1	0 / 2	0 / 4	募集なし
独　文	0 / 2	0 / 0	1 / 2	0 / 0	0 / 0
仏　文	1 / 3	0 / 1	3 / 4	0 / 3	2 / 2
スラヴ	2 / 4	0 / 1	0 / 2	0 / 1	0 / 0
南欧文	1 / 1	0 / 3	0 / 2	1 / 1	2 / 2
現　文	0 / 2	0 / 2	0 / 2	0 / 1	0 / 2
西古典	1 / 3	3 / 4	3 / 4	0 / 0	0 / 1
心　理	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
社　心	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
社　会	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
合　計	9 / 52	9 / 45	12 / 53	5 / 44	8 / 42

C　大学院への入・進学

令和2(2020)年度 大学院学生数

（注）（　）内は女性、○数字は外国人を示し、内数

専攻	コース	専門分野	修士課程 2020年	修士課程 2019年	修士課程 18年以前	修士課程 計	博士課程 2020年	博士課程 2019年	博士課程 2018年	博士課程 17年以前	博士課程 計
基礎文化研究	言語基礎応用	言語学	7 (1) ①	9 (4) ①	2 (1)	18 (6) ②	6 (2) ①	2 (1)	2 (1)	5 (2) ②	15 (6) ③
	形象文化	考古学		3 (1)	3 ①	6 (1) ①	5 (2) ②		3 (2) ①	2	10 (4) ③
		美術史学	4 (2)	1	1 (1)	6 (3)	3 (2)	3 (3)	2 (1)	7 (5) ②	15 (11) ②
	思想文化	哲学	4 (1)	8	7	19 (1)	1	3	1	13 (2)	18 (2)
		倫理学	2		1 (1)	3 (1)	2		1	2 (2)	5 (2)
		宗教学宗教史学	8 (3) ①	6 ①	5 (4)	19 (7) ②	4 (2) ①	3 (1)	1 (1) ①	10 (5) ①	18 (9) ③
		美学芸術学	5 (2) ①	4 (1) ①		9 (3) ②		6 (3) ③	3 (1) ①	3 (2) ②	12 (6) ⑥
	心理学	心理学	4 (1)	6 (2)	1	11 (3)	1 (1)	6 (4) ①	1	1 (1)	9 (6) ①
日本文化研究	日本語日本文学	日本語日本文学	13 (6) ①	17 (5) ①	9 (4) ①	39 (15) ③	1 (1)	5 (4) ③	3 (1) ①	7 (4) ③	16 (10) ⑦
	日本史学	日本史学	9 (1)	11 (6) ③	4 (1) ①	24 (8) ④	3 (1)	7	7 (3) ②	11 (4) ③	28 (8) ⑤
アジア文化研究	アジア文化	中国語中国文学	2 (2) ①	3 (1) ①		5 (3) ②		4 (1) ①	3 (2) ②	2 (1) ①	9 (4) ④
		東アジア思想文化	4 (1) ③	2 ①		6 (1) ④	4 (2) ④	3 (1) ①	2 (2) ②	4 (1) ②	13 (6) ⑨
		インド文学・インド哲学・仏教学	2	1	3 (1)	6 (1)	2	3 (1)	1 (1) ①	9 (4) ③	15 (6) ④
		イスラム学	1	1 (1)	1	3 (1)	1 (1) ①	3		1	5 (1) ①
		アジア史	2 ①	1	2 (1)	5 (1) ①	6 (3) ④		1	11 (2) ③	18 (5) ⑦
欧米系文化研究	古典古代言語文化	西洋古典学	3		1	4	1	1	4	4 (2)	10 (2)
	ロマンス語圏言語文化	フランス語フランス文学	6 (2)	7 (3)	3 (1)	16 (6)	1	2 (2)	4	7 (4)	14 (6)
		南欧語南欧文学						1	2 (1)	2 (1)	5 (2)
	広域英語圏言語文化	英語英米文学	4 (2) ①	4 (2)	3 (1)	11 (5) ①	3 (2)	4 (1)	1	12 (4)	20 (7)
	ゲルマン語圏言語文化	ドイツ語ドイツ文学	5 (2)	3 (1)		8 (3)	3	3 (2)	2 (1)	9 (2)	17 (5)
	スラヴ語圏言語文化	スラヴ語スラヴ文学	4 (1)	1	1 (1)	6 (2)		1 (1)		3 (3)	4 (4)
	現代文芸論	現代文芸論	5 (2)	5 (3) ③	5 (2)	15 (7) ③	4 (1) ①	3 (2)	4 (3) ②	11 (5) ①	22 (11) ④
	欧米歴史地理文化	西洋史学	9 (2)	4	4 ①	17 (2) ①	1 (1)	2	4 (2)	13 (1)	20 (4)
社会文化研究	社会学	社会学	11 (4) ⑤	11 (4) ③	1 (1)	23 (9) ⑧	4 (2) ②	6 (2) ①	6 (1) ①	7 (2) ①	23 (7) ⑤
	社会心理学	社会心理学	5 (2)	1		6 (2)	2 (1)		4	3 (1)	9 (2)
文化資源学研究	文化資源学	文化資源学	4 (2)	2 (1)		6 (3)	2 (2)	1 (1)		4 (3)	7 (6)
	文化経営学	文化経営学	6 (3)	5 (4) ①		11 (7) ①	1		1 (1) ①	4 (4)	6 (5) ①
韓国朝鮮文化研究	韓国朝鮮歴史文化	韓国朝鮮歴史文化								4 (2) ③	4 (2) ③
	韓国朝鮮言語社会	韓国朝鮮言語社会	4 (1) ③	3 (3)		7 (4) ③	4 (1) ②	1 (1)	3 (1) ②	8 (8) ⑥	16 (11) ⑩
合計			133 (43) ⑱	119 (42) ⑯	57 (20) ④	309 (105) ㉞	65 (27) ⑱	73 (31) ⑩	66 (25) ⑰	179 (77) ㉝	383 (160) ㊽

令和3(2021)年度 大学院学生数

（注）( )内は女性、○数字は外国人を示し、内数

専攻	コース	専門分野	修士課程 2021年	修士課程 2020年	修士課程 19年以前	修士課程 計	博士課程 2021年	博士課程 2020年	博士課程 2019年	博士課程 18年以前	博士課程 計
基礎文化研究	言語基礎応用	言 語 学	5 (1)	7 (1) ①	2	14 (2) ①	6 (3)	5 (2) ①	2 (1)	6 (3) ②	19 (9) ③
	形象文化	考 古 学	3 (2) ①		2 ①	5 (2) ②	3 (1)	5 (2) ②		2 (1) ①	10 (4) ③
		美 術 史 学	3 (2) ①	4 (2)	1	8 (4) ①	1 (1) ①	2 (1)	3 (3)	8 (5) ②	14 (10) ③
	思想文化	哲 学	3	4 (1)	10	17 (1)	3	1	3	8 (2)	15 (2)
		倫 理 学	4	2	1 (1)	7 (1)	1	1		1 (1)	3 (1)
		宗教学宗教史学	5	8 (3) ①	3 (2)	16 (5) ①	7 (2) ②	4 (2) ①	3 (1)	10 (6) ②	24 (11) ⑤
		美学芸術学	5 (3) ②	5 (2) ①		10 (5) ③	4 ①		6 (3) ③	4 (2) ②	14 (5) ⑥
	心理学	心 理 学	2	4 (1)	1 (1)	7 (2)	2 (1)	1 (1)	6 (4) ①		9 (6) ①
日本文化研究	日本語日本文学	日本語日本文学	10 (4) ①	13 (6) ①	6 (4) ②	29 (14) ④	10 (2)	1 (1)	5 (4) ③	9 (5) ④	25 (12) ⑦
	日本史学	日 本 史 学	5 ①	9 (1)	4 (2) ②	18 (3) ③	7 (2) ②	3 (1)	6	11 (4) ③	27 (7) ⑤
アジア文化研究	アジア文化	中国語中国文学	2 ②	2 (2) ①	2 (1) ①	6 (3) ④	1 ①		4 (1) ①	5 (3) ③	10 (4) ⑤
		東アジア思想文化	3 (1) ①	4 (1) ③	1	8 (2) ④	2 ①	4 (2) ④	3 (1) ①	3 (2) ③	12 (5) ⑨
		インド文学・インド哲学・仏教学	4 (1) ①	2	1	7 (1)	2	2	3 (1)	8 (4)	15 (5)
		イスラム学		1		1		1 (1) ①	3		4 (1) ①
		アジア史	2 (2) ①	2 ①		4 (2) ②	1	6 (3) ④		8 (1) ③	15 (4) ⑦
欧米系文化研究	古典古代言語文化	西洋古典学	5 (1)	3		8 (1)	1		1	6 (1)	8 (1)
	ロマンス語圏言語文化	フランス語フランス文学	7 (1)	6 (2)	5 (1)	18 (4)	3 (1)	1	2 (2)	11 (4)	17 (7)
		南欧語南欧文学	2			2			1	3 (2)	4 (2)
	広域英語圏言語文化	英語英米文学	2	4 (2) ①	7 (3)	13 (5) ①		3 (2)	3	9 (3)	15 (5)
	ゲルマン語圏言語文化	ドイツ語ドイツ文学	2	4 (2)	1 (1)	7 (3)	1	3	3 (2)	7 (2)	14 (4)
	スラヴ語圏言語文化	スラヴ語スラヴ文学	3 (2)	4 (1)	1 (1)	8 (4)	1		1 (1)	3 (3)	5 (4)
	現代文芸論	現代文芸論	8 (2) ③	5 (2)	3 (1)	16 (5) ③	4 (2) ②	4 (1) ①	3 (2)	13 (8) ③	24 (13) ⑥
	欧米歴史地理文化	西洋史学	5 (1)	9 (2)	1	15 (3)	4	1 (1)	2	14 (2)	21 (3)
社会文化研究	社会学	社 会 学	8 (3) ②	11 (4) ⑤	3 (1) ①	22 (8) ⑧	3 (2) ①	4 (2) ②	6 (2) ①	10 (3) ②	23 (9) ⑥
	社会心理学	社会心理学	5 (2)	5 (2)		10 (4)	1	2 (1)		5 (1)	8 (2)
文化資源学研究	文化資源学	文化資源学	3 (3)	4 (2)	1	8 (5)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	6 (6)
	文化経営学	文化経営学	3 (3)	5 (3)		8 (6)	6 (3) ①	1		4 (4) ①	11 (7) ②
韓国朝鮮文化研究	韓国朝鮮歴史文化	韓国朝鮮歴史文化	1			1				3 (2) ②	3 (2) ②
	韓国朝鮮言語社会	韓国朝鮮言語社会	6 (4) ②	4 (1) ③	2 (2)	12 (7) ⑤	2 (2) ②	4 (1) ②	1 (1)	9 (7) ⑦	16 (11) ⑪
合 計			116 (38) ⑱	131 (43) ⑱	58 (21) ⑦	305 (102) ㊸	77 (23) ⑭	61 (26) ⑱	71 (30) ⑩	182 (83) ㊸	391 (162) ⑧⑤

(2) 教育の成果

A 大学院の学位取得状況

学位取得者数

	平成29(2017)年度		平成30(2018)年度		平成31(2019)年度		令和2(2020)年度		令和3(2021)年度	
	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士
人文社会系研究科	103	59(3)	126	50(5)	100	45(3)	114	47(1)	107	40(3)

( )はいわゆる論文博士で内数

B　学部卒業生の進路

令和2(2020)年3月卒業者進路状況

項目 / 専修課程	卒業者総数	進学者			就職者					未就職者			不明者
		大学院	専修・外国	計	企業	官庁	教育	その他	計	就職準備中	その他	計	
文学部全体	334 (92)	76 (13)	1	77 (13)	213 (67)	13 (4)	9 (1)		235 (72)	6 (4)	12 (2)	18 (6)	4 (1)

各学科内訳
（思想文化学科）

項目 / 専修課程	卒業者総数	進学者			就職者					未就職者			不明者
		大学院	専修・外国	計	企業	官庁	教育	その他	計	就職準備中	その他	計	
哲学	11 (2)	3 (1)		3 (1)	8 (1)				8 (1)				
中国思想文化学	1										1	1	
インド哲学仏教学	2	2		2									
倫理学	11	1		1	9		1		10				
宗教学宗教史学	8 (3)	2		2	6 (3)				6 (3)				
美学芸術学	20 (9)	7 (2)		7 (2)	11 (6)				11 (6)		1 (1)	1 (1)	1
イスラム学	4	1		1	3				3				
（思想文化学科　計）	57 (14)	16 (3)		16 (3)	37 (10)		1		38 (10)		2 (1)	2 (1)	1

（歴史文化学科）

項目 / 専修課程	卒業者総数	進学者			就職者					未就職者			不明者
		大学院	専修・外国	計	企業	官庁	教育	その他	計	就職準備中	その他	計	
日本史学	23	8		8	11	2	1		14				1
東洋史学	17 (5)	2		2	11 (4)	1	1		13 (4)	1 (1)	1	2 (1)	
西洋史学	25 (3)	4 (1)		4 (1)	17 (2)	2	1		20 (2)		1	1	
考古学	3				3				3				
美術史学	15 (7)	4 (1)		4 (1)	8 (5)		1		9 (5)	1 (1)	1	2 (1)	
（歴史文化学科　計）	83 (15)	18 (2)		18 (2)	50 (11)	5	4		59 (11)	2 (2)	3	5 (2)	1

（言語文化学科）

項目 / 専修課程	卒業者総数	進学者			就職者					未就職者			不明者
		大学院	専修・外国	計	企業	官庁	教育	その他	計	就職準備中	その他	計	
言語学	21 (2)	5		5	14 (1)		1		15 (1)		1 (1)	1 (1)	
日本語日本文学（国語学）	7				5	1			6	1		1	
日本語日本文学（国文学）	20 (8)	8 (3)		8 (3)	8 (4)		1		9 (4)	1	1	2	1 (1)
中国語中国文学	2 (1)	1 (1)		1 (1)	1				1				
インド語インド文学	1	1		1									
英語英米文学	21 (6)	1		1	17 (5)		2 (1)		19 (6)		1	1	
ドイツ語ドイツ文学	2	2		2									
フランス語フランス文学	10 (3)	4 (1)		4 (1)	3 (1)				3 (1)	1 (1)	2	3 (1)	
スラヴ語スラヴ文学	4	4		4									
南欧語南欧文学	2 (1)				2 (1)				2 (1)				
現代文芸論	11 (3)	2		2	8 (2)				8 (2)	1 (1)		1 (1)	
西洋古典学	3	2		2									1
（言語文化学科　計）	104 (24)	30 (5)		30 (5)	58 (14)	1	4 (1)		63 (15)	4 (2)	5 (1)	9 (3)	2 (1)

（行動文化学科）

項目 / 専修課程	卒業者総数	進学者			就職者					未就職者			不明者
		大学院	専修・外国	計	企業	官庁	教育	その他	計	就職準備中	その他	計	
心理学	20 (4)	4		4	15 (4)				15 (4)		1	1	
社会心理学	21 (12)	3		3	14 (9)	3 (3)			17 (12)		1	1	
社会学	49 (23)	5 (3)	1	6 (3)	39 (19)	4 (1)			43 (20)				
（行動文化学科　計）	90 (39)	12 (3)	1	13 (3)	68 (32)	7 (4)			75 (36)		2	2	

(　)内は、女子で内数

令和3(2021)年3月卒業者進路状況

項目 / 専修課程	卒業者総数	進学者			就職者					未就職者			不明者
		大学院	専修・外国	計	企業	官庁	教育	その他	計	就職準備中	その他	計	
文学部全体	345 (111)	84 (23)	1	85 (23)	186 (72)	21 (9)	11 (1)	3	221 (82)	14 (3)	19 (2)	33 (5)	6 (1)

各学科内訳
（思想文化学科）

項目 / 専修課程	卒業者総数	進学者			就職者					未就職者			不明者
		大学院	専修・外国	計	企業	官庁	教育	その他	計	就職準備中	その他	計	
哲学	19 (2)	7 (1)	1	8 (1)	4	2	1		7	1 (1)	1	2 (1)	2
中国思想文化学	2 (1)	2 (1)		2 (1)									
インド哲学仏教学	6 (1)	2		2	1 (1)				1 (1)	1	2	3	
倫理学	6 (2)	2		2	4 (2)				4 (2)				
宗教学宗教史学	18 (6)	4 (1)		4 (1)	9 (4)	1 (1)	2		12 (5)	1		1	1
美学芸術学	21 (6)	4 (1)		4 (1)	13 (4)				13 (4)	1	1	2	2 (1)
イスラム学													
（思想文化学科　計）	72 (18)	21 (4)	1	22 (4)	31 (11)	3 (1)	3		37 (12)	4 (1)	4	8 (1)	5 (1)

（歴史文化学科）

項目 / 専修課程	卒業者総数	進学者			就職者					未就職者			不明者
		大学院	専修・外国	計	企業	官庁	教育	その他	計	就職準備中	その他	計	
日本史学	28 (7)	7 (2)		7 (2)	14 (4)	2	2		18 (4)	2 (1)	1	3 (1)	
東洋史学	16 (4)	2 (1)		2 (1)	11 (2)		1 (1)	1	13 (3)		1	1	
西洋史学	13 (4)	3 (1)		3 (1)	6 (3)	1		1	8 (3)	1	1	2	
考古学	7 (1)	2 (1)		2 (1)	2		1		3		2	2	
美術史学	12 (8)	3 (2)		3 (2)	6 (3)	2 (2)			8 (5)		1 (1)	1 (1)	
（歴史文化学科　計）	76 (24)	17 (7)		17 (7)	39 (12)	5 (2)	4 (1)	2	50 (15)	3 (1)	6 (1)	9 (2)	

（言語文化学科）

項目 / 専修課程	卒業者総数	進学者			就職者					未就職者			不明者
		大学院	専修・外国	計	企業	官庁	教育	その他	計	就職準備中	その他	計	
言語学	15 (4)	3		3	8 (3)	3 (1)	1		12 (4)				
日本語日本文学（国語学）	8 (3)	3		3	2 (2)	1 (1)			3 (3)	2		2	
日本語日本文学（国文学）	16 (6)	6 (3)		6 (3)	8 (1)	1 (1)			9 (2)	1 (1)		1 (1)	
中国語中国文学													
インド語インド文学	1	1		1									
英語英米文学	26 (4)	4		4	17 (3)		2		19 (3)	1	2 (1)	3 (1)	
ドイツ語ドイツ文学	1				1				1				
フランス語フランス文学	9 (2)	4 (1)		4 (1)	2 (1)				2 (1)		3	3	
スラヴ語スラヴ文学	1					1			1				
南欧語南欧文学	1	1		1									
現代文芸論	8 (2)	3 (1)		3 (1)	2 (1)			1	3 (1)	1	1	2	
西洋古典学	6 (2)	3		3	2 (2)	1			3 (2)				
（言語文化学科　計）	92 (23)	28 (5)		28 (5)	42 (13)	7 (3)	3	1	53 (16)	5 (1)	6 (1)	11 (2)	

（行動文化学科）

項目 / 専修課程	卒業者総数	進学者			就職者					未就職者			不明者
		大学院	専修・外国	計	企業	官庁	教育	その他	計	就職準備中	その他	計	
心理学	25 (9)	6 (2)		6 (2)	15 (6)	2 (1)			17 (7)		1	1	1
社会心理学	21 (8)	2 (1)		2 (1)	18 (7)				18 (7)		1	1	
社会学	59 (29)	10 (4)		10 (4)	41 (23)	4 (2)	1		46 (25)	2	1	3	
（行動文化学科　計）	105 (46)	18 (7)		18 (7)	74 (36)	6 (3)	1		81 (39)	2	3	5	1

(　)内は、女子で内数

C　学部卒業生の就職状況

令和2(2020)年3月卒業者

専修課程＼業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	ｴﾈﾙｷﾞｰ	教育	官公庁	その他
文学部全体	13 (6)	2	7 (4)	5 (3)	39 (10)	38 (6)	33 (12)	7 (2)	11 (4)	4 (1)	24 (6)	28 (12)	2 (1)	9 (1)	13 (4)	

（思想文化学科）

専修課程＼業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	ｴﾈﾙｷﾞｰ	教育	官公庁	その他
哲学					4	3						1 (1)				
中国思想文化学																
インド哲学仏教学																
倫理学	1			1		3	3		1					1		
宗教学宗教史学	1					1	1 (1)				2 (1)	1 (1)				
美学芸術学	2 (1)		1	2 (1)	1	1	2 (2)					2 (2)				
イスラム学					2					1						
（思想文化学科　計）	4 (1)		1	3 (1)	7	8	6 (3)		1	1	2 (1)	4 (4)		1		

（歴史文化学科）

専修課程＼業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	ｴﾈﾙｷﾞｰ	教育	官公庁	その他
日本史学		1			1	3	1				3	2		1	2	
東洋史学	1 (1)	1			2 (1)			2		1	2 (1)	1 (1)	1	1	1	
西洋史学					4	4	3	1	2 (1)			3 (1)		1	2	
考古学						1	1				1					
美術史学	2 (1)			1 (1)	2 (2)	2 (1)					1			1		
（歴史文化学科　計）	3 (2)	2		1 (1)	9 (3)	10 (1)	5	3	2 (1)	1	7 (1)	6 (2)	1	4	5	

（言語文化学科）

専修課程＼業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	ｴﾈﾙｷﾞｰ	教育	官公庁	その他
言語学					3	5	1 (1)	1	1	1	1	1		1		
日本語日本文学(国語学)					3	1						1			1	
日本語日本文学(国文学)	2 (1)			1 (1)	3 (1)		2 (1)							1		
中国語中国文学												1				
インド語インド文学																
英語英米文学	1		1		1	1 (1)	6 (2)	1 (1)			4	2 (1)		2 (1)		
ドイツ語ドイツ文学																
フランス語フランス文学						1			1	1 (1)						
スラヴ語スラヴ文学																
南欧語南欧文学	2 (1)															
現代文芸論			1 (1)		1	2	1 (1)					3				
西洋古典学																
（言語文化学科　計）	5 (2)		2 (1)	1 (1)	11 (1)	10 (1)	10 (5)	2 (1)	2	2 (1)	5	8 (1)		4 (1)	1	

（行動文化学科）

専修課程＼業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	ｴﾈﾙｷﾞｰ	教育	官公庁	その他
心理学					1	2 (1)	3	2 (1)	2 (1)		1	4 (1)				
社会心理学			1 (1)		2 (1)	1 (1)	3 (1)		1 (1)		4 (2)	1 (1)	1 (1)		3 (3)	
社会学	1 (1)		3 (2)		9 (5)	7 (2)	6 (3)		3 (1)		5 (2)	5 (3)			4 (1)	
（行動文化学科　計）	1 (1)		4 (3)		12 (6)	10 (4)	12 (4)	2 (1)	6 (3)		10 (4)	10 (5)	1 (1)		7 (4)	

(　)内は、女子で内数

令和3(2021)年3月卒業者

専修課程＼業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	ｴﾈﾙｷﾞｰ	教育	官公庁	その他
文学部全体	10 (6)	4 (2)	7	4 (2)	38 (15)	17 (3)	30 (14)	16 (7)	10 (4)	3 (2)	22 (6)	20 (9)	5 (2)	11 (1)	21 (9)	3

（思想文化学科）

専修課程＼業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	ｴﾈﾙｷﾞｰ	教育	官公庁	その他
哲学					2	1			1					1	2	
中国思想文化学																
インド哲学仏教学							1 (1)									
倫理学						1	2 (1)				1 (1)					
宗教学宗教史学			1		4 (2)			1 (1)			3 (1)			2	1 (1)	
美学芸術学	2 (1)			1	5 (1)	1		1 (1)	1		1	1 (1)				
イスラム学																
（思想文化学科　計）	2 (1)		1	1	11 (3)	3	3 (2)	2 (2)	2		5 (2)	1 (1)		3	3 (1)	

（歴史文化学科）

専修課程＼業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	ｴﾈﾙｷﾞｰ	教育	官公庁	その他
日本史学		1	2		1 (1)	1	5		2 (1)		1 (1)		1 (1)	2	2	
東洋史学					5 (1)		1				3	1 (1)	1	1 (1)		1
西洋史学		1					1 (1)	1			1 (1)	2 (1)			1	1
考古学						1					1			1		
美術史学	1 (1)				2					1 (1)	1 (1)	1			2 (2)	
（歴史文化学科　計）	1 (1)	2	2		8 (2)	2	7 (1)	1	2 (1)	1 (1)	7 (3)	4 (2)	2 (1)	4 (1)	5 (2)	2

（言語文化学科）

専修課程＼業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	ｴﾈﾙｷﾞｰ	教育	官公庁	その他
言語学					4 (2)		1	1			1	1 (1)		1	3 (1)	
日本語日本文学(国語学)												2 (2)			1 (1)	
日本語日本文学(国文学)	1 (1)		1		1	2			1		1	1			1 (1)	
中国語中国文学																
インド語インド文学																
英語英米文学	2 (2)		1	1	2	1	4	2		1 (1)	2	1		2		
ドイツ語ドイツ文学												1				
フランス語フランス文学					2 (1)											
スラヴ語スラヴ文学															1	
南欧語南欧文学																
現代文芸論					1							1 (1)				1
西洋古典学					1 (1)	1 (1)									1	
（言語文化学科　計）	3 (3)		2	1	11 (4)	4 (1)	5	3	1	1 (1)	4	7 (4)		3	7 (3)	1

（行動文化学科）

専修課程＼業種	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	ｴﾈﾙｷﾞｰ	教育	官公庁	その他
心理学	1 (1)		1		1 (1)	2	4 (2)	2 (1)			1	2 (1)	1		2 (1)	
社会心理学					1 (1)	3 (1)	6 (4)	2 (1)	1	1	2	1	1			
社会学	3	2 (2)	1	2 (2)	6 (4)	3 (1)	5 (5)	6 (3)	4 (3)		3 (1)	5 (1)	1 (1)	1	4 (2)	
（行動文化学科　計）	4 (1)	2 (2)	2	2 (2)	8 (6)	8 (2)	15 (11)	10 (5)	5 (3)	1	6 (1)	8 (2)	3 (1)	1	6 (3)	

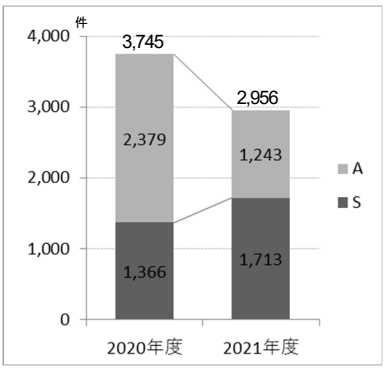
(　)内は、女子で内数

D　授業改善への取り組み

2009 年度より研究科・文学部の取り組みとして、専任および非常勤教員と各研究室の協力を得て、授業改善アンケートを実施している。集計作業は、教育研究情報管理室が行ない、集計結果は教授会で周知し、各教員には担当授業の結果を通知して授業改善に資している。2020 年度 S セメスターから、コロナウィルス感染拡大により開始されたオンライン授業に対応するため、従来の紙媒体でのアンケートを UTAS のアンケート機能を利用したオンラインアンケートに改め、同 A セメスターからは全授業でアンケートを実施することとした。また、質問項目もそれに合わせて一部変更した。

自由記述を除く研究科・文学部全体の集計結果は下記の通りである。

2020-21 年度 アンケート回答総数



授業改善アンケート質問項目　（2021 年度）

[Q1]　あなたはこの授業にどれくらい出席しましたか？
1- 80%以上　2- 79%～60%　3- 59～40%　4- 39%～20%　5- 20%未満

[Q2]　あなたにとって授業の難易度はどうですか？
1- 易しすぎる　2- やや易しい　3- ちょうどよい　4- やや難しい　5- 難しすぎる

[Q3]　授業中、議論・質問の機会は適切に与えられていると思いますか？
1- 非常に適切である　2- 適切である　3- どちらでもない　4- あまり適切でない　5- まったく適切でない

[Q4]　授業中の質問に対する先生の対応はどうですか？
1- 大変熱心である　2- 概ね熱心である　3- 普通である　4- あまり熱心でない　5- 不熱心である

[Q5]　教員の講義技術（説明の仕方や板書など）について、どう思いますか？
1- 非常に優れている　2- 優れている　3- どちらでもない　4- 劣っている　5- 非常に劣っている

[Q6]　授業はよく準備・計画されていると思いますか？
1- とてもよく準備されている　2 -よく準備されている　3- どちらでもない　4- やや準備不足である
5- 準備不足である

[Q7]　授業を受講して、この授業がテーマとする分野への問題意識や関心は深まりましたか？
1- 大いに深まった　2- やや深まった　3- どちらでもない　4- あまり深まらなかった
5- まったく深まらなかった

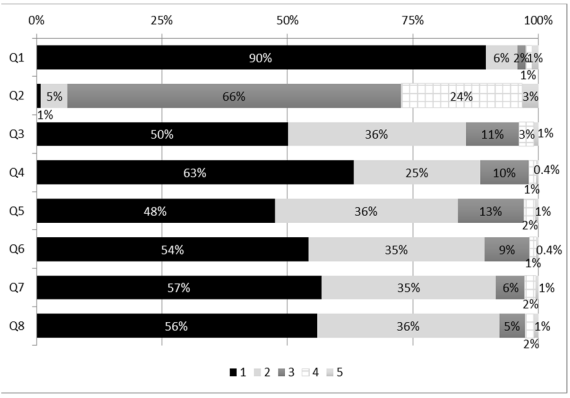
[Q8]　授業を受講して、新たな知識や知力が身についたと感じますか？
1- 非常に感じる　2- やや感じる　3- どちらでもない　4- あまり感じない　5- まったく感じない

[Q9]　この授業は以下のどの形で参加しましたか。
1- 対面のみ　2- 対面+オンライン　3- オンラインのみ

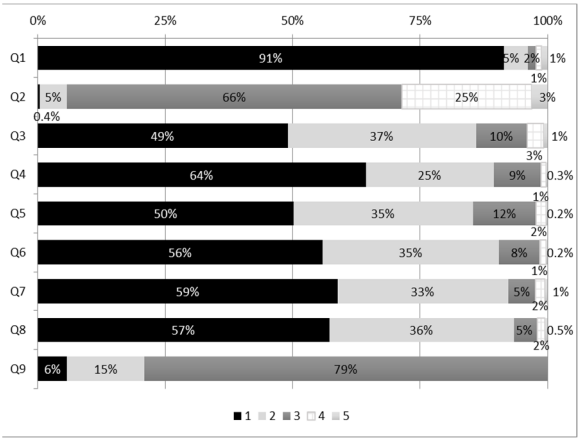
[Q10]　オンライン・ハイブリッド授業の授業方法、Zoom 会議の設定などに関して、オンライン授業という形式で実施されたことに由来する改善要望やその他意見、感想があれば自由に記入して下さい。【自由記述式 400 文字以内】

[Q11]　問 10 以外に、授業方法、設備などに関する改善要望や、その他意見、感想があれば自由に記入してください。
【自由記述式400 文字以内】

2020 年度 S+A セメスター 回答傾向



2021 年度 S+A セメスター 回答傾向



2020 年度の Q3-Q6 は授業形態に合わせ自由回答。Q9 設問なし。

E　後期教養教育科目

総合的教育改革では、1，2 年生だけにとどまらない学部 4 年間を通しての後期教養教育の実施を構想してきた。現代の人間はさまざまな制約を受けている。日本語しか知らなければ、他言語の思考が日本語の思考とどのように異なるのか考えることができない。ある分野の専門家になっても、他分野のことを全く知らないと、目の前の大事な課題について他分野のひとと効果的な協力をすることができない。これらの制約から解き放たれて自由になるための知識や技芸が、リベラルアーツである。

これまで東京大学では前期課程の 2 年間で教養教育をおこなってきたが、教養教育は、専門課程にすすんだあとも続くべきものである。自分とは異なる分野を学び異なる価値観をもつ他者と出会うことによって、自らの専門が今の社会でどのような位置づけにあり、他領域とどう連携できるかに気づけるのである。そのためには、古典を読む、別分野の最先端の研究に触れる、詩にふれる、比較してみる、などさまざまな形が必要である。

このようなリベラルアーツにおいては、専門分野、言語、国籍、所属の境界を横断して複数の領域や文化を行き来することになり、よりダイナミックな思考が必要とされるであろう。たとえば他学部聴講は、出講学部のバックグラウンドをもつ学生のなかに、他学部のバックグラウンドをもつ少数の学生、つまりアウェイの学生が入ることである。そのアウェイの学生は、ホームの学部とアウェイの学部を往復することで、自らの専門性を相対化することができる。また学問の世界と現実の課題、あるいは専門的知性と市民的知性との間の往復は、自らの研究成果が社会のなかにどう取り込まれ展開されるのか想像する能力を涵養する。これは研究倫理を支える基盤ともなる。

このように、自分とは異なる専門や価値観をもつ他者と対話しながら、自分の価値観を柔軟に組み換えるリベラルアーツ教育を、後期課程のなかで展開するのが後期教養科目である。本学部では、2015 年から後期教養科目の設立に参加し、初年度は 53 科目を当該科目として登録し、2021 年度には 90 科目を提供している。また、2019 年度からは大学院生の後期教養科目が新たに設定された。2021 年度には 43 科目が開講され、大学院生による広い知の展望への期待に応えている。

2020 年度後期教養教育科目開講一覧（学部）

科目名	講義題目	教員氏名	推奨科目
多分野講義Ⅱ	メディア間翻訳・翻案研究：文学テクストの映像化・舞台化（3）	小林　真理 楯岡　求美	
死生学概論	死生学の射程	堀江　宗正ほか	○
死生学特殊講義Ⅰ	臨床死生学・倫理学の諸問題Ⅰ	会田　薫子	
死生学特殊講義Ⅱ	認識をめぐる不正義と責任：現代認識論の一展開	早川　正祐	
死生学特殊講義Ⅲ	自律についての関係的なアプローチ：現代行為論・自由論の一展開	早川　正祐	
死生学特殊講義Ⅳ	批判的死生学	堀江　宗正	
死生学特殊講義Ⅴ	死と不安の社会学	澤井　敦	
死生学特殊講義Ⅵ	臨床死生学・倫理学の諸問題Ⅱ	会田　薫子	
死生学特殊講義Ⅶ	臨床老年死生学入門	会田　薫子	
死生学特殊講義Ⅷ	ケアの倫理	早川　正祐	
死生学特殊講義Ⅸ	死生をめぐる偶然と確率の問題	乗立　雄輝	
死生学演習Ⅰ	生命論と感覚論哲学	小松　美彦	
死生学演習Ⅱ	死生学基礎文献講読	池澤　優	
死生学演習Ⅲ	自殺研究	堀江　宗正	
死生学演習Ⅳ	病いの語りをめぐる倫理	早川　正祐	
応用倫理概論	応用倫理入門	池澤　優ほか	○
応用倫理特殊講義Ⅰ	先端医療と死生観Ⅱ	小松　美彦	
応用倫理特殊講義Ⅱ	研究不正・非人道的研究・その歴史構造	小松　美彦	
応用倫理特殊講義Ⅲ	病院における患者の死の歴史 c.1500–c.2000	鈴木　晃仁	
応用倫理特殊講義Ⅳ	食と場所の環境倫理	福永　真弓	
応用倫理特殊講義Ⅴ	現代の「野蛮」に抗うために	田中　智彦	
応用倫理特殊講義Ⅵ	「丸腰」の人びとの生存技術	植田　今日子	
応用倫理特殊講義Ⅶ	現象学的な質的研究入門	村上　靖彦	
応用倫理演習Ⅰ	環境倫理文献講読	池澤　優	
応用倫理演習Ⅱ	質的研究法入門	会田　薫子	
応用倫理演習Ⅲ	科学的生命観と人生論的生命観Ⅴ	小松　美彦	
インド哲学史概説Ⅰ	インド思想史(1)	加藤　隆宏	
比較仏教論	アジア世界の仏教	袁輪　顕量	○
インド哲学仏教学特殊講義Ⅴ	上座部仏教文献講読	馬場　紀寿	
倫理学概論Ⅰ	倫理学ならびに実践哲学の基本概念	熊野　純彦	○
倫理学概論Ⅱ	日本倫理思想史概説	頼住　光子	
西洋倫理思想史概説Ⅰ	言葉をめぐる倫理思想史	古田　徹也	
西洋倫理思想史概説Ⅱ	言葉をめぐる倫理思想史	古田　徹也	
東洋倫理思想史概説Ⅰ	倫理学・日本倫理思想史の基礎（1）	吉田　真樹	
東洋倫理思想史概説Ⅱ	倫理学・日本倫理思想史の基礎（2）	吉田　真樹	
倫理学特殊講義Ⅰ	倫理学の基本問題	古田　徹也	
倫理学特殊講義Ⅱ	日本倫理思想史の基礎づけ	木村　純二	
倫理学特殊講義Ⅲ	「よい死」についての領域横断的研究：哲学、終末期ケア、精神分析	荒谷　大輔	
倫理学特殊講義Ⅳ	「人格」概念の倫理思想史	宮村　悠介	
美学概論	美学の基礎概念	小田部　胤久	○
芸術学概論	芸術学の諸問題	三浦　俊彦	
東洋史学特殊講義Ⅲ	近世海域アジアと日本	島田　竜登	○
東洋史学特殊講義Ⅳ	朝鮮時代史論	六反田　豊	
東洋史学特殊講義Ⅴ	朝鮮前期漕運研究	六反田　豊	

科目名	講義題目	教員氏名	推奨科目
西洋史学研究入門	西洋史学研究入門	高山　博 橋場　弦 勝田　俊輔 池田　嘉郎	
西洋史学特殊講義Ⅰ	中世ヨーロッパ世界、11～14世紀	高山　博	
西洋史学特殊講義Ⅱ	中世地中海世界	高山　博	
西洋史学特殊講義Ⅲ	古代ギリシア民主政の研究	橋場　弦	○
西洋史学特殊講義Ⅴ	近現代フランスの政治と社会	長井　伸仁	
西洋史学特殊講義Ⅷ	近現代ロシアの国制と社会(1)	池田　嘉郎	
西洋史学特殊講義Ⅸ	近現代ロシアの国制と社会(2)	池田　嘉郎	
国文学特殊講義Ⅲ	源氏物語第一部後半の研究	高木　和子	
国文学特殊講義Ⅳ	源氏物語第二部の研究	高木　和子	
国文学特殊講義Ⅷ	総合日本文学研究	安藤　宏 渡部　泰明 鉄野　昌弘 高木　和子 佐藤　至子 木下　華子	
中国語学中国文学演習Ⅳ	古典詩文入門	齋藤　希史	○
中国語学中国文学演習Ⅴ	中国近現代文学を読む	鈴木　将久	
印度文学史概説Ⅰ	インド古典中世文学・文献案内	水野　善文	
印度文学史概説Ⅱ	インド哲学文献概論	高橋　晃一	
フランス語学概論Ⅰ	フランス語学概論Ⅰ	杉山　利恵子	
フランス語学概論Ⅱ	フランス語学概論Ⅱ	杉山　利恵子	
スラヴ語学スラヴ文学特殊講義Ⅰ	南スラヴ語比較研究	三谷　惠子	
スラヴ語学スラヴ文学特殊講義Ⅳ	旧ソ連東欧の映像と文学	楯岡　求美 阿部　賢一 越野　剛	○
現代文芸論概説Ⅰ	文化批評（2）	阿部　賢一	
社会心理学概論Ⅰ	社会・集団・家族心理学	白岩　祐子	○
社会心理学概論Ⅱ	社会行動の適応的基盤	亀田　達也	
韓国朝鮮文化特殊講義Ⅰ	朝鮮時代史論	六反田　豊	
韓国朝鮮文化特殊講義Ⅱ	朝鮮前期漕運研究	六反田　豊	
韓国朝鮮文化特殊講義Ⅲ	韓国の社会人類学	本田　洋	
韓国朝鮮文化特殊講義Ⅳ	社会人類学方法論	本田　洋	
韓国朝鮮文化特殊講義Ⅴ	韓国の社会問題と社会政策Ⅰ	金　成垣	
韓国朝鮮文化特殊講義Ⅵ	韓国の社会問題と社会政策Ⅱ	金　成垣	
文化交流特殊講義Ⅰ	古代ギリシア美術の諸問題	芳賀　京子	
文化交流特殊講義Ⅱ	古代ローマ美術の諸問題	芳賀　京子	○
文化交流特殊講義Ⅲ	中国ムスリムの思想	佐藤　実	
文化交流特殊講義Ⅳ	日本美術における近代の問題	古田　亮	
文化交流特殊講義Ⅴ	西洋初期中世美術の諸相	奈良澤　由美	
文化人類学	社会人類学方法論	本田　洋	○
フランス語前期Ⅰ	フランス語前期Ⅰ	横山　安由美	
フランス語前期Ⅱ	フランス語前期Ⅱ	横山　安由美	
フランス語後期Ⅰ	フランス語後期Ⅰ	井上　櫻子	
フランス語後期Ⅱ	フランス語後期Ⅱ	井上　櫻子	
朝日講座「不安の時代」	朝日講座「不安の時代」	勝田　俊輔 菊地　達也	○

2021 年度後期教養教育科目開講一覧（学部）

科目名	講義題目	教員氏名	推奨科目
研究倫理入門	患者と歴史と倫理	鈴木　晃仁	○
多分野講義Ⅱ	メディア間翻訳・翻案研究：文学テクストの映像化・舞台化（4）	小林　真理 新井　潤美 橋岡　求美 阿部　賢一	
死生学概論	死生学の射程	堀江　宗正ほか	○
死生学特殊講義Ⅰ	臨床死生学・倫理学の諸問題Ⅰ	会田　薫子	
死生学特殊講義Ⅱ	臨床死生学・倫理学の諸問題Ⅱ	会田　薫子	
死生学特殊講義Ⅲ	臨床老年死生学入門	会田　薫子	
死生学特殊講義Ⅳ	共感とケアの哲学	早川　正祐	
死生学特殊講義Ⅴ	自律についての関係的なアプローチ：現代行為論・自由論の一展開	早川　正祐	
死生学特殊講義Ⅵ	認識をめぐる不正義と責任：現代認識論の一展開	早川　正祐	
死生学特殊講義Ⅶ	死生をめぐる偶然と確率の問題	乗立　雄輝	
死生学特殊講義Ⅷ	死と不安の社会学	澤井　敦	
死生学特殊講義Ⅸ	死生をめぐる実存哲学の諸問題	古荘　真敬	
死生学演習Ⅰ	病いの語りをめぐる倫理	早川　正祐	
死生学演習Ⅱ	死生学文献講読	堀江　宗正	
死生学演習Ⅲ	症例の歴史と倫理Ⅰ	鈴木　晃仁	
応用倫理概論	応用倫理入門	鈴木　晃仁 池澤　優	○
応用倫理特殊講義Ⅰ	技術時代の倫理――ハイデガー哲学の視座より	轟　孝夫	
応用倫理特殊講義Ⅱ	都市の環境倫理	吉永　明弘	
応用倫理特殊講義Ⅲ	食と場所の環境倫理	福永　真弓	
応用倫理特殊講義Ⅳ	現象学的な質的研究の方法	村上　靖彦	
応用倫理特殊講義Ⅴ	患者と歴史と倫理	鈴木　晃仁	
応用倫理特殊講義Ⅶ	〈亡所〉の環境史／倫理学	北條　勝貴	
応用倫理演習Ⅰ	質的研究法入門	会田　薫子	
応用倫理演習Ⅱ	症例の歴史と倫理II	鈴木　晃仁	
応用倫理演習Ⅲ	未来倫理の探究	堀江　宗正	
インド哲学史概説Ⅰ	インド思想史(1)	加藤　隆宏	
比較仏教論	アジア世界の仏教	袁輪　顕量	○
倫理学概論Ⅰ	倫理学ならびに実践哲学の基本概念	熊野　純彦	○
倫理学概論Ⅱ	日本倫理思想史概説	頼住　光子	○
西洋倫理思想史概説Ⅰ	懐疑論をめぐる倫理思想史	古田　徹也	
西洋倫理思想史概説Ⅱ	懐疑論をめぐる倫理思想史	古田　徹也	
東洋倫理思想史概説Ⅰ	倫理学・日本倫理思想史の基礎(1)	頼住　光子	
東洋倫理思想史概説Ⅱ	倫理学・日本倫理思想史の基礎(2)	吉田　真樹	
倫理学特殊講義Ⅰ	日本の禅思想	石井　清純	
倫理学特殊講義Ⅱ	西洋近代哲学の諸問題	三重野　清顕	
倫理学特殊講義Ⅲ	中世日本の倫理思想	古田　徹也 長野　邦彦	
美学概論	美学の基礎概念	小田部　胤久	○
芸術学概論	芸術学と芸術哲学	三浦　俊彦	○
東洋史学特殊講義Ⅲ	港市国家アユタヤ朝のグローバル・ヒストリー	島田　竜登	
東洋史学特殊講義Ⅳ	朝鮮時代史論	六反田　豊	○
東洋史学特殊講義Ⅴ	朝鮮前期漕運研究	六反田　豊	
西洋史学特殊講義Ⅰ	中世ヨーロッパ世界、5～11世紀	高山　博	○
西洋史学特殊講義Ⅱ	中世フランスの王権と諸侯	高山　博	
西洋史学特殊講義Ⅲ	古代ギリシア民主政の研究　Ⅰ	橋場　弦	
西洋史学特殊講義Ⅳ	古代ギリシア民主政の研究　Ⅱ	橋場　弦	

科目名	講義題目	教員氏名	推奨科目
西洋史学特殊講義Ⅵ	19世紀連合王国におけるユニオニズム	勝田　俊輔	
西洋史学特殊講義Ⅶ	18世紀西洋世界におけるコスモポリタニズム	勝田　俊輔	
国文学特殊講義Ⅲ	源氏物語を読む	高木　和子	
国文学特殊講義Ⅴ	萬葉集巻一を読む	鉄野　昌弘	
国文学特殊講義Ⅶ	萬葉集巻二を読む	鉄野　昌弘	
中国語学概論	古代中国の文字と言葉	大西　克也	○
中国語学中国文学演習Ⅳ	古典詩文入門	齋藤　希史	
中国語学中国文学演習Ⅴ	中国近現代文学を読む	鈴木　将久	
印度文学史概説Ⅰ	インド古典中世文学・文献案内	伊澤　敦子	
印度文学史概説Ⅱ	インド哲学文献概論	高橋　晃一	
フランス語学概論Ⅰ	フランス語学概論I	杉山　利恵子	
フランス語学概論Ⅱ	フランス語学概論Ⅱ	杉山　利恵子	
スラヴ語学概論	スラヴ語史入門	三谷　惠子	
スラヴ語圏言語文化	ボスニア語・クロアチア語・セルビア語初級	三谷　惠子	
スラヴ語学スラヴ文学特殊講義Ⅲ	旧ソ連東欧の映像と文学	橋岡　求美 阿部　賢一 古宮　路子	
スラヴ語学スラヴ文学特殊講義Ⅶ	ブルガリア語入門	Martchev Milen	
スラヴ語学スラヴ文学特殊講義Ⅷ	ポーランドの言語と文化	小椋　彩	
スラヴ語学スラヴ文学特殊講義Ⅸ	ロシア文化史	橋岡　求美	
スラヴ語学スラヴ文学特殊講義Ⅹ	ロシア・ソ連小説評論読解Ⅰ	橋岡　求美 古宮　路子	
スラヴ語学スラヴ文学特殊講義Ⅺ	ロシア・ソ連小説評論読解Ⅱ	橋岡　求美 古宮　路子	
スラヴ語学スラヴ文学特殊講義Ⅺ	ロシア・ソ連小説評論読解Ⅱ	橋岡　求美 古宮　路子	
スラヴ語学スラヴ文学演習Ⅱ	ソ連文学読解	橋岡　求美	
現代文芸論概説Ⅱ	文化批評(2)	阿部　賢一	
社会心理学概論Ⅰ	社会・集団・家族心理学	村本　由紀子	
社会心理学概論Ⅱ	対人認知の社会心理学	唐沢　かおり	○
社会学特殊講義Ⅱ	韓国の社会人類学	本田　洋	
韓国朝鮮文化特殊講義Ⅰ	朝鮮時代史論	六反田　豊	
韓国朝鮮文化特殊講義Ⅱ	朝鮮前期漕運研究	六反田　豊	
韓国朝鮮文化特殊講義Ⅲ	韓国の社会人類学	本田　洋	
韓国朝鮮文化特殊講義Ⅳ	文化人類学と民族誌	本田　洋	
韓国朝鮮文化特殊講義Ⅴ	韓国の社会問題と社会政策Ⅰ	金　成垣	
韓国朝鮮文化特殊講義Ⅵ	韓国の社会問題と社会政策Ⅱ	金　成垣	
文化交流特殊講義Ⅰ	東アジアにおける自由の思想	小島　毅	○
文化交流特殊講義Ⅱ	日本での論語の読まれ方	小島　毅	
文化交流特殊講義Ⅲ	古代ギリシア美術の諸問題	芳賀　京子	○
文化交流特殊講義Ⅳ	古代ローマ美術の諸問題	芳賀　京子	
文化交流特殊講義Ⅴ	東アジアにおける科挙と文学	高津　孝	
文化交流特殊講義Ⅵ	ユダヤ教美術の諸相	加藤　磨珠枝	
文化人類学	文化人類学と民族誌	本田　洋	
フランス語前期Ⅰ	フランス語前期Ⅰ	原　大地	
フランス語前期Ⅱ	フランス語前期Ⅱ	原　大地	
フランス語後期Ⅰ	フランス語後期Ⅰ	横山　安由美	
フランス語後期Ⅱ	フランス語後期Ⅱ	横山　安由美	
ロシア語初級Ⅰ	ロシア語初級Ⅰ	竹内　恵子	
ロシア語初級Ⅱ	ロシア語初級Ⅱ	竹内　恵子	

2020 年度後期教養教育科目開講一覧（大学院）

科目名	開講講義名	担当教員
倫理学特殊研究	日本倫理思想史の基礎づけ	木村　純二
倫理学特殊研究	「よい死」についての領域横断的研究：哲学、終末期ケア、精神分析	荒谷　大輔
倫理学特殊研究	「人格」概念の倫理思想史	宮村　悠介
インド語インド文学特殊研究	中国禅宗文献講読	小川　隆
インド語インド文学特殊研究	唐代天台思想史研究	池　麗梅
インド哲学仏教学特殊研究	タミル語文献講読（1）	宮本　城
インド哲学仏教学特殊研究	タミル語文献講読（2）	宮本　城
スラヴ語圏言語文化特殊研究	南スラヴ語比較研究	三谷　恵子
スラヴ語圏言語文化特殊研究	旧ソ連東欧の映像と文学	橋岡　求美、阿部　賢一、越野　剛
スラヴ語圏言語文化特殊研究	文化批評（2）	阿部　賢一
韓国朝鮮歴史文化特殊研究	朝鮮時代史論	六反田　豊
韓国朝鮮歴史文化特殊研究	朝鮮前期漕運研究	六反田　豊
韓国朝鮮言語社会特殊研究	韓国の社会人類学	本田　洋
韓国朝鮮言語社会特殊研究	社会人類学方法論	本田　洋
韓国朝鮮言語社会特殊研究	韓国の社会問題と社会政策1	金　成垣
韓国朝鮮言語社会特殊研究	韓国の社会問題と社会政策2	金　成垣

2021 年度後期教養教育科目開講一覧（大学院）

科目名	開講講義名	担当教員
多分野交流演習	現象学的な質的研究の方法	村上　靖彦
多分野交流演習	患者と歴史と倫理	鈴木　晃仁
多分野交流演習	〈亡所〉の環境史／倫理学	北條　勝貴
多分野交流演習	質的研究法入門	会田　薫子
多分野交流演習	症例の歴史と倫理II	鈴木　晃仁
多分野交流演習	未来倫理の探究	堀江　宗正
倫理学特殊研究	日本の禅思想	石井　清純
倫理学特殊研究	西洋近代哲学の諸問題	三重野　清顕
スラヴ語圏言語文化特殊研究	スラヴ語史入門	三谷　惠子
スラヴ語圏言語文化特殊研究	ボスニア語・クロアチア語・セルビア語初級	三谷　惠子
スラヴ語圏言語文化特殊研究	旧ソ連東欧の映像と文学	橋岡　求美 阿部　賢一
スラヴ語圏言語文化特殊研究	ブルガリア語入門	Martchev Milen
スラヴ語圏言語文化特殊研究	ポーランドの言語と文化	小椋　彩
スラヴ語圏言語文化特殊研究	ロシア文化史	橋岡　求美
スラヴ語圏言語文化特殊研究	ロシア・ソ連小説評論読解Ⅰ	橋岡　求美
スラヴ語圏言語文化特殊研究	ロシア・ソ連小説評論読解Ⅱ	橋岡　求美
スラヴ語圏言語文化演習	ソ連文学読解	橋岡　求美
現代文芸論特殊研究	文化批評（2）	阿部　賢一
韓国朝鮮歴史文化特殊研究	朝鮮時代史論	六反田　豊
韓国朝鮮歴史文化特殊研究	朝鮮前期漕運研究	六反田　豊
韓国朝鮮言語社会特殊研究	韓国の社会人類学	本田　洋
韓国朝鮮言語社会特殊研究	文化人類学と民族誌	本田　洋
韓国朝鮮言語社会特殊研究	韓国の社会問題と社会政策1	金　成垣
韓国朝鮮言語社会特殊研究	韓国の社会問題と社会政策2	金　成垣

科目名	開講講義名	担当教員
多分野交流演習	研究倫理入門	鈴木　晃仁
多分野交流演習	メディア間翻訳・翻案研究：文学テクストの映像化・舞台化（4）	小林　真理 新井　潤美 阿部　賢一 橋岡　求美
多分野交流演習	死生学の射程	堀江　宗正ほか
多分野交流演習	臨床死生学・倫理学の諸問題Ⅰ	会田　薫子
多分野交流演習	臨床死生学・倫理学の諸問題Ⅱ	会田　薫子
多分野交流演習	臨床老年死生学入門	会田　薫子
多分野交流演習	共感とケアの哲学	早川　正祐
多分野交流演習	自律についての関係的なアプローチ：現代行為論・自由論の一展開	早川　正祐
多分野交流演習	認識をめぐる不正義と責任：現代認識論の一展開	早川　正祐
多分野交流演習	死生をめぐる偶然と確率の問題	乗立　雄輝
多分野交流演習	死と不安の社会学	澤井　敦
多分野交流演習	死生をめぐる実存哲学の諸問題	古荘　真敬
多分野交流演習	病いの語りをめぐる倫理	早川　正祐
多分野交流演習	死生学文献講読	堀江　宗正
多分野交流演習	症例の歴史と倫理Ⅰ	鈴木　晃仁
多分野交流演習	応用倫理入門	鈴木　晃仁 池澤　優
多分野交流演習	技術時代の倫理――ハイデガー哲学の視座より	轟　孝夫
多分野交流演習	都市の環境倫理	吉永　明弘
多分野交流演習	食と場所の環境倫理	福永　真弓

(3) 国際卓越大学院人文社会系研究科次世代育成プログラム

「国際卓越大学院 人文社会系研究科 次世代育成プログラム」は、本研究科各専門分野において蓄積された人文知の基礎の上に立ち、かつてない規模と速度で変化し複雑化する価値観に柔軟に対応しつつ、人類の健全な発展に貢献し得る博士人材の育成を目的とするものである。本研究科諸学における基礎的な研究能力の修得を目的とする専攻・専門分野のプログラムに加えて、新たな研究領域開拓や国際発信等を旨とした本プログラムを履修する二層構造としているのが特徴である。

本プログラムは、修士課程から実践的な研究活動を促進するための「学術活動課題演習」を必修としている他、様々な事象を俯瞰的に見渡し、多様な人々の声に耳を傾け発信する能力を養うために設置された「死生学研究・応用倫理研究」、「人文情報学」、「他研究科開講科目」、「アカデミック・ライティング（英語）」、「新・日本学」などの選択必修科目を履修することとなる。また、2020 年 4 月に開設した博士課程プログラムでは、より実践的な研究活動を促進するため「学術活動課題演習」に「異分野共同研究演習」を加え、2 科目を必修とし、選択必修科目として、「アカデミック・ライティング（英語上級）」を整備した。

なお、修士課程プログラムに先立ち、学部プログラムを設けて、早期から研究への意欲を高めるため、大学院科目の履修を推奨し、大学院進学後は単位として認定することが可能となっている。

2018 年 4 月に開設した修士課程プログラムから奨励金の支給を始めたが、2020 年 4 月入学者からは、卓越リサーチ・アシスタントを委嘱し、その対価として給与を支給する仕組みに切り替え、博士課程プログラムでは、研究科として国内外での研究活動を支援する仕組みとして「研究活動支援費」制度を設けた。

学部・修士・博士連携プログラムであるため、学部プログラムからの一貫した履修を原則とするが、大学院入学試験において特に優秀な成績を収めた学生を対象として、修士から選抜も行うこととしている。博士課程進学に当たっては、日本学術振興会特別研究員（DC1）への応募を義務付けている。

2019 年 4 月に修士課程プログラム第 2 期生 11 名、2020 年 4 月に第 3 期生 12 名が在籍し、2020 年 4 月に開設した博士課程プログラム第 1 期生には、修士課程プログラム第 1 期生 10 名の中から選考された 5 名が在籍したことにより、学部・修士・博士課程それぞれにプログラム履修生が在籍することになり、「学部・修士・博士連携プログラム」の緒についたところである。

3. 国際交流

(1) 留学生教育と国際交流活動

A　留学生教育

人文社会系研究科・文学部における外国人留学生数は、過去 5 年間、およそ 160 人程度で推移している。2020 年度及び 2021 年度は、日本の水際対策による入国制限がなされたものの、オンラインによる授業や研究指導が行われたこともあり、入学者の大幅な減少は見られなかった。

留学生の出身国・地域別については、中国が最多、次いで韓国、台湾が続く傾向に変化はない。2021 年度における留学生の出身国・地域は、中国、韓国、台湾の順で、全体の約 9 割をアジア諸国が占めている。

これら留学生に対し、人文社会系研究科・文学部日本語教室では、留学生教育の一環として、日本語教育を行っている。2020 年度及び 2021 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で入国できない留学生が多かったため、授業や学習サポートをオンラインで実施し、とりわけ海外からの積極的な受講が顕著であった。Web 会議システム Zoom と学習管理システム ITC-LMS を活用しながら、遠隔による日本語学習の充実を図った。

また、人文社会系研究科留学生特別講座プログラムでは、留学生が日本社会や日本人の考え方などに対して理解を深めることを目的に、博士課程の学生によるショートレクチャーを全学の留学生に向けて複数実施している。2020 年度及び 2021 年度も数多くの留学生が受講した。

加えて、国際交流委員会では、人文社会系研究科・文学部の留学生を対象としたワークショップを開催した。仮のシンポジウムを立案し発表するといったグループワークでは、互いにテーマを出し合いながら活発な意見が交わされた。

国又は地域別外国人留学生数

各年度５月１日現在

国または地域名	平成 29(2017)年度	平成 30(2018)年度	令和元(2019)年度	令和 2(2020)年度	令和 3(2021)年度
アジア					
韓国	52	47	49	45	41
シンガポール	1	1	1	2	2
スリランカ			1		
タイ			1	1	
台湾	8	8	9	9	10
中国	82	73	83	81	91
中国(香港)	4	2	5	2	3
バングラデシュ		1			
ベトナム			1	1	1
モンゴル	1				
小 計	**148**	**132**	**150**	**141**	**148**
中近東					
トルコ			2	2	
小 計	**0**	**0**	**2**	**2**	**0**
アフリカ					
エジプト				1	1
モーリシャス	1				
小 計	**1**	**0**	**0**	**1**	**1**
オセアニア					
オーストラリア	2	2			
小 計	**2**	**2**	**0**	**0**	**0**
北米					
アメリカ合衆国	2	1	1	2	1
小 計	**2**	**1**	**1**	**2**	**1**
中南米					
グアテマラ				1	1
パラグアイ	1	1			
ブラジル	1				
ベネズエラ	1				
小 計	**3**	**1**	**0**	**1**	**1**
ヨーロッパ					
イギリス	1				1
イタリア	1				
カザフスタン	1	1			
スロベニア	1	1	1	1	1
フランス	1	2	2	1	1
ブルガリア			1	1	1
ベラルーシ		1	1	1	1
ポーランド	3	3	3	2	1
ルーマニア			1		
ロシア	2	2	3	2	4
小 計	**10**	**10**	**12**	**8**	**10**
合 計	**166**	**146**	**165**	**155**	**161**

B　留学生派遣

大学院人文社会系研究科・文学部は留学生を受け入れるばかりではなく、数多くの学生を海外に派遣してきた。その派遣先は、アジア、アメリカ、オーストラリア、ヨーロッパの国々のさまざまな大学である。

●海外へ留学・修学した学部生

令和4（2022）年6月1日現在

年度	海外留学・修学者の合計	内訳			
		アメリカ	イギリス	カナダ	その他
平成30（2018）年度	海外修学　6名			2名	オーストラリア 1名 タイ 1名 チェコ 1名 フランス 1名
	留学　28名	1名	7名	1名	インドネシア 2名 韓国 3名 スイス 1名 スウェーデン 4名 タイ 1名 中国 1名 ドイツ 1名 ニュージーランド 1名 フィンランド 2名 フランス 3名
平成31（2019）年度	海外修学　5名	2名		1名	アイルランド 1名 フィリピン 1名
	留学　29名	3名	8名		オランダ 1名 韓国 4名 スイス 2名 タイ 1名 中国 3名 デンマーク 2名 ニュージーランド 3名 フィンランド 1名 フランス 1名
令和2（2020）年度	海外修学　1名	1名			
	留学　1名				中国 1名
令和3（2021）年度	海外修学　2名	1名	1名		
	留学　4名	1名	1名		ドイツ 1名 フランス 1名

●海外へ留学・修学した大学院生

年度	学生身分	異動区分名	計	内訳												
				韓国	台湾	中国	アメリカ	アイルランド	イギリス	イタリア	オーストリア	スイス	ドイツ	フランス	ロシア	その他
平成30（2018）年度	修士課程	休学（海外修学）	2													チェコ 2名
		留学	4						3			1				
		研究指導委託	0													
	博士課程	休学（海外修学）	43	1		4	8		9	1		1	5	8		エジプト 1名 スペイン 1名 デンマーク 1名 トリニダード・トバコ 1名 フィンランド 1名 香港 1名
		留学	12	2		1	1	1	1				1	4	1	
		研究指導委託	9				1	1				2		4	1	
令和元（2019）年度	修士課程	休学（海外修学）	2						1							チェコ 1名
		留学	4						1			2		1		
		研究指導委託	0													
	博士課程	休学（海外修学）	45	1		4	8	2	7	1	1	2	4	10		イスラエル1名 インド 1名 オランダ 1名 フィンランド 1名 香港 1名
		留学	10		1	1	1		1				1	4	1	
		研究指導委託	11			1	1			1				6		ウクライナ 1名 ベルギー 1名
令和2（2020）年度	修士課程	休学（海外修学）	2						1							チェコ 1名
		留学	0													
		研究指導委託	0													
	博士課程	休学（海外修学）	38	1		1	7	2	7	1	1	1	5	8		イスラエル1名 インド 1名 ポーランド 1名 香港 1名
		留学	2		1									1		
		研究指導委託	9			1							1	6		ベルギー 1名
令和3（2021）年度	修士課程	休学（海外修学）	1						1							
		留学	1			1（オンライン）										
		研究指導委託	0													
	博士課程	休学（海外修学）	28	1			5	1	6	2	1		3	5	1	イスラエル1名 インド 1名 ベルギー 1名
		留学	4	2					1					1		
		研究指導委託	11						1		1		1	8		

C　外国人研究員受け入れ

大学院人文社会系研究科では、内規に基づき、毎年 30 人以上の外国人研究者を受け入れている。しかし、次の表に示すように、新型コロナウィルス感染症に起因した日本の水際対策の影響もあり、2020 年度及び 2021 年度は、大幅に受け入れ数が減少した。

●外国人研究員（国籍別人数）　（※文学部／大学院人文社会系研究科内規による）

国または地域名	平成 29(2017)年度	平成 30(2018)年度	令和元(2019)年度	令和 2(2020)年度	令和 3(2021)年度
アジア					
インド			1	1	
韓国	4	4	1	1	
シンガポール					1
台湾	3		2	1	
中国	10	11	13	7	1
ベトナム		1			
ミャンマー		1			
中近東					
イスラエル	3	2			
アフリカ					
モーリシャス	1	1			
オセアニア					
オーストラリア				1	
北米					
アメリカ合衆国	4	5	3	2	2
中南米					
エクアドル	1	1	1		
ヨーロッパ					
アイルランド			1	1	
イギリス		1	1		1
イギリス・イタリア		1			
エストニア	1				
オランダ	2				
ジョージア		1	1		
スイス	1				
スウェーデン					1
ドイツ	1	3	2	1	
フランス	2	2	1		1
ポーランド	4	1	3	1	
ルーマニア		1			
ロシア	3		1		1
合 計	**40**	**36**	**31**	**16**	**8**

D　夏期・冬期特別プログラム

文学部では、2014 年 1 月に英国・セインズベリー日本藝術研究所との間で部局間学術交流協定を結び、学部教育の総合的改革の一環として、2014 年度から学部学生の国際的な相互交流を目的とした、夏期および冬期特別プログラムを実施している。これまで夏 7 回、冬 5 回にわたってプログラムを実施してきた。夏期特別プログラムは、文学部がホストとなり、夏期の授業休止期間（9 月）を利用して、英国を始めハンガリーやルーマニアから学部生 4～5 名を東大本郷キャンパスと研究科附属北海文化研究常呂実習施設（北海道北見市）に招き、英語を使用言語としながら、講義・実習、遺跡の発掘体験、博物館・美術館見学、史跡踏査、グループワーク等を通して、考古学・美術史学・文化資源学等を学んでいる。冬期特別プログラム（2 月）は、逆にセインズベリー研究所がホストとなり、東大の学部生 4～5 名が、ロンドンとセインズベリー研究所が所在する英国南東部のノーフォーク州や南西部のソールズベリー等を訪れ、同様の学習と交流体験を積んだ。

本プログラムは、全学の学部課程に開かれているため、東大側の参加学生は文学部に限られず、法学部・工学部・教養学部（前・後期）からの参加もあった。約 2 週間にわたるプログラム期間中は、東大と海外の学生たちはホテルや宿舎で同室となるため、文字通り寝食を共にしながら、グループワークや体験学習・講義・実習等の様々な国際交流体験を積む。そのため最初は英語での会話や議論に参加しづらかった学生も、終了近くになると互いに学問や人生

観を戦わすまでになる。日本文化に関する博物館展示では、東大生が英国側の学生に対して展示解説を担当することもあった。参加した学生にはプログラム終了時にレポートの提出を課しているが、みな一様にプログラムへの参加経験を誇りに思っており、その多くがプログラム終了後も引き続き相互交流を続けている。そのため複数回の参加希望も多い。参加学生の枠（日英各定員 5 名）は限られているが、その分丁寧なスケジューリングにより濃密な体験を経ることで、高い教育効果を上げることができている。

2020 年初頭から新型コロナウイルス感染症が世界的流行を見せる中、2019 年度の冬期特別プログラムは感染対策を徹底した上で無事執り行うことができたが、2020 年度は夏期・冬期特別プログラムのいずれも中止を余儀なくされた。2021 年度も冬期特別プログラムは中止したが、東京大学の学生に国際交流の機会を提供したいという思いから、同年度は本学学部で学ぶ留学生と日本人学生に限定した夏期特別プログラムを実施した。従来とは異なる形式での実施となったが、過去の夏期特別プログラムの経験を十全に活かし、実りある国際交流が実現した。

E　「新・日本学」構想に向けた海外研究者による特別講義シリーズ

令和 2（2020）年度

実施期間	※新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、海外研究者の渡日困難のため不開講
実施状況	【特別講義シリーズ I】※不開講 開講科目名：日本哲学とは何か 招聘教授：Bret W. Davis 教授（アメリカ・メリーランド大学） 【特別講義シリーズ II】※不開講 開講科目名：Seeing the Unseen: Demons, Ghosts, and Other Worlds in Pre-Modern Japan 招聘教授：ハルオ・シラネ教授（アメリカ・コロンビア大学） 【特別講義シリーズ III】※不開講 開講科目名：感情と社会：社会学的、人類学的探求 招聘教授：Sighard Neckel 教授（ドイツ・ハンブルク大学）

令和 3（2021）年度

実施期間	令和 4（2022）年 1 月 31 日～令和 4（2022）年 2 月 4 日 ※新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、海外研究者の渡日困難のため、予定していた 3 科目のうち、1 科目のみの開講となった。
実施状況	【特別講義シリーズ I】 開講科目名：Thinking-Through Tools and Toys: Epistemological Reflections Across the Digital Humanities and Game Studies 招聘教授：Geoffrey Rockwell 教授（カナダ・アルバータ大学） 開講日時：令和 4（2022）年 1 月 31 日～2 月 4 日 【特別講義シリーズ II】※不開講 開講科目名：日本哲学とは何か 招聘教授：Bret W. Davis 教授（アメリカ・メリーランド大学） 【特別講義シリーズ III】※不開講 開講科目名：感情と社会：社会学的、人類学的探求 招聘教授：Sighard Neckel 教授（ドイツ・ハンブルク大学）

実施結果

本事業は、毎年 3 名の著名な研究者を海外から招聘し、東京大学大学院人文社会系研究科の大学院生に向けて英語による授業を提供するものである。東京大学にいながらにして、欧米における当該分野の代表的研究者から直接指導を受ける経験は、本学の大学院生にとって極めて刺激的で国外への日本学発信に向けての強い動機付けを与えている。

令和 2（2020）年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、外国人研究者の渡日困難のため、不開講となった。令和 3（2021）年度も前年度同様渡日困難な状況ではあったが、外国人研究者が海外から授業を提供するオンライン形式にて 1 科目開講することが出来た。

F　オークランド大学でのアカデミック英語短期集中プログラム

実施期間	令和2（2020）年度、令和3（2021）年度は実施なし
実施状況	本事業は、人文社会学系研究分野の成果を積極的に国外発信するために、(1)高度なアカデミック英語の習得、(2)若手教員のファカルティ・ディベロップメント（FD）の一環として英語による授業提供のためのトレーニングを受けることにある。 令和元（2019）年度の実施の後、令和2（2020）年度、令和3（2021）年度は実施されておらず、令和4（2022）年度以降、従来の実施形態によるプログラム実施を改め、より発展的なプログラムの実施を検討している。 【以下は参考として令和元（2019）年度の情報を記載している。】 ・参加プログラム：オークランド大学付属英語アカデミー （English Learning Academy 【略称：ELA】）での語学研修プログラム ・募集方法： 東京大学文学部の website（在学生ポータル）で告知、募集開始。 参加申込者に対し、書類選考の後、結果を通知。 ・プログラム概要： ELA の指導のもと、授業では全体を通して、アカデミックな場面におけるリスニング、スピーキング、ライティングに焦点が置かれた。英語を実際に使って交流、口頭発表、議論を行う機会も積極的に組み込まれた。 二週目以降は、受講者たちの問題関心に近いオークランド大学の授業を聴講する機会があり、今後、研究者として海外で活躍するための知識を習得した。 本事業を実施した効果として、第 1 に、若手教員にとって、大学院生の引率など、実質的な FD の経験を積むことができ、海外において研究のみならず教育の現場を体感することができたこと。第 2 に、大学院生たちにとっては、英語によるプレゼンや議論を重ねることで、今後、海外での研究活動を視野にいれたキャリアプランを立てる強い動機付けとなったこと。などが挙げられる。 本事業は、世界的視野をもった「知のプロフェッショナル」を育成するための基礎力養成としての高い効果を認めることができた。

(2) 国際交流協定

A　学術・学生関係

国名等	#	大学名	有効期限	署名者及び署名年月日		協定の内容	
				本　学	相手方の大学	専門分野	交流の対象
インド	1	デリー大学	2021/5/16	総長、人文科学研究科委員会委員長 1980/ 3/25 1983/ 3/25 1986/ 4/22 1992/ 7/ 8 2016/ 5/17	副総長、事務局長 1980/ 5/ 1 1983/ 5/ 2 1986/ 5/ 1 1992/ 7/20 2016/ 3/31	(派遣)インド哲学、仏教学、サンスクリット、インド史 (受入)日本仏教･中国仏教･インド仏教の思想と歴史、インド哲学、サンスクリット、チベット研究、日本研究	1. 大学院学生（協定書で学生の在籍研究科・学科を指定）
中国	2	北京大学	2023/12/16	総長 1985/3/25 2003/12/17 2009/7/21 2014/3/20 2019/4/1	校長 1985/3/25 2003/11/7 2009/7/21 2014/6/11 2019/4/15	学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教官及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
韓国	3	ソウル大学校	2020/8/16	総長 1990/8/17 1995/12/4 2000/12/21 2005/10/29 2012/7/25 2016/ 7/22	総長 1990/8/17 1995/12/14 2001/1/22 2005/10/29 2012/5/5 2016/ 7/22	相互に関心を持つ分野	1. 教員 2. 学生 3. 学術情報及び資料の交換 4. 共同研究、シンポジウム及び講演の実施
	4	高麗大学校	2015/10/27	総長 2005/10/28 2014/3/27	総長 2005/10/28 2014/4/18	学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
イラン	5	テヘラン大学	2022/4/22	総長 1997/3/7 2002/8/12 2007/5/25 2009/9/19 2013/2/20 2017/12/5	総長 1997/4/23 2002/8/27 2007/6/12 2009/9/19 2013/4/28 2017/12/23	(派遣)イスラム学、ペルシア語・ペルシア文学、イラン史学等 (受入)日本語・日本文学、日本史学等	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 情報及び学術資料の交換 4. 共同研究、合同シンポジウム及び講義などの活動
エジプト	6	カイロ大学	2022/4/3	総長 1998/7/3 2005/6/27 2017/2/2	学長 1998/7/3 2005/7/11 2017/4/4	学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
北米	7	イリノイ大学 アーバナ・シャンペーン校	2016/7/2	総長 2001/7/3 2006/9/13 2012/1/10	学長、理事会 2001/7/3 2006/10/4 2012/3/23	学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
イタリア	8	ローマ大学 「ラ・サピエンツァ」	2024/5/30	総長 1999/1/22 2004/5/31 2009/6/22 2014/12/17 2020/10/26	総長 1999/4/30 2004/6/17 2009/7/7 2015/2/5 2021/1/21	共通の関心を有する分野	1. 研究者 2. 研究プログラムへの参加 3. 学術情報及び学術刊行物の交換 4. 会議、セミナー、研究課題の講習会の開催
	9	パドヴァ大学	2023/1/6	総長 1993/1/7 1998/4/14 2003/3/14 2008/3/7 2014/1/24 2018/12/21	学長 1993/1/7 1998/4/24 2003/3/19 2003/4/14 2014/2/17 2019/1/20	相互に関心を持つ分野	1. 研究者 2. 学生、大学院生 3. 学術情報及び資料の交換 4. 大学教育に付随する業務分野での活動 5. 学術会議や研究会への参加
	10	フィレンツェ大学	2008/7/29	総長 1998/7/24 2003/11/26	学長 1998/7/30 2003/10/6	共通の関心を有する分野	1. 教官、研究者、大学院生 2. 学術情報及び学術刊行物の交換 3. セミナーやシンポジウムの共同開催
	11	ピサ高等師範学校	2021/9/20	総長 2002/5/30 2007/4/4 2016/ 7/ 6	校長 2002/6/10 2007/4/19 2016/ 9/21	それぞれが関心を持つ分野	1. 学生 2. 教員及び研究者 3. 講義、講演、シンポジウムの実施 4. 学術情報及び資料の交換
スイス	12	ジュネーヴ大学	2022/7/1	総長 1997/7/2 2002/7/2 2007/6/6 2009/2/24 2012/11/5 2018/8/2	学長 1997/7/2 2002/7/22 2007/6/26 2009/3/20 2012/8/6 2018/9/24	両大学が関心を持つ分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
セルビア	12	ベオグラード大学	2026/4/26	総長 2021/3/10	学長 2021/4/27	双方が関心を持つ学術研究及びその他の活動分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
ドイツ	13	ボッフム・ルール大学	期限なし	総長 1969/5/23	総長 1969/7/14	日本学、シナ学、ドイツ文学・語学・哲学、歴史学、美術史学、人文地理学	1. 教授・助教授・専任講師及び研究助手 2. 稀少な文献または資料の印刷物
フランス	14	エコール・ノルマル・スューペリユール	2023/3/2	総長、人文科学研究科長 1993 2/23 1998/4/28 2003/3/24 2008/2/8、2/13 2015/2/9 2021/3/18	校長、国際交流部長 1993/3/3 1998/5/7 2003/3/31 2008/3/4 2015/3/28 2021/5/16	それぞれが関心を持つ分野	1. 学生 2. 教員及び研究者 3. 共同研究 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
	15	社会科学高等研究院	2023/7/17	総長 2018/6/27	研究院長 2018/7/18	それぞれが関心を持つ分野	1. 学生 2. 教員及び研究者 3. 共同研究 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
ポーランド	16	ワルシャワ大学	期限なし	総長 1978/4/1	総長 1978/5/10	(派遣)スラヴ学 (受入)日本学	1. 研究者、研究留学生 2. 学術資料等の交換

B　部局間協定

国名等	#	大学名	有効期限	署名者及び署名年月日		協定の内容	
				本　学	相手方の大学	専門分野	交流の対象
中国	1	北京大学歴史学系	2026/8/20	総合文化研究科長、 人文社会系研究科長	歴史学系主任	相互に関心のある分野	学生の交流
				2006/7/21、8/3 2008/9/8、9/16 2011/7/1、7/5 2016/9/26,9/20 2021/9/28,9/30	2006/8/21 2008/9/19 2011/7/20 2016/10/10 2021/10/15		
	2	北京大学中国語言文学系	2024/6/15	人文社会系研究科長 総合文化研究科長	言文学系主任	文学	学生の交流
				2019/5/29、6/3	2019/6/16		
	3	北京大学哲学系宗教学系	2024/9/17	人文社会系研究科長 総合文化研究科長	哲学系宗教学系主任	哲学	学生の交流
				2019/5/29、6/3	2019/9/18		
	4	山東大学儒学高等研究院・ 韓国研究中心	2023/9/8	人文社会系研究科長・文学部長	研究院長・ 研究中心主任	双方が関心を持つ教育研究及びその他の活動分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
				2003/7/17 2008/11/25 2014/1/31 2019/8/30	2003/8/10、9/9 2008/11/25 2014/3/14 2019/9/26、9/27		
	5	香港中文大学文学院	2026/1/31	人文社会系研究科長	文科大学長	相互に関心のある分野	1. 教員及び研究者 2. 学部学生、大学院生
				2011/2/1 2016/1/23 2022/3/23	2011/1/27 2016/ 2/ 2 2022/4/25		
韓国	7	ソウル大学校人文大学	2020/8/9	人文社会系研究科長	人文大学長	相互に関心のある分野	学生の交流
				2005/7/11 2012/6/4 2016/ 6/15	2005/8/10 2012/5/5 2016/ 6/23		
	8	成均館大学校儒学・東洋学部	2016/11/10	人文社会系研究科長・文学部長	学部長	それぞれが関心を持つ学術研究領域	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 講義、講演、シンポジウムの実施 4. 学術情報及び資料の交換
				2006/11/2 2012/1/17	2006/11/11 2012/1/27		
インド	9	デリー大学文学部、社会科学部	2021/5/16	人文社会系研究科長 学際情報学府長	デリー大学レジスター	(派遣)インド哲学、仏教学、サンスクリット、インド史 (受入)日本仏教・中国仏教・インド仏教の思想と歴史、インド哲学、サンスクリット、チベット研究、日本研究	1. 大学院学生（協定書で学生の在籍研究科・学科を指定）
				2016/5/17	2016/3/31		
イギリス	10	セインズベリー 日本藝術研究所	2025/6/1	人文社会系研究科長・文学部長	統括役所長	双方が関心を持つ学術研究及びその他の活動分野	1. 教員及び研究者 2. 学生
				2015/1/6 2018/9/21	2015/1/6 2018/10/20		
イタリア	11	ローマ大学 「ラ・サピエンツァ」 東洋研究学部	2024/5/30	人文社会系研究科長	東洋研究学部長	（派遣）イタリア語、イタリア文学 （受入）日本語、日本文学 その他、双方の合意によって決められた分野	1. 研究者 2. 研究プログラムへの参加 3. 研究会、セミナー、研究課題の講習会 4. 学術情報及び出版物の交換
				2009/10/23 2014/12/25 2020/10/30	2009/11/5 2015/1/27 2021/1/29		
ドイツ	13	ベルリン自由大学 歴史文化学部、大学院東アジア研究科、シュレーゲル大学院文学研究科	2023/2/26	総合文化研究科長、 人文社会系研究科長	歴史文化学部長、文学研究科長、東アジア研究科長	相互に関心のある分野	学生の交流
				2013/2/13、2/19 2018/5/27、5/30	2013/2/27		
	14	エバーハルト・カール大学テュービンゲン	2022/5/4	人文社会系研究科長	医学部長、文学部長	相互に関心のある分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
				2017/3/29	2017/5/3 2017/5/5		
フランス	15	エコール・ノルマル・スーペリユール/ 文学・人文科学リヨン校	2022/10/18	人文社会系研究科長	校長	相互に関心のある分野	1. 学生 2. 教員及び研究者 3. 共同研究の実施 4. 学術情報及び資料の交換
				1999/10/19 2002/9/25 2013/2/21 2017/11/24	1999/10/13 2002/10/15 2013/3/20 2018/1/12		
	16	フランス極東学院	2016/3/12	人文社会系研究科長	学院長	それぞれが学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教官、研究者 2. 共同研究の実施 3. 講義、講演、シンポジウムの実施 4. 学術情報及び資料の交換
				2001/3/3 2006/3/13 2012/1/7	2001/3/13 2006/3/13 2012/2/9		

(3) 国際研究協力

A　海外渡航

令和2（2020）年度		令和3（2021）年度	
全体2 件 （外国出張1件　　海外研修1件）		全体10件 （外国出張4件　　海外研修6件）	
教授	0 件	教授	1 件
特任教授	0 件	特任教授	0 件
准教授	1 件	准教授	6 件
特任准教授	0 件	特任准教授	1 件
助教	1 件	助教	1 件
特任助教	0 件	特任助教	0 件
講師	0 件	講師	0 件
外国人教師	0 件	外国人教師	1 件

B　外国人客員教員・研究員（客員）

〈外国人教員〉

フランス語フランス文学専修課程　　シモン－オイカワ、マリアンヌ
(2006.10.16～2022.10.15)

南欧語南欧文学専修課程　　アマート、ロレンツォ
(2011. 4.18～2023. 3.31)

ドイツ語ドイツ文学専修課程　　ケプラー　タサキ、シュテファン
(2012.10. 1～2022. 9.30)

中国語中国文学　　孫　軍悦　(2016. 4. 1～2020. 3.31)
王　俊文　(2021. 4. 1～2026. 3.31)

〈特任教員（旧外国人研究員（客員Ⅲ種））〉

文化資源学専攻　　ホームバーグ、ライアン
(2017.10.1～2019. 9.30)

韓国朝鮮文化研究専攻　　李　暁源　(2018. 4. 1～2021. 3.31)

文化資源学専攻　　ベルクマン、アンネグレート
(2020.4.16＊～2023.3.31)
＊新型コロナウイルス感染症に関する水際対策の強化にかかる措置により、日本への入国は10月。

韓国朝鮮文化研究専攻　　李　義鍾　(2021. 4. 1～2023. 3.31)

C　外国人教師

〔( ) 内は国籍〕

専修課程	平成28 (2016) 年度	平成29 (2017) 年度	平成30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度	令和2 (2020) 年度	令和3 (2021) 年度
英語英米文学	1名（英）					

4. 研究費の受け入れ

(1) 科学研究費補助金・助成金

令和2（2020）年度

【補助金】

研究種目	課題番号	研究代表者	令和2年度直接経費	令和2年度間接経費	研究課題名
新学術領域研究（研究領域提案型）	18H05448	守川知子	8,400,000	2,520,000	中世から近代の西アジア・イスラーム都市の構造に関する歴史学的研究
新学術領域研究（研究領域提案型）	19H05725	今水寛	20,500,000	6,150,000	超適応を促す身体認知・情動機構の解明
基盤研究(S)	16H06324	亀田達也	25,400,000	7,620,000	集合行動の認知・神経・生態学的基盤の解明
基盤研究(A)	16H02040	佐藤健二	3,400,000	1,020,000	歴史社会学の理論・実証の蓄積の再構築と新しい研究教育法の開発に関する総合研究
基盤研究(A)	18H03582	三枝暁子	4,200,000	1,260,000	郷・村名初出データにみる日本中世の民衆社会
基盤研究(A)	18H03647	白波瀬佐和子	10,200,000	3,060,000	少子高齢社会における階層構造メカニズムに関する実証研究
基盤研究(A)	19H00515	横手裕	10,200,000	3,060,000	アジアの伝統医学における医療・医学の倫理と行動規範、及びその思想史的研究
基盤研究(A)	19H00516	下田正弘	6,500,000	1,950,000	仏教学デジタル知識基盤の継承と発展
基盤研究(A)	19H00528	齋藤希史	6,300,000	1,890,000	国際協働による東アジア古典学の次世代展開――文字世界のフロンティアを視点として
基盤研究(A)	20H00004	市川裕	8,600,000	2,580,000	生きられた古代宗教の視点による古代ユダヤ変革期の東地中海世界の総合的宗教史構築
基盤研究(B)	16H03401	納富信留	1,800,000	540,000	古代ギリシア文明における超越と人間の価値―欧文総合研究―
基盤研究(B)	16H03505	熊木俊朗	2,600,000	780,000	アイヌ文化形成史上の画期における文化接触　―擦文文化とオホーツク文化―
基盤研究(B)	17H02260	熊野純彦	3,600,000	1,080,000	家族・経済・超越――近現代日本の文脈からみた共同体論の倫理学的再検討
基盤研究(B)	17H02268	梶原三恵子	3,900,000	1,170,000	ヴェーダからポスト・ヴェーダの宗教・文化の共通基盤と重層性の研究
基盤研究(B)	17H02370	守川知子	2,500,000	750,000	近世ユーラシアにおける宗教・交易ネットワークとアルメニア人
基盤研究(B)	17H02442	葛西康徳	3,900,000	1,170,000	法学提要(Institutes)に対する比較法学史的総合研究
基盤研究(B)	18H00603	鈴木泉	2,600,000	780,000	『哲学雑誌』のアーカイヴ化を基礎とした近代日本哲学の成立と展開に関する分析的研究
基盤研究(B)	18H00610	高橋晃一	3,000,000	900,000	『阿毘達磨集論』に対するチベットの注釈伝承に関するXMLによるテキスト分析
基盤研究(B)	18H00612	西村明	4,100,000	1,230,000	日本宗教研究の新展開―ローカリティ―へのグローバルなアプローチ
基盤研究(B)	18H00628	高岸輝	3,100,000	930,000	十四世紀を中心とする縁起・絵伝の制作組織および様式系統の総合的研究
基盤研究(B)	18H00629	秋山聰	4,300,000	1,290,000	中世宝物の贈与・寄進に関する比較美術史学的研究
基盤研究(B)	18H00634	小林真理	2,700,000	810,000	文化政策における政策評価の制度 、方法、指標に人文知を応用して構築する研究
基盤研究(B)	18H00652	諏訪部浩一	2,000,000	600,000	「小説知」概念をめぐる諸問題の調査、分析と統合
基盤研究(B)	18H00655	楯岡求美	3,600,000	1,080,000	ロシアとコーカサス諸地域の文化接触：受容と変容と離反のダイナミズム
基盤研究(B)	18H00662	大西克也	2,200,000	660,000	中国語における文法的意味の史的変遷とその要因についての総合的研究
基盤研究(B)	18H00708	大津透	3,600,000	1,080,000	日本古代国家における中国文明の受容とその展開―律令制を中心に―
基盤研究(B)	18H00720	佐川英治	2,900,000	870,000	東アジア史における「古代末期」の研究
基盤研究(B)	18H01098	今水寛	5,400,000	1,620,000	予測誤差と運動主体感をつなぐ神経機構の解明
基盤研究(B)	18H01099	村上郁也	2,800,000	840,000	周辺視野での事物の定位に動的信号がおよぼす影響に関する視覚心理学的研究
基盤研究(B)	19H01248	越野剛	2,800,000	840,000	社会主義文化のグローバルな伝播と越境―「東」の公式文化と「西」の左翼文化
基盤研究(B)	19H01328	高山博	2,900,000	870,000	西洋中世における境界地域の統治システムに関する比較史的研究
基盤研究(B)	19H01336	佐藤宏之	4,500,000	1,350,000	現生人類ホモ・サピエンスのアジア早期拡散プロセスに関する考古学的研究
基盤研究(B)	19H01770	横澤一彦	4,900,000	1,470,000	共感覚に関する認知心理学的研究の深化と展開
基盤研究(B)	20H01187	柳橋博之	1,700,000	510,000	前近代イスラーム世界における「組織」の成立に関する比較研究
基盤研究(B)	20H01188	藤原聖子	3,900,000	1,170,000	宗教現象学の形成と論争に関するトランスナショナル・ヒストリー
基盤研究(B)	20H01752	唐沢かおり	2,900,000	870,000	「感じる心」の知覚と道徳的判断：哲学との連携による統合的理解の構築
基盤研究(B)	18H00739	福田正宏	3,000,000	900,000	東北アジアにおける温帯性新石器文化の北方拡大と適応の限界

【助成金】

研究種目	課題番号	研究代表者	令和2年度直接経費	令和2年度間接経費	研究課題名
基盤研究(C)	17K02162	頼住光子	600,000	180,000	大乗仏教の修証論をてがかりとした道元思想の総合的解明―比較思想的探究
基盤研究(C)	17K02724	荻原裕敏	700,000	210,000	イラン語史及び中央アジア出土胡語文献研究の観点からのトゥムシュク語の総合的研究
基盤研究(C)	17K02777	小西いずみ	400,000	120,000	日本語諸方言における終助詞体系の対照研究
基盤研究(C)	18K00054	尾園絢一	700,000	210,000	古インドアーリヤ語の重複現在語幹の研究
基盤研究(C)	18K00057	大島智靖	600,000	180,000	ヴェーダ文献におけるソーマ祭の構造の基礎研究
基盤研究(C)	18K00076	菊地達也	1,100,000	330,000	10-14世紀シリアにおける知的空間の変容に関する思想史的研究
基盤研究(C)	18K00099	高久恭子（中西恭子）	600,000	180,000	古代末期地中海世界の教養文化における宗教像と宗教史像の思想史
基盤研究(C)	18K00120	三浦俊彦	700,000	210,000	疑似的事例の分析による「芸術の定義」の論理的・経験的研究
基盤研究(C)	18K00476	塩塚秀一郎	700,000	210,000	現代フランス文学における〈歩行〉の批評性と創造性
基盤研究(C)	18K00524	小林正人	600,000	180,000	クルフ語語源辞典の作成とドラヴィダ語系統樹の再検討
基盤研究(C)	18K00956	牧原成征	800,000	240,000	幕府役所史料の整理・活用による近世法制史・身分論の新展開
基盤研究(C)	18K02023	祐成保志	800,000	240,000	日本型ハウジング・レジームの形成過程に関する歴史社会学的研究
基盤研究(C)	18K02123	金成垣	1,100,000	330,000	後発福祉国家・韓国のベーシックインカム構想に関する政策論的研究
基盤研究(C)	18K03170	鈴木敦命	700,000	210,000	人相依存の測定とメカニズム解明のための実験的研究
基盤研究(C)	18K11805	三宅真由美	300,000	90,000	シンガポールにおける経済開発政策としての留学生政策-「留学生」の位置づけの変容
基盤研究(C)	19K00020	古田徹也	800,000	240,000	思想史的研究に基づく「道徳的運」論の再構築
基盤研究(C)	19K00027	高山守	1,100,000	330,000	哲学の新たな展開の可能性に向けた、手話言語研究
基盤研究(C)	19K00242	長嶋由紀子	800,000	240,000	フランスの地域文化政策と文化観光―内発的発展による地方創生に向けた国際比較研究
基盤研究(C)	19K00466	塚本昌則	1,100,000	330,000	二十世紀フランス文学における散文の研究――経験とその表現
基盤研究(C)	19K00492	大宮勘一郎	700,000	210,000	ドイツ文芸における「古典」概念の再検討
基盤研究(C)	19K00493	阿部賢一	1,000,000	300,000	ボヘミア文学史の記述に関する研究
基盤研究(C)	19K00494	ケブラータサキ　シュテファン	900,000	270,000	Villa Aurora as Sanctuary: A History of German Literature in Los Angeles, 1995-2020
基盤研究(C)	19K00544	三谷惠子	800,000	240,000	南スラヴ語史研究－半世俗的テクストの分析を通して－
基盤研究(C)	19K00624	肥爪周二	800,000	240,000	平安中期訓点資料による日本語音節構造史の研究
基盤研究(C)	19K00731	向井留実子	1,000,000	300,000	アカデミック・ライティングにおける適切な間接引用指導のための調査・研究
基盤研究(C)	19K00972	吉田伸之	1,100,000	330,000	江戸南部近郊地帯の分節構造―荏原郡六郷領を事例に
基盤研究(C)	19K01051	池田嘉郎	600,000	180,000	第一次世界大戦から1930年代までのロシアにおける身体――労働・医療・モラル
基盤研究(C)	19K01093	松田陽	1,000,000	300,000	考古発掘調査に伴う地域社会のアイデンティティの変化を検証する方法論構築
基盤研究(C)	19K01110	設楽博己	800,000	240,000	土製耳飾りの集成と分析による縄文時代の社会組織と儀礼へのアプローチ
基盤研究(C)	19K03189	村本由紀子	1,000,000	300,000	集団規範の形成・維持に関わる自他の相互作用過程の探究
基盤研究(C)	19K03380	中島亮一	900,000	270,000	性格特性と認知スタイルに基づく視覚的注意制御の個人差の解明
基盤研究(C)	20K00068	池澤優	800,000	240,000	死生学・応用倫理学などの学術領域における宗教性の調査と分析
基盤研究(C)	20K00123	吉田寛	1,200,000	360,000	デジタルゲームにおける没入（イマージョン）概念の美学的考察
基盤研究(C)	20K00143	小田部胤久	800,000	240,000	美学の古典賦活のためのモデル構築
基盤研究(C)	20K00168	芳賀京子	900,000	270,000	ヘレニズム後期からローマ帝政初期への転換期における彫刻工房の地域流派の研究
基盤研究(C)	20K00312	安藤宏	800,000	240,000	太宰治研究資料の情報ネットワークの構築
基盤研究(C)	20K00337	木下華子	1,100,000	330,000	古代・中世日本における廃墟の文化史
基盤研究(C)	20K00384	阿部公彦	700,000	210,000	１８世紀以降の英語圏文学等における「注意」「共感」と「言語運用能力」表象の研究
基盤研究(C)	20K00410	新井潤美	500,000	150,000	英国における「ロウワー・ミドル・クラス」と「郊外」の表象
基盤研究(C)	20K00434	後藤和彦	1,000,000	300,000	「戦後的思考」の文学的ディレンマについて――アメリカ南部文学と近代日本文学の相違
基盤研究(C)	20K00465	中地義和	900,000	270,000	ル・クレジオとアジア文化
基盤研究(C)	20K00491	山本潤	800,000	240,000	ドイツ英雄詩の受容史研究―英雄詩素材の歴史的アクチュアリティ
基盤研究(C)	20K00660	渡邉明	200,000	60,000	日英語の程度表現の微細構造および不定語のシステムとの関係
基盤研究(C)	20K01035	芦部彰	900,000	270,000	アデナウアー期西ドイツの西側結合とナショナリズム：ザールラント帰属問題に注目して
基盤研究(C)	20K01053	長井伸仁	1,000,000	300,000	19・20世紀転換期フランスにおける排外主義の変容―パリ地域での選挙の分析
基盤研究(C)	20K01054	橋場弦	1,200,000	360,000	古代ギリシアにおける「民主政の技法」とその伝播に関する政治文化史的研究
基盤研究(C)	20K01211	本田洋	1,100,000	330,000	現代韓国社会におけるローカル・コミュニティの再構築：「共同体作り」の事例から
基盤研究(C)	20K02109	井口高志	1,000,000	300,000	地域共生社会における「意思」と「主張」をめぐる人びとの「支援実践」の領域横断研究

研究種目	課題番号	研究代表者	令和2年度直接経費	令和2年度間接経費	研究課題名
研究活動スタート支援	19K22996	井上貴恵	700,000	210,000	中世期スーフィズム思想史理解への試み―イラン・スーフィズムに着目して―
研究活動スタート支援	19K22998	崔境眞	1,000,000	300,000	チベット仏教カダム派の思想研究に向けた基礎資料の構築
研究活動スタート支援	20K21919	野村悠里	1,100,000	330,000	製本術の工程分析に関する基礎的研究：東京大学所蔵「英国書史関係集書」を対象として
研究活動スタート支援	20K21920	矢口直英	1,100,000	330,000	イスラーム世界における『医学典範』注釈の展開と意義
研究活動スタート支援	20K22008	崎島達矢	700,000	210,000	明治初期の三府における近代的都市行財政の形成過程
研究活動スタート支援	20K22010	田瀬望	1,000,000	300,000	18世紀フランスにおけるフリーメイソン団と女性
若手研究	18K18257	大足恭平	800,000	240,000	イランにおける交通体系の近代再編と国家統合
若手研究	19K12960	志田雅宏	300,000	90,000	中世ユダヤ教文学におけるキリスト教世界への対抗的言説の複合的研究
若手研究	19K12978	松原薫	600,000	180,000	専門家と愛好家の音楽美学-18世紀のバッハ受容をてがかりに
若手研究	19K13405	鈴木舞	800,000	240,000	中国殷周時代における青銅器制作技法の研究
若手研究	18K12349	吉川斉	300,000	90,000	近世ヨーロッパにおける教育と「イソップ集」展開に関する文献学的総合研究
若手研究	18K12366	長屋尚典	500,000	150,000	多角的なデータから明らかにするタガログ語の文末助詞の機能と音調
若手研究	18K12549	石川岳彦	300,000	90,000	中国遼寧地域の漢代墳墓研究―新出土資料と20世紀前半期発掘資料をもとに―
若手研究	18K13266	橋本剛明	900,000	270,000	被害者のエージェンシー認知に基づく被害者理解フレームの検討
若手研究	18K18297	小野仁美	400,000	120,000	「子の利益」にみる家族観の変容：チュニジアの法的実践とイスラーム的価値観の研究
若手研究	19K13156	岩崎加奈絵	200,000	60,000	ハワイ語における空間表現―動作の方向を示す機能語の研究
若手研究	19K13328	谷口雄太	700,000	210,000	中世後期足利一門大名・守護の基礎的研究
若手研究	20K12778	平岡紘	1,100,000	330,000	20世紀フランス哲学を背景とする後期レヴィナスの自己論に関する分析的研究
若手研究	20K12780	富山豊	800,000	240,000	現代論理学に基づくフッサール数学論の再構築
若手研究	20K12802	一色大悟	700,000	210,000	近世日本の倶舎学文献に対する基礎的研究：東京大学所蔵資料を中心に
若手研究	20K12884	鄭仁善	800,000	240,000	冷戦期アメリカ映画の東アジア配給における日本の役割―韓国市場を中心に
若手研究	20K12912	李暁源	700,000	210,000	日本漢文学と朝鮮漢文学の交渉に関する研究―古文辞学派を中心に
若手研究	20K12981	木内尭	800,000	240,000	フローベールとロマン主義　新たな作家像の構築を目指して
若手研究	20K13023	石塚政行	800,000	240,000	バスク語の非定形副詞節の認知・機能言語学的研究
若手研究	20K14126	白岩祐子	1,100,000	330,000	日本人の死後世界観
若手研究(B)	17K13339	渡辺優	500,000	150,000	近世西欧神秘主義の信仰論をめぐる系譜学的・宗教哲学的研究
若手研究(B)	17K13469	鴻野知暁	500,000	150,000	コーパスを活用した係り結びの通時的研究の展開
挑戦的研究（開拓）	20K20323	蓑輪顕量	6,600,000	1,980,000	仏教学・心理学・脳科学の協同による止観とマインドフルネスに関する実証的研究

令和3（2021）年度

【補助金】

研究種目	課題番号	研究代表者	令和3年度直接経費	令和3年度間接経費	研究課題名
新学術領域研究（研究領域提案型）	18H05448	守川知子	8,100,000	2,430,000	中世から近代の西アジア・イスラーム都市の構造に関する歴史学的研究
新学術領域研究（研究領域提案型）	19H05725	今水寛	20,200,000	6,060,000	超適応を促す身体認知・情動機構の解明
新学術領域研究（研究領域提案型）	21H00354	中澤光平	1,500,000	450,000	南海道諸方言の歴史言語学的研究と方言形成時期の推定
基盤研究(A)	19H00515	横手裕	11,500,000	3,450,000	アジアの伝統医学における医療・医学の倫理と行動規範、及びその思想史的研究
基盤研究(A)	19H00516	下田正弘	14,200,000	4,260,000	仏教学デジタル知識基盤の継承と発展
基盤研究(A)	19H00528	齋藤希史	7,000,000	2,100,000	国際協働による東アジア古典学の次世代展開――文字世界のフロンティアを視点として
基盤研究(A)	18H03582	三枝暁子	4,200,000	1,260,000	郷・村名初出データにみる日本中世の民衆社会
基盤研究(A)	20H00004	市川裕	7,800,000	2,340,000	生きられた古代宗教の視点による古代ユダヤ変革期の東地中海世界の総合的宗教史構築
基盤研究(A)	21H04339	高橋晃一	6,900,000	2,070,000	『カダム全集』所収『阿毘達磨集論』注釈群のXML電子テキスト構築
基盤研究(A)	21H04343	鈴木　晃仁	8,400,000	2,520,000	20世紀日本の医療・社会・記録－医療アーカイヴズから立ち上がる近代的患者像の探求
基盤研究(B)	19H01248	越野剛	2,900,000	870,000	社会主義文化のグローバルな伝播と越境―「東」の公式文化と「西」の左翼文化
基盤研究(B)	19H01328	高山博	2,900,000	870,000	西洋中世における境界地域の統治システムに関する比較史的研究
基盤研究(B)	19H01336	佐藤宏之	2,700,000	810,000	現生人類ホモ・サピエンスのアジア早期拡散プロセスに関する考古学的研究
基盤研究(B)	19H01770	横澤一彦	3,000,000	900,000	共感覚に関する認知心理学的研究の深化と展開
基盤研究(B)	18H00603	鈴木泉	2,600,000	780,000	『哲学雑誌』のアーカイヴ化を基礎とした近代日本哲学の成立と展開に関する分析的研究
基盤研究(B)	18H00612	西村明	2,100,000	630,000	日本宗教研究の新展開―ローカリティーへのグローバルなアプローチ
基盤研究(B)	18H00628	高岸輝	1,600,000	480,000	十四世紀を中心とする縁起・絵伝の制作組織および様式系統の総合的研究
基盤研究(B)	18H00634	小林真理	2,100,000	630,000	文化政策における政策評価の制度 、方法、指標に人文知を応用して構築する研究
基盤研究(B)	18H00652	諏訪部浩一	1,200,000	360,000	「小説知」概念をめぐる諸問題の調査、分析と統合
基盤研究(B)	18H00655	稲岡求美	3,800,000	1,140,000	ロシアとコーカサス諸地域の文化接触：受容と変容と離反のダイナミズム
基盤研究(B)	18H00662	大西克也	2,700,000	810,000	中国語における文法的意味の史的変遷とその要因についての総合的研究
基盤研究(B)	18H00708	大津透	1,100,000	330,000	日本古代国家における中国文明の受容とその展開―律令制を中心に―
基盤研究(B)	18H00720	佐川英治	2,000,000	600,000	東アジア史における「古代末期」の研究
基盤研究(B)	18H00739	福田正宏	3,000,000	900,000	東北アジアにおける温帯性新石器文化の北方拡大と適応の限界
基盤研究(B)	18H01099	村上郁也	2,800,000	840,000	周辺視野での事物の定位に動的信号がおよぼす影響に関する視覚心理学的研究
基盤研究(B)	20H01187	柳橋博之	1,400,000	420,000	前近代イスラーム世界における「組織」の成立に関する比較研究
基盤研究(B)	20H01188	藤原聖子	3,200,000	960,000	宗教現象学の形成と論争に関するトランスナショナル・ヒストリー
基盤研究(B)	20H01270	鎌田美千子	2,600,000	780,000	日本語教師養成・研修におけるライティング教育実践能力の育成―批判的思考を中心に―
基盤研究(B)	20H01752	唐沢かおり	3,200,000	960,000	「感じる心」の知覚と道徳的判断：哲学との連携による統合的理解の構築
基盤研究(B)	21H00487	秋山聰	4,700,000	1,410,000	形象の記述・記録についての比較美術史学的研究
基盤研究(B)	21H00656	葛西康徳	3,500,000	1,050,000	人文主義法学の比較法学史的再定位
基盤研究(B)	21H00959	今水寛	4,900,000	1,470,000	高精度な脳刺激法による運動主体感の解明
基盤研究(B)	21H00931	大坪庸介	4,600,000	1,380,000	関係価値と和解のミクロ・マクロ・ダイナミックスに関する研究

【助成金】

研究種目	課題番号	研究代表者	令和3年度直接経費	令和3年度間接経費	研究課題名
基盤研究(C)	21K00027	頼住光子	500,000	150,000	大乗仏教の存在論という視座からの道元の思想構造の総合的研究―比較思想的探求
基盤研究(C)	17K02777	小西いずみ	400,000	120,000	日本語諸方言における終助詞体系の対照研究
基盤研究(C)	18K00054	尾園絢一	650,000	195,000	古インドアーリヤ語の重複現在語幹の研究
基盤研究(C)	18K00057	大島智靖	700,000	210,000	ヴェーダ文献におけるソーマ祭の構造の基礎研究
基盤研究(C)	18K00120	三浦　俊彦	700,000	210,000	疑似的事例の分析による「芸術の定義」の論理的・経験的研究
基盤研究(C)	18K00437	藤井光	500,000	150,000	21世紀アメリカ小説における「偶然の土着性」について
基盤研究(C)	18K00524	小林正人	700,000	210,000	クルフ語語源辞典の作成とドラヴィダ語系統樹の再検討
基盤研究(C)	19K00020	古田徹也	600,000	180,000	思想史的研究に基づく「道徳的運」論の再構築
基盤研究(C)	19K00027	高山守	1,100,000	330,000	哲学の新たな展開の可能性に向けた、手話言語研究
基盤研究(C)	19K00172	増記隆介	1,300,000	390,000	平安時代の仏画と世俗画の境界をめぐる比較美術史的研究
基盤研究(C)	19K00242	長嶋由紀子	800,000	240,000	フランスの地域文化政策と文化観光―内発的発展による地方創生に向けた国際比較研究
基盤研究(C)	19K00466	塚本昌則	1,000,000	300,000	二十世紀フランス文学における散文の研究――経験とその表現
基盤研究(C)	19K00492	大宮勘一郎	700,000	210,000	ドイツ文芸における「古典」概念の再検討
基盤研究(C)	19K00493	阿部賢一	700,000	210,000	ボヘミア文学史の記述に関する研究
基盤研究(C)	19K00494	ケブラータサキ　シュテファン	400,000	120,000	Villa Aurora as Sanctuary: A History of German Literature in Los Angeles, 1995-2020
基盤研究(C)	19K00543	白井聡子	800,000	240,000	消滅の危機に瀕するダパ語方言の記述研究
基盤研究(C)	19K00544	三谷惠子	800,000	240,000	南スラヴ語史研究―半世俗的テクストの分析を通して―
基盤研究(C)	19K00624	肥爪周二	800,000	240,000	平安中期訓点資料による日本語音節構造史の研究
基盤研究(C)	19K00731	向井留実子	700,000	210,000	アカデミック・ライティングにおける適切な間接引用指導のための調査・研究
基盤研究(C)	19K00972	吉田伸之	1,200,000	360,000	江戸南部近郊地帯の分節構造―荏原郡六郷領を事例に
基盤研究(C)	19K01051	池田嘉郎	500,000	150,000	第一次世界大戦から1930年代までのロシアにおける身体――労働・医療・モラル
基盤研究(C)	19K01093	松田陽	900,000	270,000	考古発掘調査に伴う地域社会のアイデンティティの変化を検証する方法論構築
基盤研究(C)	19K01110	設楽博己	700,000	210,000	土製耳飾りの集成と分析による縄文時代の社会組織と儀礼へのアプローチ
基盤研究(C)	19K02075	高谷幸	1,000,000	300,000	スーパーダイバーシティ状況におけるエスニック境界の再編：大阪市M地区の事例
基盤研究(C)	19K03189	村本由紀子	1,000,000	300,000	集団規範の形成・維持に関わる自他の相互作用過程の探究
基盤研究(C)	20K00068	池澤優	700,000	210,000	死生学・応用倫理学などの学術領域における宗教性の調査と分析
基盤研究(C)	20K00123	吉田寛	1,100,000	330,000	デジタルゲームにおける没入（イマージョン）概念の美学的考察
基盤研究(C)	20K00143	小田部胤久	800,000	240,000	美学の古典賦活のためのモデル構築

研究種目	課題番号	研究代表者	令和3年度直接経費	令和3年度間接経費	研究課題名
基盤研究(C)	20K00168	芳賀京子	600,000	180,000	ヘレニズム後期からローマ帝政初期への転換期における彫刻工房の地域流派の研究
基盤研究(C)	20K00312	安藤宏	700,000	210,000	太宰治研究資料の情報ネットワークの構築
基盤研究(C)	20K00337	木下華子	1,100,000	330,000	古代・中世日本における廃墟の文化史
基盤研究(C)	20K00384	阿部公彦	700,000	210,000	１８世紀以降の英語圏文学等における「注意」「共感」と「言語運用能力」表象の研究
基盤研究(C)	20K00410	新井潤美	500,000	150,000	英国における「ロウワー・ミドル・クラス」と「郊外」の表象
基盤研究(C)	20K00434	後藤和彦	1,000,000	300,000	「戦後的思考」の文学的ディレンマについて――アメリカ南部文学と近代日本文学の相違
基盤研究(C)	20K00465	中地義和	800,000	240,000	ル・クレジオとアジア文化
基盤研究(C)	20K00491	山本潤	800,000	240,000	ドイツ英雄詩の受容史研究―英雄詩素材の歴史的アクチュアリティ
基盤研究(C)	20K00660	渡邉明	400,000	120,000	日英語の程度表現の微細構造および不定語のシステムとの関係
基盤研究(C)	20K01035	芦部彰	900,000	270,000	アデナウアー期西ドイツの西側結合とナショナリズム：ザールラント帰属問題に注目して
基盤研究(C)	20K01053	長井伸仁	800,000	240,000	19・20世紀転換期フランスにおける排外主義の変容―パリ地域での選挙の分析
基盤研究(C)	20K01054	橋場弦	1,100,000	330,000	古代ギリシアにおける「民主政の技法」とその伝播に関する政治文化史的研究
基盤研究(C)	20K01211	本田洋	800,000	240,000	現代韓国社会におけるローカル・コミュニティの再構築：「共同体作り」の事例から
基盤研究(C)	20K02109	井口高志	900,000	270,000	地域共生社会における「意思」と「主張」をめぐる人びとの「支援実践」の領域横断研究
基盤研究(C)	21K00067	菊地達也	1,100,000	330,000	イスラーム諸思想における「グノーシス主義」の比較研究
基盤研究(C)	21K00083	王寺賢太	1,000,000	300,000	フランス啓蒙における立法者問題：政治的自律の創設と社会・宗教・歴史
基盤研究(C)	21K00322	鈴木将久	700,000	210,000	魯迅作品日本語翻訳の総合的研究
基盤研究(C)	21K00430	平野嘉彦	1,100,000	330,000	世紀転換期プラハのドイツ語文学における認識論と言語思想―フランツ・カフカを例に
基盤研究(C)	21K00431	塩塚秀一郎	600,000	180,000	19世紀後半以降のフランスにおける〈集合住宅文学〉に関する研究
基盤研究(C)	21K00522	長屋尚典	700,000	210,000	コーパスを用いたタガログ語談話小辞の研究
基盤研究(C)	21K01610	島田竜登	1,100,000	330,000	18世紀アジア域内貿易と季節変動調整メカニズム：オランダ東インド会社を事例として
基盤研究(C)	21K01856	祐成保志	800,000	240,000	ベーシック・サービスとしての居住支援に関する社会学的基礎研究
基盤研究(C)	21K01992	金成垣	1,100,000	330,000	韓国におけるベーシックインカム構想と後発福祉国家のゆくえ
基盤研究(C)	21K03124	鈴木敦命	1,300,000	390,000	顔印象とそのメタ認知の正確性／偏りの個人差に関する実験心理学的検討
研究活動スタート支援	20K21919	野村悠里	1,100,000	330,000	製本術の工程分析に関する基礎的研究：東京大学所蔵「英国書史関係集書」を対象として
研究活動スタート支援	20K21920	矢口直英	1,100,000	330,000	イスラーム世界における『医学典範』注釈の展開と意義
研究活動スタート支援	20K22008	崎島達矢	500,000	150,000	明治初期の三府における近代的都市行財政の形成過程
研究活動スタート支援	20K22010	田瀬望	700,000	210,000	18世紀フランスにおけるフリーメイソン団と女性
研究活動スタート支援	20K22269	田中拓海	1,100,000	330,000	刺激－行動－結果関係に基づく記憶形成メカニズムの検討
研究活動スタート支援	21K19942	相松慎也	1,200,000	360,000	ヒューム道徳哲学と現代メタ倫理学を基盤とした道徳判断の心理的・言語的分析
研究活動スタート支援	21K20008	井上和樹	700,000	210,000	T. S. エリオットの仏教理解におけるオカルティズムの影響をめぐる研究
研究活動スタート支援	21K20037	太田圭	1,200,000	360,000	先史・古代の日本列島北部における生業基盤成立過程の解明―レプリカ法を中心に―
研究活動スタート支援	21K20038	金崎由布子	1,200,000	360,000	文明形成期におけるアンデス・アマゾン間の相互交流：ワヤガ・ウカヤリ川流域の事例
研究活動スタート支援	21K20283	岩谷舟真	1,000,000	300,000	ナッジの有効性の再検討：個人の情報処理スタイルや社会環境に着目して
若手研究	19K13049	木村迪子	400,000	120,000	近世前期における〈勧化〉―勧化本作家の活動に注目して―
若手研究	19K13183	熊切拓	500,000	150,000	アラビア語チュニス方言の口承文芸の言語学的研究
若手研究	20K12979	古宮路子	500,000	150,000	ロシア・アヴァンギャルド散文の変遷史：1920年代ソ連文学の歴史・理論・美学
若手研究	18K12366	長屋尚典	600,000	180,000	多角的なデータから明らかにするタガログ語の文末助詞の機能と音調
若手研究	18K18257	大足恭平	500,000	150,000	イランにおける交通体系の近代的再編と国家統合
若手研究	19K12960	志田雅宏	700,000	210,000	中世ユダヤ教文学におけるキリスト教世界への対抗的言説の複合的研究
若手研究	19K12978	松原薫	600,000	180,000	専門家と愛好家の音楽美学――18世紀のバッハ受容を手がかりに
若手研究	19K13328	谷口雄太	700,000	210,000	中世後期足利一門大名・守護の基礎的研究
若手研究	20K12778	平岡紘	1,100,000	330,000	20世紀フランス哲学を背景とする後期レヴィナスの自己論に関する分析的研究
若手研究	20K12780	富山豊	800,000	240,000	現代論理学に基づくフッサール数学論の再構築
若手研究	20K12802	一色大悟	700,000	210,000	近世日本の倶舎学文献に対する基礎的研究：東京大学所蔵資料を中心に
若手研究	20K12884	鄭仁善	1,000,000	300,000	冷戦期アメリカ映画の東アジア配給における日本の役割―韓国市場を中心に
若手研究	20K13023	石塚政行	700,000	210,000	バスク語の非定形副詞節の認知・機能言語学的研究
若手研究	20K13694	税所真也	600,000	180,000	高齢社会における日本と中国の家族のあり方：成年後見制度の運用からみた社会学的研究
若手研究	21K12847	渡辺優	1,100,000	330,000	西欧神秘主義および経験・体験概念をめぐる系譜学的研究
若手研究	21K12877	久保佑馬	800,000	240,000	16世紀南ドイツ対抗宗教改革とヴェネツィア派の芸術家たち
若手研究	21K12970	吉川斉	700,000	210,000	西洋近世「イソップ集」の諸相および伝播に関する文献学的総合研究
若手研究	21K12993	中澤光平	900,000	270,000	日本語諸方言の接触地域における系統関係の解明
若手研究	21K13128	内田康太	700,000	210,000	共和政ローマの終焉と帝政ローマの成立過程の研究
若手研究	21K13745	中山遼平	600,000	180,000	動的情報の予測処理にもとづく知覚意識の成立過程
挑戦的研究（萌芽）	20K20692	加藤隆宏	1,800,000	540,000	デーヴァナーガリー文字OCRの開発とサンスクリット文献データベースの構築

(2) 奨学寄附金

令和2（2020）年度

受入れ教員	寄附者名	寄附金額(円)	寄附目的
鈴木　舞	公益財団法人鹿島学術振興財団	1,500,000	中国遼代の金属工芸に関する考古学的研究―日本所蔵コレクション資料の活用―
佐川　英治	一般財団法人東アジア文化研究交流基金	250,000	東アジア文化研究交流基金　2020年度　若手研究者助成事業　「新出土史料を用いた後漢－初唐期における西南中国地域社会の変容に関する研究」の機関経理のため
池田　嘉郎	公益財団法人松下幸之助記念志財団	500,000	松下幸之助記念志財団助成金　「研究題目「ロシア革命・内戦期ウクライナの国制史的研究」」の機関経理のため
芳賀　京子	株式会社朝日新聞社	5,000,000	西洋古代美術の研究および振興
佐川　英治	公益財団法人三菱財団	800,000	公益財団法人三菱財団　令和2年度人文科学研究助成金「中国古代の立碑習慣と社会結合」の機関経理のため
下田　正弘	公益財団法人全日本仏教会	5,300,000	大蔵経データベース事業に関連する人文社会学研究活動支援のため
下田　正弘	一般財団法人人文情報学研究所	4,500,000	人文情報学を踏まえた次世代人文社会学研究のため
蓑輪　顕量	一般財団法人仏教学術振興会	700,000	SAT大正新修大蔵経テキストデータベース所携のテキストデータにおけるテキスト構造の分析と記述手法の検討、および、その成果の公開
蓑輪　顕量	公益財団法人克念社	500,000	文学部インド哲学仏教学研究室の「仏教、特に日本仏教の研究」に対する助成
赤川　学	公益財団法人SOMPO福祉財団	500,000	公益財団法人SOMPO福祉財団ジェロントロジー研究助成「認知症高齢者の地域生活をめぐる社会学的研究――成年後見人による生活支援を分析軸として」の機関経理として
東京大学大学院人文社会系研究科	安藤　宏（共著者：阿部公彦、沼野充義、納富信留、大西克也）	210,000	ホームカミングデイ文学部企画を書籍化した『ことばの危機 大学入試改革・教育政策を問う』の印税寄附
東京大学大学院人文社会系研究科	安藤　宏（共著者：阿部公彦、沼野充義、納富信留、大西克也）	集英社新書『ことばの危機 大学入試改革・教育政策を問う』 単価　739円 数量　550冊 金額　406,450円	ホームカミングデイ文学部企画を書籍化した『ことばの危機 大学入試改革・教育政策を問う』の印税から購入した書籍の物品寄附

令和3（2021）年度

受入れ教員	寄附者名	寄附金額(円)	寄附目的
村本　由紀子	公益財団法人日本科学協会	830,000	笹川科学研究助成「新型コロナウイルス感染症禍において人出増加についての情報は人々の外出行動にどのような影響を及ぼすのか」の機関経理として
赤川　学	公益財団法人上廣倫理財団	1,000,000	上廣倫理財団研究助成「成年後見人による「終活支援」に関する社会学的研究――キリスト教会と仏教寺院の比較から」の機関経理として
下田　正弘	早津　三知子	40,000,000	布施学術基金に対する寄附
六反田　豊	公益財団法人住友財団	750,000	コリア・コロキュアム事業に対する助成
祐成　保志	一般財団法人住総研	450,000	一般財団法人住総研　研究助成「持家取得からみる日本在住外国人の居住格差」の機関経理として
小島　毅	公益財団法人武田科学振興財団	500,000	杏雨書屋研究助成「日本医学史における林羅山の歴史的位置づけ―『本草綱目』受容に着目して」の機関経理として
松田　陽	株式会社朝日新聞社	5,000,000	日伊の火山に関する文化資源の研究および振興
下田　正弘	一般財団法人人文情報学研究所	4,500,000	人文情報学を踏まえた次世代人文社会学研究のため
蓑輪　顕量	公益財団法人克念社	500,000	文学部インド哲学仏教学研究室の「仏教、特に日本仏教の研究」に対する助成
祐成　保志	公益財団法人生協総合研究所	296,840	生協総研賞第19回助成事業
蓑輪　顕量	一般財団法人仏教学術振興会	1,000,000	「SAT大蔵経データベースを直接の資料として用いた研究」に対する研究助成
高木　和子	丸善雄松堂株式会社	13,200	国文学研究室所蔵和漢古典籍の研究
東京大学大学院人文社会系研究科	安藤　宏（共著者：阿部公彦、沼野充義、納富信留、大西克也）	120,000	ホームカミングデイ文学部企画を書籍化した『ことばの危機 大学入試改革・教育政策を問う』の印税寄附
藤原　聖子	公益財団法人上廣倫理財団	1,000,000	学術研究のため（「戦後日本における政教分離概念の形成」の機関経理として）
下田　正弘	公益財団法人全日本仏教会	2,900,000	大蔵経データベース事業に関連する人文社会学研究活動支援のため
下田　正弘	高崎　宏子	3,000,000	インド哲学仏教学研究室の発展のため
村本　由紀子	川島　直子	10,000,000	社会心理学研究室の発展のため
藤原　聖子	河底　英男	100,000	宗教学宗教史学研究室の発展のため
東京大学大学院人文社会系研究科長	堀　美奈子　ほか53名	4,951,000	人文社会系研究科支援のため（東大基金特別セミナー）※11月－1月入金分

5. 教育・研究支援組織

(1) 図書室

■蔵書数（令和4（2022）年3月末現在）

図書　1,151,143 冊（うち洋書　588,303 冊）
年間受入図書冊数　10,418 冊（うち洋書　5,262 冊）（令和3（2021）年度）
所蔵雑誌種数　14,217 種（うち洋雑誌　4,670 種）
年間受入雑誌種数　1,129 種（うち洋雑誌　569 種）（令和3（2021）年度）

■図書資料の蔵置

現在、文学部の蔵書は図書委員会の管理・運営の下で、以下の書庫や研究室に分散配架しているが、いずれも書架スペースの狭隘化問題を抱えている。この問題を解決するため、アジア研究図書館への図書移管および総合図書館自動書庫への製本雑誌移管を開始したが、図書資料の配置についても根本的に見直す必要がある。

1) 法文2号館図書室

おもに雑誌のバックナンバー、参考図書、本研究科授与の新制（1991 年度～）博士論文（課程博士）、マイクロ資料、本研究科・学部の教員著作などを配架。

2) 文学部3号館図書室

研究室図書の一部と叢書全集・史資料を配架。

3) 貴重書庫（法文2号館書庫内）

インド哲学仏教学・宗教学宗教史学・美学芸術学・日本史学・西洋史学・東洋史学・言語学・国語学・国文学・心理学の各研究室の貴重書を配架。各研究室等でも相当数の貴重書を保存。

平成15（2003）年度に新貴重書庫・準貴重書庫を新設し、スペース不足は解消された。また、保存環境についても、定期清掃の実施や温湿度管理の徹底、防虫剤の定期交換等により、大幅に改善されつつある。

4) 各研究室

研究室の図書資料は、法文1号館・法文2号館・文学部3号館・総合研究棟（弥生地区）・赤門総合研究棟の各研究室に配架。

5) 法文1号館書庫

各研究室の稀用図書、考古学関係の発掘調査書等を配架。

6) マイクロ資料室（法文1号館書庫内）

中国思想文化学・インド哲学仏教学・宗教学宗教史学・日本史学・東洋史学・西洋史学・国語学・国文学・中国語中国文学・インド語インド文学・スラヴ語スラヴ文学の各研究室及び次世代人文学開発センターのマイクロ資料を配架。

■サービス体制

1) 文学部3号館図書室

総合受付サービス窓口で、貸出・文献複写・現物貸借依頼受付、他大学・機関への紹介状の発行、各種申請の受付、及びレファレンスサービス等を行っている。

開室時間は、月曜～金曜の午前9時～午後9時（短縮期間中は午前9時～午後5時）、土曜の午前10時～午後6時（短縮期間中は閉室）。OPAC用パソコン4台、デジタル資料閲覧用パソコン1台、コピー機2台を設置。

2) 法文2号館図書室

主として、法文2号館図書室に配架された雑誌・博士論文・マイクロ資料の閲覧・複写・貸出サービスを行っている。

開室時間は、月曜～金曜の午前9時～午後5時30分（短縮期間中は午前9時～午後5時）。OPAC用パソコン3台、コピー機2台、マイクロリーダープリンタ2台を設置。個人閲覧席11席を整備したキャレルコーナーがある。

ここに本研究科・学部の図書業務（資料の受入・登録・製本・目録）を行う事務室がある。

■最近の利用状況

	令和2（2020）年度	令和3（2021）年度
・入館者数	5,682人	10,707人
・貸出冊数	9,708冊	11,816冊
・文献複写	38,600枚	58,995枚
・参考業務	1,365件	1,769件
・相互協力	1,793件	2,016件

■新型コロナウイルス感染症対応

2020年 4月 1日	開室時間短縮（午前9時～午後5時）、3号館図書室土曜閉室、学外者利用不可
2020年 4月 7日	臨時閉室
2020年 6月 1日	事前予約制による図書の貸出を再開（人文社会系研究科・文学部所属者の院生・学生対象）【活動制限指針レベル2への対応】
2020年 6月22日	事前予約制による図書の貸出、図書複写物の取寄せ等を再開（人文社会系研究科・文学部所属者対象）【活動制限指針レベル1への対応】
2020年 7月20日	2号館図書室の利用等を再開（人文社会系研究科・文学部所属者の院生対象）【活動制限指針レベル0.5への対応】
2020年 8月17日	事前予約制による図書の貸出、2号館図書室の利用等を再開（東京大学在籍者対象）
2020年 9月14日	事前予約制による3号館図書室への入室を再開（東京大学在籍者対象）
2020年10月 1日	平日夜間と土曜日の開室を再開、予約不要（東京大学在籍者対象）、学外ILL受付再開（2号館、3号館図書室所蔵資料のみ）
2021年 1月25日	3号館図書室平日の閉室時刻を午後8時に繰り上げ【活動制限指針レベル1への対応】
2021年 4月 1日	平日の閉室時刻を通常通り午後9時に変更、閲覧席の利用を再開【活動制限指針レベル0.5への対応】
2021年 4月28日	3号館図書室平日の閉室時刻を午後8時に繰り上げ、閲覧席の利用を停止【活動制限指針レベル準1への対応】
2021年 6月22日	3号館図書室平日の閉室時刻を通常通り午後9時に変更、閲覧席の利用を再開【活動制限指針レベルAへの対応】
2021年10月11日	研究室所蔵資料の学外ILL受付を再開

(2) 漢籍コーナー

漢籍コーナーは、文学部の各研究室が所蔵する「漢籍」（中国前近代資料）を集中配架・共同利用するために、1967（昭和42）年法文2号館2階に設置された（利用開始は1970年）。2004年2月に赤門総合研究棟6階に移転し、現在に至る。中国思想文化学・中国語中国文学・東洋史学・韓国朝鮮文化・インド哲学仏教学・言語学の6研究室が所有・購入する中国前近代資料（一部日本・朝鮮関係資料などを含む）、いわゆる漢籍資料を中心として、20 世紀前半頃までの中国関係資料も含めると総数10万冊を超える資料を所蔵している。また、小倉文庫（朝鮮語資料・朝鮮本）・瀧田文庫（日本禅籍）といったコレクションもあり、蔵書の中には孤本・稀覯本など貴重な資料も多く含まれている。

漢籍を伝統的な四部分類法で配架した「書庫」、貴重書を保管する「貴重書庫」のほか、参考図書等を備えた「閲覧室」があり、中国学を専攻する学生・教職員に研究・教育・学習の場として、文学部のみならず他学部や他部局、学外の学生・研究者にも利用されている。とりわけ近年、ごく一部の資料を除くほぼ全ての所蔵図書がOPACに登録されたため、学内他部局や学外からの利用者が増加している。また、上述の小倉文庫の朝鮮本については、2019年8月から東京大学学術資産等アーカイブズポータルにおいて画像のデジタルデータが公開されており（https://iiif.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/repo/s/ogura/page/home）、国内外の関連研究者等による一層の活用が期待される。

運営・管理は中国思想文化学・中国語中国文学・東洋史学・韓国朝鮮文化・インド哲学仏教学・言語学の6研究室の代表教員などで構成される「漢籍コーナー運営委員会」が行い、業務全般は教務補佐員2名が担当している。

2019年12月に初めて確認された新型コロナウイルス感染症は、間もなく日本にも波及し、その結果、2020～2021年度の漢籍コーナー運営もその影響を受けることになった。2020年度当初は暫時の閉室を余儀なくされたものの、東大全体の方針とも連動して再開した後は、感染予防対策を徹底し、開室時間の短縮や閲覧室の事前予約など感染状況に応じた柔軟な対策を講じてきた。この期間中も海外からの利用問い合せや複写依頼等が多く、それらにも可能な範囲で対応した。さらに関連研究室の購入図書や科研費購入図書を中心として両年度とも年間1,000 冊程度のペースで蔵書を受け入れた。既存の蔵書についても、文学部の予算補助を受け、損傷の激しい図書の補修を継続しており、この2か年度内には貴重書である明清版の修繕を進めることができた。

これほどの量と質を備えた漢籍専門の図書室を学部内に持つのは全国でも稀であり、明治以来の中国学の伝統を継承しつつアジア研究に力を入れてきた本学部ならではの施設ということができる。今後も引き続き文学部の研究教育拠点として漢籍コーナーの整備・充実に努めていかなければならない。近年は出版数の増加や電子資料の普及など「漢籍」をとりまく状況も変化しており、漢籍コーナーも外部利用者の増加や、デジタルデータの扱いなどに対する対応が求められている。そのため、漢籍を資産として管理・保全しながらも、資源として多様な学問分野の研究・教育に活用していくという、二つの責務をバランスよく果たしていくことが今後の課題となっている。

(3) 国際交流室

国際交流室は、1975年4月に発足した「外国人留学生相談室」を前身とし、1988年5月に、現在の「国際交流室」に改称された。同室は、国際交流委員会委員長を室長とし、留学生教育担当講師1名、主事員1名により構成されている。

国際交流室では、大学院人文社会系研究科・文学部への留学生（正規生、非正規生、交換留学生）の受け入れ、本部局に在籍する留学生の修学面・生活面でのサポート、外国人研究員の支援を行っている。

国際交流室が行う留学生支援制度としては、日本での生活や研究活動をスムーズに開始できるよう日本人学生がサポートするチューター制度、非母語で学位論文を執筆する留学生のための修士論文・博士論文日本語添削制度がある。

また、留学生、外国人研究員、教員の交流促進のための懇談会、日本の文化や歴史を学びつつ、参加者同士の親睦を深めることを目的とした留学生見学旅行を開催している。しかし、新型コロナウィルス感染症により、2020 年度及び2021年度は、両者の開催が中止となった。

コロナ禍の2020・2021年度は、留学生に対するメンタル面でのケアを重視し、個別の細やかな対応に努めた。特に、日本の水際対策により入国待機中の多数の大学院外国人研究生に対するケアとして、2021年9月22日（水）に、オンラインでの懇談会を行った。事前に、修学、入国、日本での生活等に関する質問を募り、それら全てに回答した上で、更に、有益な情報を提供することで、未渡日の留学生の不安解消をめざした。

［日本語教室の活動］

日本語教室では、各セメスターにおいて日本語科目を開講するほか、日本語集中講座、学習サポート等を実施している。日本語科目及び日本語集中講座においては、人文社会系研究科・文学部の留学生をはじめ、全学の留学生に学習の機会を提供している。2020年度は、日本語科目を計10科目、日本語集中講座を計6講座開講した。2021年度は、日本語科目を計8科目、日本語集中講座を計6講座を開講した。学習サポートにおいては、留学生の日本語学習上の疑問点に個別に対応し、日本語学習支援の充実を図っている。2020年度は、7月から翌年1月まで週2～4回実施した。2021年度は、5月から翌年2月まで週3回実施した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、日本語教室の授業及び

学習サポートも全てオンライン形式での実施となったため、留学生が円滑に日本語の学習ができるよう環境整備にも取り組んだ。

教　授　　**向井　留実子**　MUKAI,　Rumiko

２９　次世代人文学開発センター≪国際人文学部門≫　参照

准教授　　**鎌田　美千子**　MICHIKO,　Kamada

２９　次世代人文学開発センター≪国際人文学部門≫　参照

講　師　　**三宅　真由美**　MIYAKE,　Mayumi

1. 略歴

1995 年 3 月　　南山大学法学部法律学科卒業
1997 年 3 月　　名古屋大学大学院国際開発研究科国際開発専攻博士前期課程修了
2000 年 9 月　　朝日大学教育職員（～2001 年 3 月）
2001 年 4 月　　朝日大学留学生別科専任講師（～2010 年 3 月）
2010 年 4 月　　朝日大学留学生別科日本語研修課程専任講師（～2012 年 9 月）
2012 年 10 月　　信州大学経済学部講師（～2016 年 3 月）
2016 年 4 月　　東京大学大学院人文社会系研究科講師（～現在に至る）

2. 主な教育活動

(1)　留学生支援

大学院人文社会系研究科・文学部への留学生の受け入れ、本研究科・本学部に在籍する留学生に対する修学面及び生活面での支援等。

(2)　外国人研究員支援

外国人研究員の支援等。

◇　主要学内委員

国際交流委員会オブザーバー

3. 主な研究活動

(1)　小論

三宅真由美、「シンガポールの留学生政策―長期的経済成長を企図した留学生受入れモデル―」、日本学生支援機構、『留学交流』、2020 年 4 月号、2020.4、pp.18-22

(2)　研究テーマ

日本学術振興会　学術研究助成基金助成金　基盤研究（C）、三宅真由美、研究代表者、「シンガポールにおける経済開発政策としての留学生政策―『留学生』の位置づけの変容」、2018～2021

(4) 教育研究情報管理室

教育研究情報管理室（以下、情報管理室と呼ぶ）は、本研究科・本学部をとりまく以下の状況を踏まえ、2009 年度に設置された（情報管理室の設置に伴い、視聴覚教育センターと情報メディア室はその分室となった）。すなわち大学法人化に伴い中期目標・中期計画書や、その達成度等の評価判断の目安とされる現況調査表・教育研究実績報告書を定期的に作成し提出することが義務づけられた一方、社会からは教育研究に関わる各種情報を公開し、また教育研究内容の広報活動を推進することが強く要請されている。その要請に応えるために、情報管理室は、特に教育研究に関わる情報・資料等を部局として集積し、かつ電子データとして一括管理し、上記のような報告書・資料の作成作業の効率化を図るとともに、機密性の高い情報を管理する上での高度のセキュリティ対策を構築していくよう努めている。

2020～21 年度の業務としては、例年通り、授業改善アンケートの実施、博士課程修了者等進路先調査、教職就職者調査、学芸員就職者調査、文学部 HP に関する講習会（広報委員会との共催）、標準実績データベース入力講習会などを行い、2020 年度には『東京大学大学院人文社会系研究科・文学部　教育・研究年報 15（2018～2019）』を編集、刊行した。ただし、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大を受け、講習会はオンライン開催とし、これまで紙媒体で行っていた授業改善アンケートは 2020 年度 S セメスターから UTAS を利用したオンラインアンケートに改めた。また、授業や会議をはじめ、その他、様々な催事がオンライン、あるいはハイブリッド（ハイフレックス）形式で行われるようになり、そのための設備・機材整備や利用者サポートを、ネットワーク関係は分室である情報メディア室が、視聴覚機材関係は視聴覚教育センターが中心になって行った。

構成員

教育研究情報管理室

室　長　　佐藤宏之（考古学研究室教授）

講　師　　石川洋

主事員　　松原道子

A 視聴覚教育センター

講　師　　石川洋

特任専門職員　菅家健一

主事員　　木村京子

学術専門職員　今村加奈子

事務補佐員　小国浩一

B 情報メディア室

講　師　　西川賀樹

助　教　　大足恭平

主事員　　堂前香織

講　師　石川　洋　ISHIKAWA, Hiroshi

1. 略歴

1986 年 3 月　東京大学文学部東洋史学専修課程卒業

1986 年 4 月　東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻修士課程入学

1989 年 3 月　東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻修士課程修了

1989 年 4 月　東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻博士課程進学

1994 年 3 月　東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻博士課程単位取得のうえ退学

1994 年 4 月　東京大学文学部助手

1995 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科助手（漢籍コーナー担当）

2010 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科講師（教育研究情報管理室・視聴覚教育センター担当）

2. 主な社会活動

(1)　他機関での講義等

非常勤講師、関東学院大学法学部、「外国史 1・2」、2020.4～2022.3

(2)　学会

国内、中国社会文化学会、一般会員、2020.4～2022.3

国内、東方学会、一般会員、2020.4～2022.3

国内、史学会、一般会員、2020.4～2022.3

A　視聴覚教育センター

文学部視聴覚教育センター（以下、「センター」）の前身である語学ラボラトリーは、1964 年、図書館の「総合化」の一環として、語学教育と非文字資料の収集・利用を行うことのできる施設の設置と運営を総合図書館から委託された文学部が総合図書館 3 階に設置したものである。語学ラボラトリーは 1984 年に語学教育だけではなく視聴覚機器や視聴覚資料を活用した教育と研究全般を支援、推進する「視聴覚教育センター」に改められ、1986 年には総合図書館 5 階に

移転した。以来、総合図書館において、自習室・教室・編集室などを備えた施設としてのセンターを管理・運営し、視聴覚資料の作成・収集と利用提供などの全学向け業務を行うとともに、本研究科・学部の教育・研究活動に対する視聴覚面からの支援業務を行ってきた（教室等の視聴覚設備の整備、授業や催事での視聴覚面でのサポート、講演やシンポジウム等の録画とアーカイヴ化など）。

しかし、2014 年度から開始された総合図書館の大規模改修工事（「新図書館計画」）のため、2016 年 11 月にセンターはいったん閉鎖され、2017 年 1 月に事務室のみ法文 2 号館 2328 室に仮移転した。その後総合図書館との間でセンターの扱いについて協議が続けられたが、最終的に 2019 年にセンターは総合図書館を離れ、本研究科・学部に正式移転し、本研究科・学部向け業務に専念することが決定した。

なお、2009 年 4 月よりセンターは組織上、教育研究情報管理室の分室となっている。センター運営には教員で構成される視聴覚教育センター運営委員会があたり、業務はセンター職員 4 名（20 年度に 1 名増員）と教育研究情報管理室講師 1 名が担当している。以下、2020～2021 年度の業務状況について述べる。

(1) オンライン・ハイブリッド授業への対応

新型コロナウイルスの感染拡大により、2020 年度 S セメスターの授業は原則全てオンラインで行われた。20 年度 A セメスター以降、徐々に教室での授業が再開されたものの、大半の授業は、教室での授業を同時にオンラインでも配信するハイブリッド（ハイフレックス）形式で行われることになり、そのための機材準備と教員へのサポートを行った。機材面では、オンライン配信に必要な集音マイクや Web カメラなどを教室に設置し、2020 年度 A セメスターは 2 演習室、21 年度 S セメスターには 3 講義室・12 演習室、同 A セメスターには 6 講義室・16 演習室でハイブリッド授業が行えるようにした。教員へのサポートとしては、学期開始前ハイブリッド授業用機材の使用方法に関するンライン講習会を開催（20 年 9 月 17 日・21 年 3 月 29 日）したほか、希望により教員個別に機材の事前説明とテストを行った。学期中、特に学期はじめには教員から多くの問合わせ、サポート依頼を受け、対応に追われた。このようにハイブリッド授業のための業務が急増したことから、2020 年度途中に職員が 1 名増員された。

(2) 催事等のオンライン・ハイブリッド開催への対応

コロナウイルスの影響で、2019 年度末から 20 年度前半にかけて、学部で開催される最終講義や講演会、学会などの催事がほぼ全て中止となった。20 年夏以降徐々に再開されるようになったが、ほとんどがオンライン、もしくはハイブリッド形式での開催となった。センターでは、以前から、学部で行われる各種催事をアーカイヴ化するためビデオ撮影してきたが、20～21 年度は、撮影よりも、オンライン配信のために催事に関わることが多くなった。主なものでは、20、21 年度のオープンキャンパスとホームカミングデイ、21 年度の文学部公開講座を 1 番大教室からオンライン配信し、和歌山県新宮市との協力協定調印式（21 年 3 月 22 日）を教員談話室から、第 2 回熊野フォーラム（21 年 11 月 20 日）を 3 番大教室からオンライン配信した。19 年度は全て中止になった最終講義も、20 年度は 1 名の教員の最終講義が 1 番大教室からオンラインで行われ、21 年には 4 名の教員の最終講義が全てハイブリッドで行われた（1 名は伊藤謝恩ホールで、他は 1 番大教室で開催）。それ以外にも、学会、研究会、講演会といった学術的催事や、論文審査、会議などもオンラインやハイブリッドで行われるようになり、配信方法の相談や機材準備・サポートの依頼を受けた。

(3) 教室視聴覚設備整備

センターは本研究科・学部の教室の視聴覚設備の整備・保全管理、視聴覚設備・機器に関わるサポート（利用者への技術指導、機器の故障への対応など）を担当している。

設備改修では、2020 年度に法文 1 号館 112、214、219、319 教室、21 年度に 216、217、316、317 教室の視聴覚設備をデジタル化（HDMI 対応）し、また、20 年度に 112、219 教室、21 年度に 113、215、216、217、315、316、317 教室のプロジェクターを更新した。法文 2 号館 1 番大教室については 20 年度に音響機器の一部入替、21 年度にプロジェクター・スクリーンの更新を行った。

2020 年度からオンライン授業・ハイブリッド授業が導入され、それまで以上に、視聴覚設備・機器が必要とされ、利用されるようになった。本研究科・学部には 3 つの大教室を含め約 30 室の教室があり、その全てにスクリーン、プロジェクターなどの映像機器とスピーカーなどの音響機器が設置されている。設備の老朽化を防ぎ、PC・AV 機器の変化に対応するため設備更新が不可欠だが、加えて、2020 年度以来コロナウイルス感染拡大により、授業や大学で開催される催事の形態が変化してきており、今後その点も考慮して計画的に設備改修を進めていく必要がある。

保守点検としては、年 1 回業者による保守点検を行ったほか、定期的に職員による巡回点検・清掃を行った。

視聴覚設備・機器に関わるサポートでは、上述のようにハイブリッド授業や、オンライン・ハイブリッド開催の催事のためのサポートを行った。

(4) 視聴覚資料の収集と利用

センターは開設以来今日まで 10,000 点以上の音声・映像資料を収集、蓄積してきた。移転前は、これらの資料をセンター自習室において全学の学生・教職員の利用に供してきたが、移転後は、視聴設備や資料配架場所が確保できていな

いことに加え、著作権の問題もあり、所蔵資料の利用を停止している。近年、研究・教育目的の利用においても著作権法の遵守が強く求められているが、センター所蔵の視聴覚資料は長い期間に収集してきたものであり、現在の規定では利用が認められないものや限定的な利用しかできないものなどが少なくない。貴重な資料も多くあり、教員・学生からは利用再開が望まれており、現在の著作権法の規定をふまえた新たな利用方法（規則）を検討しているところである。また、催事等を撮影したビデオも蓄積されているが、一部は東大 TV で公開されているものの、公開や閲覧提供には著作権や肖像権などの問題があり、貴重な資料であるにもかかわらず十分に活用できていないのが現状である。また、資料整理が十分ではないことから、現在、資料整理とリスト作成を進め、旧メディアから現行メディアへの変換が必要な大量の資料の整理もできる限り進めている。アーカイヴ化は容易ではないが、持続的かつ重要な課題として取り組んでいる。

B　情報メディア室

情報メディア室は、文学部の教育・研究用計算機システムおよびネットワークの構築・運用・管理を行うことを目的として 1996 年に設立された。情報システムの運用を行って教育・研究・業務に必要な各種サービスを提供している。また、インターネット環境を円滑に利用できるようにネットワークの整備を行っている。CERT としても活動しており、各種セキュリティ対策情報の学部内への周知や情報セキュリティインシデントへの対応を行っている。その他、事務部や広報委員会と連携した情報システムによる広報活動の支援、文学部の各教員やプロジェクトの教育研究活動の支援等を行っている。

1. 情報システムの構築・運用・管理

教育・研究用計算機システム

教育・研究用計算機システムとして様々なサーバを管理・運用し、人文社会系研究科・文学部の構成員に対して電子メール、ホームページ（以下、HP）をはじめとする一般的なアカウントサービスを提供している。また、クラウドサービス等の導入も行っており、教育・研究・業務に有効な各種ツールについても提供している。

1) 文学部 Web サーバの運用

文学部公式 HP の Web サーバの運用を行っている。文学部公式 HP では、事務部や広報委員会、各研究室等からの発信情報があり、これらに対して共通の情報発信システムを提供している。また、研究室・個人 HP を公開するための Web サーバについても運用しており、ホスティングサービスを提供している。

2) 文学部メールの運用

クラウドサービスを用いて、文学部アドレスのメールやメーリングリストを提供している。標的型攻撃メールや不正アクセスが近年増加していることもあり、ユーザが安全にメールサービスを利用できるように各種の対策を行っている。

3) 文学部ドメインの管理

DNS サーバを運用し、文学部ドメイン l.u-tokyo.ac.jp の管理・割り当てを行っている。また、文学部 LAN におけるインターネットアクセスのために、DNS キャッシュサーバを運用している。

4) 文学部内データベースの運用

各教員の教育実績や研究業績をまとめ、点検評価に用いるためのデータベースシステムの運用管理を行っている。

5) グループウェアの運用

事務部からの情報発信や各研究室・部署で情報共有を行うためにグループウェアの運用管理を行っている。

6) 認証サーバの運用

無線 LAN や各種システムの認証を行うために、アカウント管理を行う認証サーバを運用している。

ネットワーク

人文社会系研究科・文学部の構成員が使用する主要な建物である法文 1 号館、法文 2 号館、文学部 3 号館、弥生総合研究棟、文学部アネックス、赤門総合研究棟、国際学術総合研究棟におけるネットワークの基幹部分の構築・運用・管理を行っている。

1) ネットワークの構築・運用

物理的なネットワーク配線、通信を中継するルータやスイッチ等のネットワーク機器を構築・運用し、研究室からキャンパス LAN である UTNET までの経路における通信サービスを提供している。サーバ等と同様に老朽化による故障を防ぐために定期的に機器の更新を行っている。また、機器の動作に異常がないか監視するシステムを導入して

おり、故障が発生した場合は常備している予備機への交換作業を行うことで、長時間にわたってネットワークが不通となることがないように対策を行っている。

有線 LAN を全部屋に配備している。また、無線 LAN についても文学部全館に配備しており、文学部・UTokyo WiFi・eduroam の 3 つのアカウントで使用することができる。

2) LAN・DMZ の管理

構成員が通常のインターネット利用で使用する LAN と学外に機器を公開するための DMZ の管理を行っている。VLAN や IP アドレスの割り当て等の管理を行っており、ファイアウォールによる適切なアクセス制限を実施している。

3) SSL-VPN サービス

自宅等の学外から文学部 LAN に安全に接続できる SSL-VPN サービスを提供している。

講　師　**西川　賀樹**　NISHIKAWA,　Yoshiki

1. 略歴

2005 年 3 月	横浜国立大学工学部電子情報工学科卒業
2005 年 4 月	東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻修士課程入学
2007 年 3 月	東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻修士課程修了
2007 年 4 月	東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻博士課程入学
2010 年 3 月	東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻博士課程単位取得退学
2010 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科助教（2015 年 3 月まで）
2012 年 7 月	理化学研究所計算科学研究機構客員研究員（2017 年 3 月まで）
2015 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科特任助教（2017 年 3 月まで）
2017 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科講師

2. 主な研究活動

研究領域　オペレーティングシステム・システムソフトウェア

2. 助教の活動

助教　大足　恭平　OASHI,　Kyouhei

在職期間　2020 年 4 月 ～ 現在

研究領域　地域研究（イラン）

6. 情報化と広報

(1) ＩＴ化

人文社会系研究科・文学部の情報化（IT 化）は過去 2 年間着実に進歩した。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対策としてオンライン授業・会議等を実施するために、教職員・学生に対して Web 会議ツールや LMS 等の使用方法を説明する講習会の開催や様々な問い合わせに対する情報提供を行った。また、これまでは全てのサービスをオンプレミスで提供していたが、一部のサービスについてはクラウドサービスを導入した。それにより授業・研究や業務でより多くのツールを使用することが可能となった。VPN による学内サービスの利用とともに学外からクラウドサービスを利用できるようになったことで、オンライン授業や在宅勤務への対応もさらに進んだ。また、利便性を向上させるだけでなく、学外からも安全にサービスを利用することができるようにセキュリティの強化も行った。

サーバやネットワーク機器等の更新も定期的に行っており、より高速で安定した IT インフラストラクチャの構築を進めている。対面・オンラインのハイブリッド授業やオンライン会議等も多く行われるようになったことで学内の通信量も増加した。そのため、全館整備している無線 LAN の更なる増設や 10G への回線増強等の学内ネットワークの強化も行った。

(2) 広報活動

人文社会系研究科・文学部の広報活動は広報委員会が中心になって行っている。主な活動は、1) 多言語化されたホームページによる情報発信、2) 文学部概要パンフレットの作成、3) 高校生向けのオープンキャンパスの企画・実行、4) ホームカミングデイの企画・実行、5)広報用カレンダーの作成、6) 全学広報との連携などであり、多岐にわたっている。

このような広報活動により、オープンキャンパスやホームカミングデイでは多くの方に参加いただいているが、さらに刊行物の発行やホームページの充実などにより、人文社会系研究科・文学部の活動が在校生、卒業生、一般の方々を問わず、広くご理解頂けるように努力を続けている。

＜2020・2021 年度オープンキャンパス企画＞　※ 新型コロナウイルスの影響により、オンライン開催

2020 年度

参加者数：オンライン研究室訪問 各研究室 1 枠約 20 名を 34 枠実施、模擬講義 約 281 名、特別企画 約 289 名
総計 1250 名（いずれも概数）

企　　画：1. オンライン研究室訪問　　全専修課程で実施（複数回実施の研究室も有）
2. 模擬講義　　「孟子か荀子か―人間観の二類型―」　　小島　毅（次世代）
3. 特別企画　　「東大に来て、私は変わった？～文学部の魅力を語る～」
司会　　：新井　潤美（英語英米文学）
登壇者　　：文学部生 3 名

2021 年度

参加者数：オンライン研究室訪問 各研究室 1 枠約 20 名を 18 枠実施、模擬講義 約 207 名、特別企画 約 186 名
総計 753 名（いずれも概数）

企　　画：1. オンライン研究室訪問　　参加可能な 18 専修課程で実施（授業期間中に実施の為）
2. 模擬講義　　「昭和の戦争と東大文学部」　　鈴木　淳（日本史学）
3. 特別企画　　「東大に入る前と入ってから、そして出てから　―文学部卒業生が語る」
司会　　：藤原　聖子（宗教学宗教史学）
登壇者　　：菊池　達也（イスラム学）
高岸　輝　（美術史学）
木下　華子（日本語日本文学（国文学））
オンライン参加：文学部卒業生 5 名

＜2020・2021 年度ホームカミングデイ企画＞　※ 新型コロナウイルスの影響により、オンライン開催

2020 年度

参加者数：約 256 名

企　　画：文学部が見てきた「女性と社会」
総合司会：　安藤　宏　　（日本語日本文学（国文学））
司　会　：　村本　由紀子　　（社会心理学）
登壇者　：　大西　克也　　（中国語中国文学）
赤川　学　　（社会学）
今水　寛　　（心理学）
野島（加藤）陽子　　（日本史学）
藤原　聖子　　（宗教学宗教史学）

2021 年度

参加者数：約 150 名

企　　画：「共感」と「分断」
1. 学部長挨拶　　秋山　聰　　文学部長
2. パネルディスカッション
司　会　：　藤原　聖子　　（宗教学宗教史学）
登壇者　：　小田部 胤久　　（美学芸術学）
亀田　達也　　（社会心理学）
楯岡　求美　　（スラヴ語スラヴ文学）
本田　洋　　（韓国朝鮮文化）

7. 社会連携・公開講座

(1) 布施学術基金公開講演会

布施学術基金公開講演会「東洋の文化」第28回

布施学術基金公開講演会は、故布施郁三博士から人文社会系研究科・文学部に寄付された布施学術基金による、もっとも中心となる事業の一つであり、「東洋の文化」という共通テーマで毎年1回開催されている。

令和2年5月に予定していた第28回講演会は、新型コロナ感染症のため、一年間延期となった。

令和3年5月20日午後5時から、本学名誉教授であり、東京大学高齢社会総合研究機構特任教授の秋山弘子先生（社会心理学）をお招きし、「長寿社会に生きる」と題して、Zoom ウェビナーによるオンライン講演を頂戴した。「人生二毛作」をキーワードに、大手企業の部長だった方が、定年後に地元の若手の専業農業者が耕した休耕地で雇用され、農業に従事している例などを紹介しながら、長寿社会のまちづくりについてわかりやすく解説していただいた。これまでの老後のイメージを一新するセカンドライフのあり方について、印象的なご講演であった。

(2) 東京大学コリア・コロキュアム

東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究専攻においては、教育研究活動を行うとともに、社会に対して当該地域に関する様々な情報を発信したいという希望のもと、2003年度から標記のコロキュアムを開催している。本コロキュアムは、激動を続ける韓国朝鮮およびこの地域をとりまく北東アジア情勢に対応し、あらたな提案を行ってゆくためには、同地域に関する理解を一層深めることが要請されるとの考えから企画されたものである。このような観点から、当コロキュアムでは韓国朝鮮および周辺地域に関わる様々な分野の専門家、外交官、官僚、政治家、研究者、社会活動家などを東京大学に招き、忌憚の無い意見表明をお願いし、質疑応答を行うことで理解を一層深める機会を社会に向けて創出してゆくことを目的としている。講演は年に数回行っている。講演の内容については、『東京大学コリア・コロキュアム講演記録』として年度ごとに発行している。なお、本コロキュアムは公益財団法人住友財団の助成事業として運営されている。

2019年末に発生した新型コロナウイルス感染症の国内での感染拡大にともない、2020～2021年度については本コロキュアムの運営も大きな変更を余儀なくされた。まず2020年度については、やむなく開催そのものを見送った。次に2021年度については、依然として対面での講演会実施が難しいなか、2年連続での開催見送りはどうしても避けたいとの判断から、Zoomを利用したオンラインでの同時配信という変則的な形で開催した。その実績は以下のとおりである。

第1回　2021年10月21日（木）　18時30分～20時
　講演者　：森平 雅彦氏（九州大学教授）
　講演題目：朝鮮時代の内水面漁撈とヒトの暮らし
第2回　2021年12月16日（木）　18時30分～20時
　講演者　：金 喜慶氏（韓国　慶北大学校助教授）
　講演題目：COVID-19拡散時期における大邱地域のプロクセミクス（proxemics）と地域性の構成
第3回　2022年1月13日（木）　18時30分～20時
　講演者　：金 星奎氏（韓国　ソウル大学校教授）
　講演題目：15・16世紀のハングル伝播様相
第4回　2022年2月10日（木）　18時30分～20時
　講演者　：野辺 陽子氏（日本女子大学准教授）
　講演題目：非血縁親子の動態から読み解く、韓国の＜血縁＞の現在
第5回　2022年3月18日（金）　18時30分～20時
　講演者　：河崎 啓剛氏（東京大学准教授）
　講演題目：韓国語と日本語の著しい相違点

(3) 常呂実習施設における公開講座／地域・社会連携

a　ところ公開講座

東京大学文学部では、附属北海文化研究常呂実習施設の所在する北海道北見市（旧・常呂町）において2000年より公開講座を開催している。現在まで通算では26回になるが、地元自治体と共催での公開講座としては25回開催している。講師は基本的に文学部の教員であるが、一部他研究科の教員にも参加していただき、幅広い話題提供を心がけている。最近では、従来の一般向け以外に、常呂高校に於いて高校生を対象とした講演もおこなっている。（講師所属は講座開催時のもの）

◆第24回　東京大学文学部公開講座

〈常呂高校特別講座〉

2020 年 11 月 6 日（金）　13:30‐14:40　北海道常呂高校（共催）

「近代技術の移転と自然環境　～富岡製糸場が教えてくれたこと～」

鈴木　淳（東京大学　大学院人文社会系研究科　教授）

〈常呂公開講座〉

2020 年 11 月 6 日（金）　18:30‐21:15　常呂町公民館

「朝鮮時代の国家と社会」

六反田　豊（東京大学　大学院人文社会系研究科　教授）

「高等学校での歴史教育の改編と地域の歴史」

鈴木　淳（東京大学　大学院人文社会系研究科　教授）

◆第25回　東京大学文学部公開講座

〈常呂高校特別講座〉

2021 年 11 月 12 日（金）　13:30‐14:40　北海道常呂高校（共催）

「古代ギリシア哲学から見た現代　―自然・魂・知性」

納富　信留（東京大学　大学院人文社会系研究科　教授）

〈常呂公開講座〉

2021 年 11 月 12 日（金）　18:30‐21:30　常呂町公民館

「「近代小説」の誕生　―「言」と「文」は一致するか―」

安藤　宏（東京大学　大学院人文社会系研究科　教授）

「調査は社会をどうとらえたか」

祐成　保志（東京大学　大学院人文社会系研究科　准教授）

b　「人文学における国際的地域・社会連携の推進」プログラムによる巡回特別展

人文社会系研究科では、2019年度より、東京大学未来社会協創推進本部登録プロジェクトである「人文学における国際的地域・社会連携の推進」プログラムを常呂実習施設を中心に実施している。2021年度には、同プログラムの関連事業として巡回特別展「オホーツク文化　―あなたの知らない古代―」を、本研究科と常呂実習施設が開催館と共に下記の日程で主催した。

特別展「オホーツク文化　―あなたの知らない古代」（横浜会場）

会期：2021年10月16日～12月26日、会場：横浜ユーラシア文化館

特別展「オホーツク文化　―あなたの知らない古代」（大阪会場）

会期：2022年1月15日～3月13日、会場：大阪府立近つ飛鳥博物館

この特別展は、常呂実習施設による60年以上に及ぶ北見市常呂町での考古学研究と地域連携の成果を広く発信するために開催したもので、開催にあたっては北見市をはじめとする10か所以上の道内の自治体・研究機関の協力を得るなど、大学が自治体等と連携して地域の学術文化資源の普及活用を図る機会としても機能した。特別展の具体的な成果は下記のとおりである。

横浜会場：入館者数6,823名、報道：新聞記事掲載13回、新聞連載6回、TVラジオインターネット取材4回（「ニコニコ美術館」https://ch.nicovideo.jp/niconicomuseumによるインターネット配信は、累計で25,000回を超えるアクセスがあった）

大阪会場：入館者数5,200名、講演会2回（聴講140名）、報道：新聞記事掲載3回、週刊誌記事1回、ラジオ取材1回

(4) 文学部公開講座

東京大学大学院人文社会系研究科・文学部では、これまで北海道北見市で行ってきた「ところ公開講座」を、より多くの方に参加いただけるよう 2011 年度から本郷キャンパスにおいても「文学部公開講座」として開催することとした。これは、大学院人文社会系研究科・文学部において行われている教育及び研究の成果を積極的に公開していくとともに、社会連携をより一層深めることを目的としている。

◆2020 年度は新型コロナウィルスの影響により開催中止

◆第 11 回東京大学文学部公開講座　　2021 年 6 月 26 日(土)　14 時-15 時 30 分

「認知機能と脳のネットワーク」

講　　師：今水　寛　（心理学研究室）

参加者数：約 90 名　　（法文 2 号館 1 番大教室から Zoom を用いた YouTube Live 配信）

(5) 和歌山県新宮市との地域連携「東大人文・熊野プロジェクト」

2017 年度から東京大学体験活動プログラムの一環として、人文社会系研究科担当の下に「～聖地熊野の歴史文化と自然を体験しつつ、新宮市の文化行政を学ぶ～」が開始され、コロナ禍により中断されるまで 3 年間続いた。この過程で、人文社会系研究科の留学生・大学院生の熊野研修や、教員によるシンポジウム等の開催等について、市長・教育長等と協議が重ねられ、「東大人文・熊野プロジェクト」が立ち上げられ、2019 年 1 月に第一回目の東大人文・熊野フォーラムとして「聖地と記述／記憶―熊野を中心に」が、国際熊野学会を牽引されてきた林雅彦明治大学名誉教授や学会代表委員の山本殖生氏らの参加を得て、本郷キャンパスにおいて開催されるとともに、2 月末には留学生／院生熊野研修＋若手フォーラムが新宮市において開催された。若手フォーラムにおいては留学生 4 名を含む 6 名の大学院生により、研究報告がなされ、コロナ禍のため現地参加者は限られていたが、活発な質疑が交わされ、参加院生 4 名の研修レポートは、現地新聞に全文掲載され話題を呼んだ。

2020 年度は新型コロナウィルス蔓延のため、予定されていた諸行事が中止されたが、新宮市との間でさまざまな企画が検討され、2021 年 3 月 22 日に「新宮市と東京大学大学院人文社会系研究科・文学部との連携協力に関する協定」が、大西克也研究科長と田岡実千年新宮市長との間でオンラインにより締結され、熊野地方についての研究の発展とそれによる地域振興、国際発信・交流の促進、学生留学生等の体験活動・研修、熊野地方の社会教育による地域活性化、文化財の研究保護等の協働等を目指すこととなった。また新宮市における活動の拠点として、文化複合施設丹鶴ホール内の熊野学研究センター内に東京大学文学部熊野プロジェクト新宮分室を設置することとなり、同年 11 月に、対面者登壇＋オンライン方式により第二回目の東大人文・熊野フォーラム「災いと救い：聖地の生成と変容」が本郷キャンパスにおいて開催された際に、藤井輝夫総長から田岡市長への分室看板譲渡式が行われた。同年 12 月には、地域連携助教ポストが新設され、助教が新宮市に年間 3、4 か月間常駐することとなり、地元との緊密な交流を推進することとなった。2022 年 2 月には教員研修および教員によるセミナーが新宮市で開催、その後も東大人文・熊野フォーラム「常呂と熊野―地域を繋ぐ試み」、3 年ぶりの第四回体験活動プログラム、二回目となる留学生/院生熊野研修＋若手国際フォーラム等、活発な連携活動が予定されている。

なお、こうした人文学を応用しての各種連携活動は、決して熊野地方に限定するものではなく、熊野を起点にしつつも、「羽黒と熊野」や「常呂と熊野」といった複数の地域を巻き込んでのフォーラム等も開催ないし準備されており、人文学の成果を応用・活用しての複数の地域の文化振興を目指しており、今後、連携地域の拡大も視野に入れている。